

第1号議案

2017 年度事業報告書

自 2017 年 4 月 1 日

至 2018 年 3 月 31 日

一般社団法人 電子情報通信学会

目 次

事業報告

1. 概況	1
2. 共通事業	2
3. ソサイエティ及びグループ事業	4
4. 支部事業	6
5. 選挙	8

事業報告（附属明細書）

I. 共通事業

1. 会議に関する事項	1
2. 出版に関する事項	2
3. 総合大会に関する事項	4
4. 選奨に関する事項	5
5. 会員に関する事項	10
6. 教育活動に関する事項	14
7. 国際活動に関する事項	15
8. 学会からの情報発信に関する事項	15
9. 規格調査会に関する事項	16
10. 創立100周年記念事業に関する事項	16
11. その他の事項	18

II. ソサイエティ及びグループ事業

1. ソサイエティ大会に関する事項	34
2. 国際会議に関する事項	35
3. 出版に関する事項	36
4. 選奨に関する事項	37
5. 研究会等に関する事項	45
6. ソサイエティ及びグループ会員に関する事項	47

III. 支部事業

IV. 2017年度役員及び代議員の構成

V. 2018年度役員候補者及び代議員の選挙

2017 年度事業報告

1. 概況

創立 100 周年にあたり、本会がコミュニケーションの夢とそれによって実現される豊かな未来社会に向けて挑戦し、革新的技術及びイノベーションを継続的に創出する学会として大きく飛躍することを目指し、以下の基本姿勢で活動を進めた。

1. 広汎な知が交流する場を作り、新たな学術領域をひらく
2. 社会課題の解決に貢献し、新たな社会のビジョンを作成する
3. 技術倫理の向上に努め、社会に向けて発信する

本会の事業は、学会全体事業（以下、共通事業という）、ソサイエティ及びグループ事業、支部事業の三つに大別されるが、特に本年度は創立 100 周年記念事業を軸に以下のような取り組みを行った。

(1) 創立100周年記念事業

実施した記念事業の概要を以下に示す。

- ① 記念式典・祝賀会の開催：2017年9月15日（金）@明治記念館（式典、祝賀会）
 - ・来賓：【式典】坂井総務副大臣、西銘経産副大臣、関文科省局長、大西日本学術会議会長、津田IEEE Japan Council Chair
 - 【祝賀会】佐藤日本工学会会長、横山電気学会会長、西尾情報処理学会会長
 - ・100周年記念懸賞論文表彰：ソサイエティごとに公募、最優秀賞、優秀賞を表彰
 - ・「電子情報通信学会マイルストーン」選定の紹介
 - ・「100年史」編纂の紹介
 - ・記念講演：末松東工大栄誉教授・元学長 「激変の時代から異質の将来へ」
- ② 「100年史」の刊行：447頁、8,640円
- ③ 「電子情報通信学会マイルストーン」の選定
本会に関わる偉業について242件を選定した。（記念楯贈呈、HP掲載）
- ④ 協賛募金実施（5,000万円目標）
維持員・一般法人への協賛金依頼、個人会員の募金依頼を行い、5,566万8千円（35機関：4,610万円、個人1,078名：956万8千円）が集まり、目標額を達成した。
- ⑤ 記念大会（ソサイエティ大会）開催：東京都市大学（2017年9月12日～15日）
- ⑥ 各ソサイエティ、支部ごとの独自イベント実施（講演会等）
- ⑦ 1917年の創刊号からの会誌の全ての記事の電子化を実施
- ⑧ バーチャル図書館の新規開設：絶版書目のコピーPDFのHPでの公開
- ⑨ アマチュア無線特別局開設
- ⑩ グランドデザイン検討推進

(2) システムグランドデザイン検討推進

2017年5月にグランドデザイン検討WGを設置し、会員サービス向上、学会コンテンツ活用、事務局業務効率化等を実現する学会の情報システム見直しのグランドデザインを進めた。特に、シンプル化を念頭に置いて、サービス委員会と連携して関連する制度・運用ルール等の変更を含めてシステム要件を検討し、検討結果を会員管理システム更改仕様に反映して2018年度開発を行うべくRFPを出した。

また、各種電子化コンテンツ活用システムの構築検討を進め、今後、会誌、国際会議論文、2年経過後の技術研究報告・大会発表論文などのオンライン版も含めたコンテンツサービスの展開方法の検討を進め、システム化の計画を策定した。

(3) 論文誌オープンアクセス化の影響評価

情報・システムソサイエティの英文論文誌は、2017年1月から先行してJ-STAGE上で無料オープンアクセスを開始したが、これによるアクセス数の変化や学会財務への影響等について、論文誌オープンアクセス化検討タスクフォースでフォローを継続した。2018年度初めには他のソサイエティについても方針を決定する予定。

(4) 技術研究報告の完全電子化サービス

以前から技報の電子化は完了しているが、通信ソサイエティと情報・システムソサイエティでは2018年度から冊子体での発行を無くして完全電子化によるサービスに移行するため、会員へのアナウンス等の準備を進めた。他のソサイエティでも同様のサービスの検討を進めた。

(5) 横断検索システム (I-Scover) 事業の終了

会員数の減少は財政基盤にも大きな影響を与えており、継続的かつ将来を見据えた恒久的な財務対策がここ数年の最重要課題となっている中、I-Scover についても、運用費用に見合う効果（会員の利便性向上、I-Scover 導入による収入増）が得られるかが問われ、導入効果測定を行った。その結果を踏まえ、会員メリットの最大化と、財政基盤の健全化の両面を熟慮した結果、本年度（最終運用日：2018年3月29日）をもってI-Scoverの運用を停止し、事業を終了した。

2. 共通事業

(1) 各種会議

2017年6月1日の定時社員総会において、篠原会長、安藤次期会長を代表理事とする2017年度役員体制を発足させた。理事会9回開催をはじめ、理事会傘下の各種委員会等を開催し、学会の円滑な運営を行った。2017年5月1日に創立100周年を迎え、創立100周年記念事業関連の各委員会及びその傘下WG、並びに協賛委員会等が活発に活動した。また、個別緊急課題に関してはタスクフォース（論文誌オープンアクセス化検討タスクフォース、I-Scover ビジネス化検討タスクフォース、グランドデザイン検討タスクフォース）で検討を進めた。

(2) 出版

本会の「実施事業」の柱である会誌発行事業については、2017年度は、合計291,800部（月平均24,300部）を発行配布した。創立100周年にあたり、5月号に「電子情報通信学会の100年」を掲載し、6,8,9,10,11月号を創立100周年記念特集として企画・発行した。12月号は創立100周年記念号として、記念式典・記念祝賀会、その他記念事業の概要を掲載した。

ハンドブック／知識ベース委員会は、第9次委員会において、コンテンツ充実化を進めた。また、本会ホームページに「バーチャル図書館」を開設、昭和初期に出版された「通信工学通俗叢書」シリーズをアーカイブ化し、無償公開を開始した。出版事業として単行本新刊1点を発行し、教科書シリーズとして新刊1点、重版4点を発行した。

(3) 総合大会

総合大会を2018年3月20日(火)～23日(金)に東京電機大学で開催した。本年度もプログラム委員会を組織して企画・準備を行い、大会の活性化、魅力向上を図った。また、前年度に引き続き、学生と企業の情報交換の場としてキャリア相談会を実施した。今大会では、全ソサイエティ合同によるWelcome Partyも開催し、企業会員との連携を強化した。参加者4,538名、公募講演数1,937件であり、成功裏に実施できた。

(4) 選奨

第 79 回功績賞を 5 名に、第 55 回業績賞イ号を 3 件 5 名に、第 55 回業績賞ロ号を 3 件 9 名に、第 2 回業績賞ハ号を 1 件 1 名に贈呈することを決定した。

第 74 回論文賞を和英論文誌 8 誌から選んだ 12 編に、第 11 回喜安善市賞をその中の最も優秀と認めた 1 編に贈呈することを決定した。

第 4 回末松安晴賞を 2 名に贈呈することを決定した。

第 80 回学術奨励賞を 51 名（基礎・境界ソサイエティ 8 名、通信ソサイエティ 29 名、エレクトロニクスソサイエティ 8 名、情報・システムソサイエティ 6 名）に対し贈呈した。

第 2 回教育優秀賞を 3 名に贈呈することを決定し、第 2 回教育功労賞を 9 名に贈呈した。

(5) 会員に関する事項

定款に基づき、名誉員に 5 名を推薦することとした。

規則に基づき、フェロー称号を 29 名に、シニア会員称号を 58 名に贈呈した。

会員数（名誉員・正員・学生員・維持員・特殊員）合計については、2017 年度末で 29,081 となり、前年度末から 670 の減少（うち個人会員数は、名誉員+4 名、正員-415 名、学生員+151 名）となった。事務局会員課のきめ細かな個別対応により減少数は抑えられてきているものの、正員の減少は続いている。

(6) 教育関連活動

JABEE の学部認定審査については、2017 年度も定常的な活動を行った。

本会、電気学会、情報通信学会からなる電気電子・情報系 CPD 協議会については、情報交換を中心とし、日本工学会の CPD 協議会・CPD プログラム委員会には委員を派遣して継続的に参画した。

小中高校生を対象とした科学教室は、2017 年度も会員及び大学等の協力の下に実施した。開催回数は 4 回、参加者合計は 483 名であった。

(7) 国際活動

12 の国際セクションのうち 2 つのセクションで講演会等が実施され、国際委員会による費用支援を行った。ヨーロッパセクションでは、例年通り、国際会議 ICTF2017 (4-6 July 2017, Poznan University of Technology, Poland, Poznan) を開催した。All Sections Meeting を 100 周年記念式典に併せて、大会企画セッションとしてソサイエティ大会期間中(東京都市大学)に開催し、意見交換・交流を行った。なお、海外会員は 2017 年度末 3,190 名と、全会員の 1 割以上を占めており、前年度の 3,092 名からほぼ同数を維持している。

(8) 情報発信

CEATEC 2017 と連携して、本会分野の課題を論じる特別シンポジウム(参加者数 449 名)、東京支部シンポジウム(参加者数 78 名)、研究発表会(参加者数 194 名)等を開催した。

(9) 規格調査会

規格調査会活動として、委員会議を 4 回、専門委員会及び小委員会を 52 回開催した。国際標準化に関して取り扱った IEC 文書は 210 件であった。

(10) 創立 100 周年記念事業

創立 100 周年記念協賛委員会は 2017 年 4 月に第 4 回を開催し、協賛募金は順調に進捗した。

創立 100 周年記念事業については、創立 100 周年記念事業実行委員会傘下の各委員会や WG で準備を進めた。100 年史刊行委員会では 100 年史を出版した。マイルストーン選定委員会は 242 件の偉業を選定し、公募 129 件を選定した。記念懸賞論文を選定し、学会誌では 2017 年 12 月号に創立 100 周年記念特集号を発刊した。また、2017 年 9 月 15 日に明治記念館で記念

式典、記念祝賀会を開催した。

(11) 外部機関との連携等

他機関・他団体等との連携については、電気・情報関連学会連絡協議会活動を継続した。関連学術団体等に対して 281 件の協賛・後援等を行った。モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)との相互協力関係をスタートした。また、総務省国際戦略局と本会役員 9 名による第 9 回意見交換会を開催し、情報交換した。

3. ソサイエティ及びグループ事業

2017 年度も、各ソサイエティ及びグループごとに、会員の研究成果の発表と議論の場を提供する事業を中心に、特色のある活動を推進した。

○基礎・境界ソサイエティ (ESS) は、本会関連の多くの研究分野を対象とし、その中でも基礎領域や境界領域での研究活動を支援し、新領域の創造と開拓を積極的に推進するという重要な役割を担っている。本ソサイエティは、この役割を意識したソサイエティ活動を基本路線として進めるとともに、2015 年度に実質的に開始した NOLTA ソサイエティとの共同運営体制を確立させて、共同事業の立案・実施なども積極的に進めた。

○NOLTA ソサイエティ (NLS) は、引き続きソサイエティ体制を整備した。英語での発信を基本としており、本年度は規程の英語化を進め、次年度から web にアップロードする予定である。また、NLS が主催する NOLTA シンポジウムの過去のプロシーディングスを整理し、NLS の web サイト上で公開した。会議開催後 1 年後よりオープンアクセスとして公開することとしている。

○通信ソサイエティ (CS) では、執行委員会、会員事業企画・運営会議、ソサイエティ編集会議、研専運営会議、各特別委員、それぞれにおいてソサイエティの活性化、会員サービス向上のための施策を進めてきた。2017 年度は、通信ソサイエティの基幹分野を担う 21 の研究専門委員会と新規分野を担う 7 の特別研究専門委員会が活発な研究会活動を行うと共に、収支構造の改善を目指し、2015 年度から引き続き技術研究報告 (技報) の完全電子化を中心とした研究会運営改革を進め、「技報アーカイブ」を新設するなど、電子化を推進した。学生、若手を含む会員同士の交流の場の提供を目的として Welcome Party をソサイエティ合同で開催し、会員サービスの向上に努めた。

○エレクトロニクスソサイエティ (ES) では、エレクトロニクスに関する材料、部品、デバイス、サブシステムの研究領域において、学会の活性化につながる新施策の検討及び具体化を進めた。2016 年度からは研究技術会議に 3 つの領域委員会 (電磁波基盤技術領域委員会、フォトニクス技術領域委員会、回路・デバイス・境界技術領域委員会) において、国際会議の承認権限の委譲など手続きの迅速化に加えて、各領域内で近接分野間の合同・連携企画が実施されている。研究会運営の改革に向け、一部の研究会にて技報電子化トライアルを実施し、アンケートや課題抽出を行い、その結果をもとに、今後の技報の電子化や研究会参加費の在り方等について議論を進め、改革を本格実施していく方向性を決定した。

○情報・システムソサイエティ (ISS) は、コンピュータによる情報処理技術、コンピュータ・通信・人間を融合したシステム化技術に関する基礎から応用までの分野を研究領域としている。ISS の役割は、会員に研究発表と交流の場を提供するとともに、情報技術分野の持続的な発展と情報社会での様々な問題解決に貢献することにある。ISS が同研究分野の日本での中心的活動母体であり続けるだけでなく、情報社会の健全な発展のために貢献してゆくために、2017

年度は、中長期計画に従って、①会員の研究プロセスに応じた研究資料の電子化による公表方法の検討とその試行、②社会的課題に対する情報発信、研専・論文誌・ソサイエティ誌の活性化、③会員サービスの充実、④ISSの運営体制の強化に重点を置き、活動を展開した。

○ヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）は、人を中心とした境界領域を扱っている。論文誌に採録した論文や研究発表の多くは工学の範囲を超え、生理学、心理学、認知科学、社会学、社会心理学、言語学、文化人類学など幅広い学術分野に関連している。2017年度には、学会で制定された研究会規程にしたがい、グループ運営規程を改正した。また魅力工学特別研究専門委員会を創設し新たな研究分野も開拓した。その他研究専門委員会等の活動報告書の書式統一と予算執行の厳格化などを実施した。

(1) ソサイエティ大会

- ・ソサイエティ大会を2017年9月12日(火)～15日(金)に東京都市大学で開催した。参加者2,826名、公募講演数は1,235件であった。
- ・FIT2017（第16回情報科学技術フォーラム）を情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同して、2017年9月12日(火)～14日(木)に東京大学で開催した。参加者1,505名、講演件数は469件であった。

(2) 国際会議

国内会場で3件、国外会場で4件の国際会議を開催した。

(3) 論文誌等出版

- ・和・英論文誌8誌のオンラインジャーナルを以下のとおり公開した。
 - ◇ 和文誌：掲載総ページ数：3,219ページ（参考：前年3,658ページ）
 - ◇ 英文誌：掲載総ページ数：9,747ページ（参考：前年9,340ページ）
- ・ソサイエティごとの電子ジャーナルとして、NOLTA(NOLTAソサイエティ：年4回)、ComEX（通信ソサイエティ：月1回）、ELEX（エレクトロニクスソサイエティ：月2回）をそれぞれ発行した。
- ・各ソサイエティ及びグループから、それぞれニューズレターやソサイエティ誌が出された。

(4) 選奨

- ・基礎・境界ソサイエティ/NOLTAソサイエティ：功労賞4名、貢献賞33名、Fundamentals Review ベストオーサー賞1名
- ・通信ソサイエティ：ソサイエティ論文賞11編、マガジン賞1編
- ・エレクトロニクスソサイエティ：ソサイエティ賞3件、レター論文賞1件、ELEX Best Paper Award 1件、招待論文賞1件、エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞12名
- ・情報・システムソサイエティ：ソサイエティ論文賞1編、活動功労賞9名、査読功労賞10名、優秀ポスター賞7名、船井業績賞1件、船井ベストペーパー賞3編、FIT論文賞7編、FITヤングリサーチ賞7名
- ・ヒューマンコミュニケーショングループ：ヒューマンコミュニケーション賞7件、HCGシンポジウム賞14件

(5) 研究会

各ソサイエティ、グループで開催された第一種研究会の開催数と発表件数は下記のとおり。（ただし共催、連催等の場合は、それぞれで重複集計。）

・基礎・境界ソサイエティ/NOLTAソサイエティ	114回	2,367件
・通信ソサイエティ	149回	2,937件

・エレクトロニクスソサイエティ	108回	1,905件
・情報・システムソサイエティ	130回	2,573件
・ヒューマンコミュニケーショングループ	20回	549件

(6) 会員数 (平成 27 年度末)

・基礎・境界ソサイエティ	5,221名
・通信ソサイエティ	10,270名
・エレクトロニクスソサイエティ	5,829名
・情報・システムソサイエティ	10,268名
・NOLTA ソサイエティ	226名
・ヒューマンコミュニケーショングループ	853名

4. 支部事業

国内 10 支部（北海道、東北、東京、信越、東海、北陸、関西、中国、四国、九州）は、各地域に密接した活動として、支部（連合）大会、各種講演会、シンポジウム、見学会、学生向け・小中高生向けのイベント、学生会活動、選奨等の事業を展開した。各支部の活動概要は以下のとおり。

(1) 北海道支部

- 一般事業：講演会 5 件を主催・共催・協賛。支部連合大会を共同主催。専門講習会等主催。
- 教育事業：応用物理学会企画の小中高生向けイベントの共同主催及び後援。大学が企画した工学系学生向けイベントの後援 2 件。インターネット協会企画イベント後援。
- 学生会事業：支部学生会主催講演会 4 回。学生会研究発表会（インターネットシンポジウム）開催、学生ランチ活動（会議、講演会、連合大会での交流会）実施。
- 選奨：学生奨励賞 11 名、学生会インターネットシンポジウム優秀発表賞 3 名、連合大会若手優秀論文発表賞 10 名

(2) 東北支部

- 一般事業：講演会 18 件、支部大会 1 件、共催・協賛事業 6 件、見学会 2 件、100 周年事業 1 件を実施。
- 教育事業：小中高生向け事業 5 件実施。
- 学生ランチ活動：東北大学学生ランチ活動。
- 選奨：学生優秀論文賞 2 名、学生優秀発表賞 3 名、学生ランチ活動奨励賞 1 名、優秀学生表彰 22 名。

(3) 東京支部

- 一般事業：100 周年記念講演会 1 回、シンポジウム 3 回、見学会 4 回等主催。総務省関東総合通信局及び CEATEC との連携を推進。
- 教育事業：子供科学教室 1 回実施。学校、企業、NPO と連携した共同主催の教育イベントを公募し 6 件実施。
- 学生会事業：講演会 1 回、見学会 1 回実施。学生会報の発行・配布・Web 公開。学生員の卒業研究論文及び修士論文の紹介、研究発表会開催。7 校の学生ランチによる講演会等実施。学生会運営委員会委員の活動証明書の発行の実施。
- 選奨：学生奨励賞 15 名、学生功労賞 6 名。

(4) 信越支部

- 一般事業：支部大会 1 回、講演会 2 回、100 周年記念フォーラム、専門講習会 1 回開催。
- 学生会事業：研究交流会 2 回開催。
- 選奨：学生奨励賞 13 名、ベストプラクティス賞 3 研究室

(5) 東海支部

- 一般事業：講演会 1 回、見学会 1 回、小中高校生向け理科教育講座 1 回、専門講習会 1 回開催。支部連合大会 1 回共催。
- 学生会事業：講演会 3 回、学生研究発表会 2 回、卒業研究発表会 1 回開催。
- 選奨：学生研究奨励賞 21 名、卒業研究発表会表彰 8 名

(6) 北陸支部

- 一般事業：講演会 2 回、シンポジウム及び講演会への後援 5 件、支部連合大会 1 回、100 周年記念事業特別講演会 1 回開催。
- 学生会事業：学生向け講演会 2 回、学生研究発表会 1 回開催。
- 選奨：学生優秀論文発表賞 25 名、優秀学生賞 11 名

(7) 関西支部

- 一般事業：講演会 3 回（うち 1 回は 100 周年記念行事）、見学会 1 回、講習会 4 回開催。
- 教育事業：講演会 1 回開催。学校、企業、NPO と連携した共同主催の教育イベントを公募し 3 件実施。
- 学生会事業：講演会 2 回、見学会 2 回、学生研究発表会 1 回開催。
- 選奨：学生会奨励賞 7 名、優秀論文発表賞 5 名、学生会功労賞 19 名

(8) 中国支部

- 一般事業：講演会 14 回（うち 6 回主催、8 回共同主催）、講習会共同主催 2 回、見学会 1 回、専門講習会 1 回、シンポジウム等の協賛 13 回、電気記念日行事共催、支部連合大会 1 回。創立 100 周年記念事業（基調講演及びシンポジウム開催、ケータイあわ〜どに合わせてパネル展示）。
- 学生会事業：学生向け講演会、見学会 6 回主催。学生ケータイあわ〜ど 2017 イベント。
- 選奨：連合大会奨励賞 21 名、優秀卒業生表彰（高校・高専・短大）56 校 93 名、学生功労賞 10 名

(9) 四国支部

- 一般事業：講演会 7 回、専門講習会 2 回、連合大会 1 回開催。セミナー等後援 4 件。
- 学生会事業：学生向け講演会 5 回開催。連合大会における学生員交流会実施。3 校の学生ランチが講演会や見学会等の活動を実施。
- 選奨：電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞 45 名

(10) 九州支部

- 一般事業：一般講演会 10 回開催。協賛・後援の講演会/シンポジウム 10 件。専門講習会 1 回、ワークショップ 1 回開催、支部連合大会 1 回。100 周年記念事業（特別講演会 2 回、パネルディスカッション 2 回、防災関連の展示、キッズプログラミング体験コーナーの開催）。
- 教育事業：子供の科学教室、ものづくり教室、科学体験プロジェクト等各 1 回開催。
- 学生会事業：学生会講演会、学生ランチ交流会等の実施。10 ブランチが講演会や交流会実施。
- 選奨：連合大会講演奨励賞 8 名、学生会講演奨励賞 13 名、連合大会貢献賞 1 名、成績優秀賞（学生）56 名、九州支部学術奨励賞 25 名

5. 選挙

2018年2月6日～3月6日に、Web投票により2018年度役員候補者及び代議員の選挙を実施した。2018年度代議員として109名が選ばれた。

以上

2017 年度事業報告（付属明細書）

I. 共通事業

1. 会議に関する事項（定款 第 4、6、9 章）

1. 1 2017 年定時社員総会

2017 年 6 月 1 日（木）午後 2 時から機械振興会館において 2017 年定時社員総会を開催した。代議員総数 105 名に対し、出席代議員数 83 名（委任状を含む）で、定款第 19 条に定める代議員総数の過半数に達した。佐藤会長を議長として以下議案を付議して、審議事項はいずれも原案どおり可決承認された。

- 第 1 号議案 平成 28 年度事業報告
- 第 2 号議案 平成 28 年度決算（審議事項）及び監査報告
- 第 3 号議案 公益目的支出計画実施報告及び監査報告
- 第 4 号議案 平成 29 年度事業計画
- 第 5 号議案 平成 29 年度収支予算
- 第 6 号議案 新理事・監事の選任（審議事項）

1. 2 理事会

年度内に 9 回の理事会を開催した。

1. 3 理事会傘下の委員会等の開催状況

- ・企画室：7 回
- ・選奨委員会：1 回、メール審議 2 回
- ・論文賞・学術奨励賞委員会：メール審議 3 回
- ・教育賞委員会：2 回
- ・フェローノミネーション委員会：1 回
- ・コミュニケーション委員会：2 回
- ・アクリディテーション委員会：3 回
- ・サービス委員会：4 回
- ・大会委員会：4 回
- ・編集連絡会：4 回
- ・出版委員会：0 回、メール審議 3 回
- ・ハンドブック／知識ベース委員会：3 回
- ・創立 100 周年記念事業協賛委員会：1 回
- ・支部会議：2 回
- ・財務委員会：3 回
- ・規格調査会委員会：4 回
- ・論文誌オープンアクセス化検討タスクフォース：4 回
- ・I-Scover ビジネス化検討タスクフォース：2 回
- ・グランドデザイン検討タスクフォース：6 回
- ・倫理委員会：1 回
- ・功績賞・業績賞委員会：2 回
- ・末松安晴賞委員会：1 回、メール審議 1 回
- ・シニア会員審査委員会：メール審議 1 回
- ・ロードマップ委員会：0 回
- ・男女共同参画委員会：0 回
- ・国際委員会：3 回、メール審議 1 回
- ・著作権管理委員会：3 回、メール審議 5 回
- ・会誌編集委員会：6 回
- ・教科書委員会：0 回
- ・創立 100 周年記念事業実行委員会：4 回
- ・I-Scover プロジェクト：2 回
- ・ソサイエティ連絡会：4 回
- ・研究会連絡会：4 回

1. 4 その他の会議等

・名誉員・歴代会長を囲む懇談会：2017年10月19日、機械振興会館 6D-1～2にて開催

2. 出版に関する事項

2. 1 会誌の発行状況（定款 第4条 イ号）

全会員に共通の場として重要なメディアである会誌は、2017年4月から2018年3月まで12冊、合計291,800部（月平均24,300部）を発行配布した。

2017年が創立100周年であることを記念して、5月号に「電子情報通信学会の100年」（略年表、利根川守三郎初代会長就任演説）を掲載した。また、6,8,9,10,11月号を創立100周年記念特集として企画・発行、12月号は創立100周年記念号として、創立100周年記念式典・記念祝賀会、及び各ソサイエティ・委員会等の記念事業の概要を掲載した。

電子化への対応としては、創立100周年記念事業の一環として会誌オンライン版を完成させ、会員であれば創刊号からすべての記事の閲覧が可能となった。また、iOS及びAndroidアプリも安定しており、毎月順調に会誌記事の配信を行った。

2017年度の会誌記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種 類	件数	ページ数	種 類	件数	ページ数
講 演	1	7	3月小特集		
編集長退任にあたって	0	0	(グラフアルゴリズムの最先端)	14	57
4月小特集			3月小特集		
(数理的手法の多様化・深化による通信システムへの新たなアプローチ)	7	41	(子供の科学教室に見るシニアの活躍——能力、技術の伝承と生きがいを考える——)	3	13
4月小特集			解 説	28	170
(サービス・製造プロセスのための人間センシングと可視化)	3	13	講 座	3	19
5月小特集			寄 書	0	0
(電磁界シミュレーション技術の進展)	6	31	回 想	1	5
6月創立100周年記念特集			学生／教養のページ	1	4
(「基礎・境界」が支えた100年、これからの100年)	20	108	オピニオン	1	7
7月小特集			ニュース解説	29	47
(テクノロジーが創る快適)	4	17	総 合 報 告	1	9
7月小特集			ソサイエティのページ	1	2
(デザインイノベーション——専門や業種を超えた課題解決に向けて——)	6	33	EIC 記事	2	3
8月創立100周年記念特集			情報ネット-今学会では-	0	0
(通信技術の進化と未来への展望——通信分野が目指す社会貢献と技術の将来像——)	20	111	規格調査会報告	0	0
9月創立100周年記念特集			男女共同参画のページ	0	0
(エレクトロニクスが創り出したもの、創り出すもの)	16	91	国際企画タスクフォース	0	0
10月創立100周年記念特集			学生会報告	3	17
(暮らしを豊かにする情報処理技術)	62	89	支部だより	0	0
			生涯教育	0	0
			予 定 目 次	12	2
			学会ニュース	0	0
			慶 賀	0	0
			追 悼 抄	3	3
			国際会議	21	8
			図書紹介	10	5

11月創立100周年記念特集 (今後のICT活用と社会の発展)	28	154	国内文献目次		4
12月創立100周年記念号 (創立100周年記念号)	32	87	図書寄贈一覧		18
1月特別小特集 (IEICE as an International Academic Society; IEICE Global Plaza Special Edition)	7	30	本会だより		12
1月小特集 (可視光通信の最新動向)	6	35	編集室	12	8
2月小特集 (マイクロ波・ミリ波フォトニクス 技術の新展開)	7	44	役員等口絵		111
2月小特集 (グローバル科学社会シリーズ —インド編—)	5	17	総会・選奨		2
			フェロー口絵		13
			会誌総目次		0
			学会編集室		0
			会報		7
			電子情報通信学会の100年		88
			会告	12	
			計		1,542
			巻頭言		12
			目次		36
			合計		1,590

*その他：広告（カラー、前付、後付等）76 ページ

2. 2 広告賞（定款 第4条 イ号）

1992年から実施してきた広告賞（1999年以前はカラー広告賞）については、その役割を終えたものとして廃止した。

2. 3 ハンドブック（定款 第4条 ト号）

（第8次）ハンドブック／知識ベース委員会から引き継いだ（第9次）ハンドブック／知識ベース委員会では、2017年度から新たに（第9次第2期）委員会として、知識ベースコンテンツの完成を目指し検討を行った。特に受領後年月が経過した原稿の公開に向けて、編内のコンテンツが70%程度の脱稿状況であっても積極的に進めることとした。また、公開後一定時間が経過した編に対して改訂の検討を行った。

「現代電子情報通信選書『知識の森』シリーズ」（オーム社委託出版）については、知識ベースの原稿を素材としつつ、必要であれば新規執筆も含めて再編集を行うことでWeb公開されている内容との差別化を図る方針の下、書籍化の検討を行った。

2. 4 単行本（定款 第4条 ト号）

重版1点300部を発行した。

また、創立100周年記念事業の一環として、本会ホームページに「バーチャル図書館」を開設、昭和初期に出版された「通信工学通俗叢書」シリーズをアーカイブ化し、無償公開を開始した。

また、持続可能な事業として委託出版を推進し、「情報ネットワーク科学シリーズ」（コロナ社委託出版）について、下記の新刊1点1,000部を発行、同シリーズは予定した全書目（全5巻）の刊行を完了した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	ページ数	部数
ネットワーク・カオス —非線形ダイナミクス、複雑系と情報ネットワーク—	2018.1.15	262	1,000

2. 5 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」(全 59 巻)(定款 第 4 条 ト号)

重版 3 点を発行した。(コロナ社委託出版)(昭和 55 年 8 月第 1 回配本以降既刊書目 52 点)

2. 6 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」(全 64 巻)(定款 第 4 条 ト号)

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための教科書シリーズとして新刊 1 点、重版 4 点を発行した。(コロナ社委託出版)

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	ページ数	部数
データ構造とアルゴリズム	2018.2.23	208	1,000

(2002 年 3 月第 1 回配本以降通算 35 点)

3. 総合大会に関する事項(定款 第 4 条 ロ号)

下記の期日・会場において 5 ソサイエティ(ヒューマンコミュニケーショングループは基礎・境界ソサイエティに含まれる)が合同して開催した。

期 日 2018 年 3 月 20 日(火)~23 日(金)

会 場 東京電機大学 東京千住キャンパス(東京)

参加者 4,538 名

懇親会 東京電機大学 100 周年ホール 参加者 71 名

(a) 企画セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ					合計
		基礎・境界	NOLTA	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
大会委員会セッション	9	—		—	—	—	9
ソサイエティ特別企画セッション	—	1	0	1	2	2	6
パネルセッション	—	0	†1	†5	0	0	6
チュートリアルセッション	—	2	0	3	2	1	8
依頼セッション	—	‡※8	0	※§11	§5	‡1	25
合計 (共催を含む)	9	‡※11	†1	※§†20	§9	‡4	54

‡ 基礎・境界と情報システムの共催企画 1 件を含む。

※ ヒューマンコミュニケーショングループと通信の共催企画 1 件を含む。

† NOLTA と通信の共催講演 1 件を含む。

§ 通信とエレクトロニクスの共催企画 1 件を含む。

(b) 公募セッション講演数

	ソサイエティ					合計
	基礎・境界	NOLTA	通信	エレクトロニクス	情報・システム	
一般セッション	223	34	907	305	341	1,810

シンポジウムセッション	14	6	#80	#23	8	131
合計	237	40	#987	#328	349	1,941

通信とエレクトロニクスの共催講演 4 件を含む。

4. 選奨に関する事項（定款 第 4 条 ホ号、へ号）

今年度の各選奨は所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり受賞者を決定した。

4. 1 功績賞（第 79 回）

鈴木 正敏（KDDI 総合研究所）
西関 隆夫（北陸先端大）
牧野 昭二（筑波大）
村瀬 洋（名大）
山中 直明（慶大）
以上 5 名

4. 2 業績賞（第 55 回）

【選奨規程第 9 条イ号】

（業績の 50 音順・敬称略）

業 績	貢 献 者 (所 属)
情報理論的に最適な符号構成の先駆的研究	山本 博資（東大）
新世代コンピュータアーキテクチャに関する研究開発	坂井 修一（東大）
超高速・高出力・高感度フォトダイオードの先駆的研究	石橋 忠夫（NEL テクノ） 中島 史人（NTT） 村本 好史（NTT）

【選奨規程第 9 条ロ号】

（敬称略）

業 績	貢 献 者 (所 属)
高速無線 LAN における Multiple-Input Multiple-Output (MIMO) 技術の研究と実用化	青木 亜秀（東芝） 足立 朋子（東芝） 行方 稔（東芝メモリ）
スマートメータ用無線通信システムに関する研究開発・標準化・実用化	原田 博司（京大） 児島 史秀（NICT） 神田 充（東芝）
複数ベンダの EPC ソフトウェアが動作可能なネットワーク仮想化技術の商用化	音 洋行（NTT ドコモ） 内山 靖之（NTT ドコモ） 尾花 和昭（NTT）

【選奨規程第 9 条ハ号】

（敬称略）

業 績	貢 献 者 (所 属)
アンテナ・伝搬における設計・解析手法に関する教育活動への貢献	手代木 扶（元通信総合研究所）

4. 3 論文賞 (第 74 回)

(分冊別掲載年月順・敬称略)

A	論文名 著者名 掲載年月	Analytical Stability Modeling for CMOS Latches in Low Voltage Operation 鎌苅 竜也、塩見 準、石原 亨、小野寺秀俊 (京大) 2016 年 12 月号 (EA)
A	論文名 著者名 掲載年月	Linear Quadratic Regulator with Decentralized Event-Triggering 中島 共平、小林 孝一、山下 裕 (北大) 2017 年 2 月号 (EA)
A	論文名 著者名 掲載年月	Zigzag Decodable Fountain Codes 野崎 隆之 (山口大) 2017 年 8 月号 (EA)
B	論文名 著者名 掲載年月	Plate-Laminated Waveguide Monopulse Slot Array Antenna with Full-Corporate-Feed in the E-Band Xin XU、広川 二郎、安藤 真 (東工大) 2017 年 4 月号 (EB)
B	論文名 著者名 掲載年月	Null-Space Expansion for Multiuser Massive MIMO Inter-User Interference Suppression in Time Varying Channels 岩國 辰彦、丸田 一輝、太田 厚、白戸 裕史、新井 拓人、飯塚 正孝 (NTT) 2017 年 5 月号 (EB)
B	論文名 著者名 掲載年月	NL-BMD: Nonlinear Block Multi-Diagonalization Precoding for High SHF Wide-Band Massive MIMO in 5G 西本 浩、平 明德、井浦 裕貴、内田 繁、岡崎 彰浩、岡村 敦 (三菱電機) 2017 年 8 月号 (EB)
C	論文名 著者名 掲載年月	A 20-GHz Differential Push-Push VCO for 60-GHz Frequency Synthesizer toward 256 QAM Wireless Transmission in 65-nm CMOS Yun WANG、桂木真希彦、岡田 健一、松澤 昭 (東工大) 2017 年 6 月号 (EC)
C	論文名 著者名 掲載年月	Efficient Analysis of Diffraction Grating with 10000 Random Grooves by Difference-Field Boundary Element Method 杉坂純一郎、安井 崇、平山 浩一 (北見工大) 2017 年 1 月号 (EC)
C	論文名 著者名 掲載年月	短絡スタブを用いた超広帯域帯域通過フィルタの小型設計と阻止域特性の改善 濱野 竜飛、馬 哲旺、大平 昌敬 (埼玉大) 2016 年 12 月号 (C)
D	論文名 著者名 掲載年月	複数等質テスト構成における整数計画問題を用いた最大クリーク探索の近似法 石井 隆稔、赤倉 貴子 (東京理科大)、植野 真臣 (電通大) 2017 年 1 月号 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	生態系モデルに基づくオンライン活動データの非線形解析 松原 靖子、櫻井 保志 (熊本大)、Christos FALOUTSOS (カーネギーメロン大) 2017 年 4 月号 (D)
D	論文名 著者名 掲載年月	異粒度データ分析のための非負値行列分解に基づく確率モデル 幸島 匡宏、松林 達史、澤田 宏 (NTT) 2017 年 4 月号 (D)

((A)、(B)、(C)、(D) : 和文論文誌、(EA)、(EB)、(EC)、(ED) : 英文論文誌、所属は:掲載時)
以上 12 編

4. 4 喜安善市賞 (第 11 回)

(敬称略)

論文名	Plate-Laminated Waveguide Monopulse Slot Array Antenna with Full-Corporate-Feed in the E-Band
著者名	Xin XU、広川 二郎、安藤 真 (東工大)
掲載年月	2017 年 4 月号 (EB)

以上 1 編

4. 5 末松安晴賞 (第 4 回)

(敬称略)

カテゴリ	受賞者 (所属)	研究・開発の題目
学術界貢献	新津 葵一 (名大)	低電圧・低消費電力時間分解能型 CMOS 集積回路技術の開拓とその医療応用への展開
産業界貢献	河村 圭 (KDDI 総合研究所)	H.265/HEVC の機能拡張に関わる研究・標準化・実用化

以上 2 名

4. 6 学術奨励賞 (第 80 回)

基礎・境界ソサイエティ：8 名

(50 音順)

受賞者	所属 (発表時)	講演題目	大会別	講演番号
伊藤 貴紀	阪大	離散事象システムにおける繰返し故障に対する共可診断性の検証	ソサイエティ	A-10-10
神戸 友毅	青学大	$\Delta \Sigma$ 変調を適応した TDC の検討	総合	A-1-12
木下 雅之	名大	車輻振動測定に基づく ITS イメージセンサ通信における通信路変動のパラメータ推定	総合	A-9-14
		ITS イメージセンサ通信における高速二眼カメラを用いた通信性能改善手法	ソサイエティ	A-9-7
多々良 真弓 美	東京理科大	Differences between Japanese and English Languages from the Viewpoint of Network Motifs	総合	N-1-17
寺尾 直樹	東大	LSI テストに向けた電源インピーダンス模擬	総合	A-1-3
内木 楓	東京理科大	Chaotic Synchronization Observed in Gap-Junctionally Coupled Neuron Model	総合	N-1-28
		Izhikevich ニューロンモデルにおけるノイズ電流印加による信頼性の上昇	ソサイエティ	N-1-15
中井 彩乃	京大	拡散 LMS アルゴリズム高速化の一検討	総合	A-8-11
延永 達哉	豊田中研	心電図の周波数スペクトルを用いたロバストな個人識別手法の提案	ソサイエティ	A-18-8

通信ソサイエティ：29 名

(50 音順)

受賞者	所属 (発表時)	講演題目	大会別	講演番号
秋元 浩平	東北大	ミリ波帯 WBAN のための簡易伝搬モデルを用いたユーザ間干渉量の評価	総合	B-17-15
		人体ブロッキングによる減衰量の測定に基づくミリ波帯 WBAN 間干渉の検討	ソサイエティ	B-17-31
板倉 洋	三菱電機	非接触コネクタを利用した高速伝送の冗長構成方法に関する検討	ソサイエティ	B-4-3
伊丹 豪	NTT	周波数選択板を用いた電磁シールドのマルチバンド化と低周波化に関する検討	総合	B-4-17
市川 潤紀	NTT	IoT リソース二次利用のためのコンテキスト生成手法の提案	総合	B-18-28

片山 由美子	三菱電機	複数 SAR 画像を用いた散乱体の高さ分離法のアンビギュエティ改善	総合	B-2-47
木村 拓人	NTT	モバイル環境向け動画配信におけるスループット予測法の一考察	総合	B-11-10
牛腸 正則	新潟大	高分解能到来方向推定法を用いた SAR Tomography の分解能改善に関する検討	総合	B-2-45
		高度が既知の複数の地表面を用いた SAR tomography 位相校正に関する検討	ソサイエティ	B-2-4
笹木 裕文	NTT	OAM 多重伝送におけるガウシアンビーム伝搬の解析	総合	B-17-4
		28GHz 帯における多重円形アレーアンテナを用いたガウシアンビーム伝搬特性の実験評価	ソサイエティ	B-17-29
佐野 誠	東芝	幅広面結合型スプリットリング共振器を放射素子とした小型アンテナの設計	総合	B-1-97
		固有モード解析による幅広面結合型スプリットリング共振器を放射素子としたアンテナの小型化設計	ソサイエティ	B-1-70
式田 潤	NEC	超多素子アンテナシステムにおける協調ビームフォーミングの特性評価	総合	B-5-95
		超多素子アンテナシステムにおけるビーム空間チャンネル推定の特性評価	ソサイエティ	B-5-41
白井 基	工学院大	スペクトラム圧縮伝送を用いたリソース制御のための PAPR 特性評価	総合	B-3-34
		スペクトラム圧縮伝送における適応等化による伝送品質改善効果	ソサイエティ	B-3-13
沈 志舒	KDDI 総合研究所	周辺センサデータを用いたスポット判定手法の評価	総合	B-18-15
菅 瑞紀	NTT	75GHz 帯屋内実測 CSI を用いた 1 タップ時間領域ビームフォーミングの特性評価	総合	B-5-110
角田 聖也	KDDI 総合研究所	E λ AN における周波数小区画分割管理による経路・変調方式・周波数割当てアルゴリズム	総合	B-12-14
		弱結合マルチモードファイバ伝送ネットワークにおけるリソース割当てアルゴリズムの一検討	ソサイエティ	B-12-5
相馬 大樹	KDDI 総合研究所	大容量 弱結合 10 モード多重伝送実験	ソサイエティ	B-10-43
谷口 諒太郎	新潟大	Consideration of the channel model based on measured parameters and 3GPP model for massive MIMO	総合	B-1-137
		20GHz 帯における屋外実験結果を用いたアナログ-デジタルハイブリッド型 Massive MIMO の性能評価	ソサイエティ	B-1-139
津川 翔	筑波大	ソーシャルメディアにおけるユーザのコミュニティを用いた投稿の拡散規模予測に関する一検討	総合	B-11-20
中嶋 宏昌	三菱電機	周囲との相互結合によるマルチビームアンテナの放射パターンへの影響	ソサイエティ	B-1-39
中村 篤志	NTT	1 μ m 帯モード検出 OTDR による マイクロバンド高感度検出技術の応用	総合	B-13-19
		1 μ m 帯モード検出 OTDR の長距離化とフィールド実験	ソサイエティ	B-13-9

野添 紗希	NTT	空孔構造を有する低クロストーク 125 μ m クラッド径 2LP モード 4 コアファイバ	ソサイエティ	B-13-18
林 佑樹	NEC	I/O バス無線化のための冗長符号化を用いた通信方式の評価	ソサイエティ	B-8-12
平嶋 一貴	三菱電機	宇宙監視向けレーダ制御計画作成方式の検討	総合	B-2-39
本間 寛明	KDDI 総合研究所	複数無線を利用した D2D 通信のシステムスループットに関する一検討	総合	B-17-21
三国出 彩乃	福井大	二項係数アレーを用いたエリア限定通信システム	総合	B-1-118
三田 大介	三菱電機	XG-PON N2a 対応 OLT 用 SFP+型光トランシーバ	ソサイエティ	B-10-59
宮本 健司	NTT	物理層機能分割基地局の下りリンクにおけるモバイルフロントホール光伝送データ量と無線伝送特性の実験評価	総合	B-8-44
		物理層機能分割基地局における低遅延シンボルレベル伝送方式の提案	ソサイエティ	B-5-42
山口 歌奈子	三菱電機	周波数・空間 2 次元ダイバーシチ法におけるプリコーディング行列の最適化に関する検討	総合	B-5-8
吉岡 翔平	NTT ドコモ	5G 低 SHF 帯 Massive MIMO デジタル BF 方式のためのチャンネル推定の検討	総合	B-5-96
若尾 佳佑	NTT	機械学習を用いた無線リソース制御における試行回数低減法の提案	総合	B-5-118
		戦略管理アーキテクチャ(WiSMA)における機械学習を用いた無線リソース最適化	ソサイエティ	B-5-85

エレクトロニクスソサイエティ：8名

(50音順)

受賞者	所属 (発表時)	講演題目	大会別	講演 番号
沖本 拓也	住友電工デバイス・イノベーション	400G 超コヒーレント伝送システムに向けた InP 系 90° ハイブリッド集積 p-i-n PD アレイの広帯域・高感度動作	総合	C-4-16
		L バンド波長帯受信に適したコヒーレントレシーバ向け InP 系 90° ハイブリッド集積受光素子	ソサイエティ	C-4-11
河村 由文	三菱電機	オンチップ広帯域プリマッチ回路を用いた 30W 級 X 帯 GaN 電力増幅器	総合	C-2-13
下川床 潤	三菱電機	FM チャープ信号の周波数検出の高速化手法	総合	C-2-103
		複数の高調波を利用した周波数検出方式の高精度化の原理検証	ソサイエティ	C-2-69
藤井 拓郎	NTT	1.3 μ m 帯 InGaAlAs 系直接変調メンブレン DR レーザアレイ	総合	C-3-21
藤江 彰裕	三菱電機	デジタル通信用光トランシーバを用いたアナログ RoF 伝送の実証	ソサイエティ	C-14-2
古市 朋之	東北大	広帯域ダイレクト RF アンダーサンプリング周波数センサにおける受信周波数特定のためのクロック周波数切り替え条件の検討	ソサイエティ	C-2-71
山下 青	埼玉大	固有モードに基づくニューラルネットワークによる BPF の無調整設計	総合	C-2-39
		順・逆モデルのニューラルネットワークを併用した BPF 自動設計法	ソサイエティ	C-2-52
吉野 長浩	東北大	28GHz 帯ダイレクト RF アンダーサンプリング受信用サンプルホールド CMOS IC	ソサイエティ	C-2-15

受賞者	所属 (発表時)	講演題目	大会別	講演 番号
會田 詩織	日本女子大	IoT システムによる人とエレベータの協調動作	総合	D-23-17
荒谷 智広	東京理科大	ブロック単位で露光パターン制御可能なイメージセンサを用いた明るさ・動き適応撮像方式	総合	D-11-44
児玉 祐樹	名大	低解像度顔画像群を用いた集団の注目位置推定に関する予備的検討	総合	D-12-8
小松 滉治	名大	2 値パターンによる多視点画像の圧縮表現の検討	総合	D-11-40
澁谷 直大	三菱電機	スパースコーディングによる画像特徴記述と複数人物追跡への応用	総合	D-11-32
前田 高志	名大	視認性向上のための歩行者への点滅光照射の初期検討	総合	D-12-19

4. 7 教育優秀賞 (第2回)

(50音順・敬称略)

氏名(所属)	教育関連成果のタイトル
蟹江 知彦 (蟹江技術士事務所)	電子情報通信分野における実践技術者育成への貢献
砂原 秀樹 (慶大)	産学協働による高度セキュリティ人材育成プログラムの開発と実施
塙 雅典 (山梨大)	工学教育における反転授業の先駆的取り組み

計 3 名

4. 8 教育功労賞 (第2回)

(50音順・敬称略)

氏名(所属)	教育関連成果のタイトル
生越 重章 (香川大)	JABEE 審査員としての国際的に通用する技術者育成への貢献
尾上 孝雄 (阪大)	科学教室と国外における論文の書き方セミナーでの長年に及ぶ貢献
國分 泰雄 (横浜国大)	フォトニクス分野の研究者・技術者の教育・育成に関する貢献
篠原 真毅 (京大)	ワイヤレス電力伝送分野の技術者育成に関する貢献
中島 悠太 (阪大)	関西支部 ICT 基礎講座「画像処理講座」への貢献
平野 拓一 (東工大)	電磁界シミュレーションの原理の教育における貢献
堀 俊和 (福井大)	アンテナ伝搬基礎講座の創設および講師としての貢献
村上 恭通 (大阪電通大)	関西支部 ICT 基礎講座「アルゴリズムから学ぶ暗号」への貢献
山中 宏治 (三菱電機)	学生マイクロ波回路設計試作コンテストへの貢献

計 9 名

5. 会員に関する事項 (定款 第3章)

5. 1 名誉員の推薦

定款の定めにより下記の5名を名誉員に推薦した。

- 荒木 純道 (東工大)
- 岡本 龍明 (NTT)
- 澤谷 邦男 (東北大)
- 中沢 正隆 (東北大)
- 福島 邦彦 (ファジィシステム研究所)

5. 2 フェロー称号の贈呈

[基礎・境界ソサイエティ：4名]

贈呈者氏名	貢献内容
太田 和夫	証明可能理論を核とした暗号基盤技術の研究
高橋 篤司	集積回路物理設計における最適化技術に関する研究
蜂屋 弘之	超音波を用いた消化器疾患における定量診断技術の研究・開発
堀尾 喜彦	脳型情報処理とそのハードウェア実現技術に関する研究

[通信ソサイエティ：9名]

贈呈者氏名	貢献内容
伊東 匡	サービス変革を支えるネットワークシステムの研究と技術開発推進
岩井 誠人	無線通信分野における電波伝搬およびその応用技術の研究
岩田 淳	SDN/NFV ソリューション技術に関する研究開発・実証・商用化
杉山 隆利	衛星通信及び移動通信における信号重畳伝送技術の研究開発
陳 強	アンテナ・誘電体に対する電磁界の数値解析法の高速度と高精度化
中里 秀則	通信品質制御技術の研究及び学会論文誌編集活動
中村 寛	第3・第4世代携帯電話及びVoLTEシステムの研究開発と標準化の推進
成瀬 央	光ファイバひずみ計測技術とその応用に関する研究開発及び実用化
藤井 輝也	広帯域移動通信統一伝搬モデル構築と国際標準化への先導的取組み

[エレクトロニクスソサイエティ：5名]

贈呈者氏名	貢献内容
佐々木伸夫	SOI構造FETのためのデバイス物理およびレーザ結晶化技術の研究
二本 正昭	磁性薄膜および高密度磁気記録技術
鈴木 扇太	高密度集積型石英系プレーナ光波回路に関する研究開発
藤島 実	超高周波CMOS集積回路の先駆的研究
村岡 裕明	垂直磁気記録の高密度化のための磁気記録機構の研究

[情報・システムソサイエティ：11名]

贈呈者氏名	貢献内容
伊藤 彰則	音声情報に関連したマルチメディア情報処理の研究
大町真一郎	高速・高精度パターン認識技術とその応用
角所 考	ノンバーバル情報に基づくインタラクション状況認識に関する研究
金川 信康	ディペンダブルコンピューティングシステムの研究開発と実用化
阪口 豊	ヒト感覚運動メカニズムの計算論的研究
尺長 健	固有空間を用いた顔画像処理に関する研究
杉山 将	機械学習の理論構築, アルゴリズム開発, 実世界応用
田中 弘美	視触覚情報メディアおよびインタフェースに関する先駆的研究と教育
中尾 康二	サイバーセキュリティにおける研究分野の開拓ならびに国際標準化
中島 康彦	命令区間の特徴を利用する高性能計算機構成方式に関する教育研究
中野 浩嗣	並列分散システムのためのアルゴリズム技法に関する研究

5. 3 シニア会員称号の贈呈

[基礎・境界ソサイエティ：10名]

佐々木邦彦 黒川 弘章 澤田 宏 山口 匡 澁谷 利行
松川 真美 木村 光宏 高島 克幸 池田 誠 及川 靖広

[通信ソサイエティ：21名]

Abolfazl Mehbodniya 笠原 正治 宮村 崇 Michael Logothetis Piotr Zwierzykowski
齋藤健太郎 鎌村 星平 工藤 栄亮 平野 章 藤井 威生
田久 修 河東 晴子 松井 健一 岡崎 義勝 桐葉 佳明
平松 淳 辻 ゆかり 前田 英樹 亀田 卓 渡邊 均
阪口 啓

[エレクトロニクスソサイエティ：7名]

日暮 栄治 那須 秀行 向原 智一 水谷 浩 長谷川淳一
三村 秀典 木村 秀明

[情報・システムソサイエティ：20名]

波部 斉 伊藤 大雄 井上 浩明 工藤 峰一 伊藤 靖朗
福水 健次 福岡 豊 中島 一樹 加藤 直樹 金山 博
中山 祐貴 小早川 健 大塚 和弘 後藤田 中 藪田光太郎
東本 崇仁 倉山めぐみ 河村 圭 朝倉 宏一 中村 宏

5. 4 会員の現況

2007年度から実施している、(1)年会費の前納制、(2)銀行(ゆうちょ銀行含む)での自動引落を利用した場合の年会費の5%割引の会員の便宜と引落の精度を上げるため、メール等で事前周知を行った。会員数の減少に対する取組みとして、11月末の次年度会費請求前に、宛名当たらずで、返戻された会員に対して、新住所等の情報依頼を電子メールで行い、会員資格喪失会員の軽減に務めた。そのため、2017年度末の会員数の減少は2016年度との前年度末と670名の差となった。

また、継続的取組みとして、(1)各学生員に対して学生員から正員への移行時の2年間年会費減額サービスの周知、(2)会費滞納会員に対して継続的な会費請求の実施、(3)外国籍を有し、かつ海外に在住する正員/学生員の年会費について、シスターソサイエティ協定等に基づく割引の適用を行った。

(1) 会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 []内はフェロー会員数

下段：()内は当年度会費未納者を除いた年度末会員数

会員種別	名誉員	正員	学生員	特殊員	維持員	合計
2016年度末 会員数	94 [57]	24,722 [810] (23,261)	4,517 (4,240)	294	124	29,751[867] (28,013)
2017年度末 会員数	96 [64]	24,115 [821] (22,481)	4,457 (4,136)	291	122	29,081[885] (27,126)
前年度末との差	2 [7]	-607 [11] (-780)	-60 (-104)	-3	-2	-670[18] (-887)

(注) 名誉員の島田禎晉は8月19日、坂井利之は8月16日、清水 司は10月21日、秋山 稔は12月15日、熊谷信昭は2018年1月21日、晝馬輝夫は2018年3月29日に逝去した。

(2) 各支部における年度末会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 []内はフェロー会員数

下段：()内は当年度会費未納者を除いた年度末会員数

支部	会員種別	名誉員	正員	学生員	特殊員	維持員	合計
北海道		2 [2]	396 [13] (381)	92 (87)	5	4	499 [15] (470)
東北		9 [3]	742[46] (718)	128 (124)	14	0	894[49] (851)
東京		64 [43]	13,458 [527] (12,876)	1,511 (1,445)	162	87	15,282 [570] (14,385)
信越		1 [1]	373 [8] (359)	99 (95)	12	3	488 [9] (455)
東海		6[4]	1,453 [45] (1,387)	314 (304)	31	11	1,815 [49] (1,697)
北陸		0	415 [4] (390)	124 (120)	5	0	544 [4] (510)
関西		12[10]	2,823[117] (2,691)	560 (529)	28	13	3,436[127] (3,232)
中国		0	743 [17] (704)	167 (159)	9	0	919 [17] (863)
四国		1 [1]	351 [7] (326)	71 (69)	4	1	428 [8] (391)
九州		0	1,105[29] (1,029)	350 (328)	15	3	1,473[29] (1,357)
海外在住		1	102 [4] (96)	4 (4)	6	0	113[4] (101)
Overseas		0	2,154 [4] (1,524)	1,036 (877)	0	0	3,190 [4] (2,401)
合計		96 [64]	24,115[821] (22,481)	4,457 (4,136)	291	122	29,081[885] (27,126)

5. 5 学生事業に関する事項（定款 第4条 へ号）

(1) 会誌「学生会報告」欄の掲載記事

各支部学生会の活動状況等を会誌「学生会報告」欄に掲載した。

- ・2017年7月号：2016年度各支部学生会事業報告
- ・2018年2月号：各支部・学生ランチ学生員の感想

(2) 学生員の入会勧誘

各支部において学生員勧誘、学生ランチ設置校募集が行われた。

*2016年2月からPR用資料については、ホームページ「学生のひろば」に掲載して、各支部で利用することとした。

(3) 学生ランチについて

ホームページ「学生のひろば」に学生ランチ設置校の活動紹介記事及び設置申込みから報告書作成までの資料、流れを掲載し、学生ランチ設置校の拡大を図った。

支部活動として実施するため、設置校の申請、報告を各所属支部を通じて受け付けた。

6. 教育活動に関する事項（定款 第4条 口号、ハ号、へ号）

教育関連サービス（生涯教育の意味の検討、活性化、内容のアップデート、CPDの啓発・利活用、電子通信分野へ子供への興味を持たせる教育の検討などを含む）に関しては、サービス委員会の所掌として以下のような活動を行った。

6. 1 学会主催の技術講座に関する事項

現状の生涯教育環境を踏まえて見直しを図る必要があるが、検討は進んでいない。

6. 2 技術者教育認定活動（日本技術者教育認定機構：JABEEの一員としての活動）

JABEEの学部認定審査については、2017年度も定常的な活動を行った。JABEE本体へ委員を派遣してJABEEの運営に協力するとともに、学部プログラムの審査を電気学会、情報処理学会と連携して実施した。

6. 3 技術者の継続的な教育・能力開発

CPD情報の管理については、電気学会・情報通信学会と連携した試行システムから、よりコスト効率のよいASP型システムへの切り替えを2015年10月に行って以来、2017年度も運用した。また、本会、電気学会、情報通信学会からなる電気電子・情報系CPD協議会については、情報交換やCPD制度の有用性訴求に関する連携を中心とした活動を行うこととしているが、2017年度は特段の活動はなかった。

我が国においてCPDプログラムを中心的に行っている日本工学会のCPD協議会・CPDプログラム委員会に、委員を派遣して継続的に参画した。

6. 4 小中高校生を対象とした科学教室

小中高校生を対象とした科学教室は、子供の科学に対する関心を醸成するための活動の一環として1996年度より実施してきた。2017年度も会員及び大学等の協力の下に実施した。開催回数は4回、参加者合計は483名であった。

また、本活動を支えるため、2002年度から募金活動を開始し、2017年度（2018年3月末現在）は、127件（個人127件）、約73万円の協力を得て有効に活用させて頂いている。

2017年度の活動状況について以下に示す。

題 目 ・ 講 師	開催年月	参加数
科学教室：埼玉大学工学部（さいたま市） テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界（埼玉大会場） 講 師：木村雄一先生、斉藤作義先生（埼玉大）	2017.7.21	35名
科学教室：大阪大学基礎工学部システム科学科知能システム学コース一日体験入学（豊中市） テ ー マ：システム工学とは 講 師：潮俊光先生（阪大）	2017.8.2	74名
科学教室：石垣市立大浜中学校 テ ー マ：不思議がいっぱい科学の世界（石垣会場） 講 師：尾上孝雄先生（阪大）、伊藤良先生、笹岡直人先生（鳥取大）、 尾知博先生、黒崎正行先生（九工大）	2018.2.3	59名
科学教室：東京電機大学（東京千住キャンパス） テ ー マ：小中高生・市民のための科学実験 講 師：上野洋一郎先生、陶山健仁先生、石山仁先生、藤岡守先生、 新津靖先生、小川猛志先生、冬瓜成人先生（東京電機大）	2018.3.21	315名

計4回 483名

7. 国際活動に関する事項（定款 第4条 へ号）

7. 1 国際セッションの活動

(1) 各セッションにおける講演会等の実施件数

セッション	件数	セッション	件数
バンコク	0	上海	0
北京	0	シンガポール	0
韓国（Communication）	0	台北	0
韓国（Electronics）	0	ヨーロッパ	1
韓国（Information）	0	インドネシア	0
ベトナム	0	マレーシア	1

合計 2 件

(2) 国際セッションが主催・共同主催した国際会議

2017 IEICE Information and Communication Technology Forum (2017 IEICE ICTF) 4-6 July 2017, Poznan University of Technology, Poland, Poznan

7. 2 国際委員会活動

国際委員会は、国際セッション代表者 12 名が各セッションにて講演会・国際会議等を企画・実施することに協力するとともに、本会活動の周知・宣伝に努めた。

7. 3 All Sections Meeting

100 周年記念式典に併せて、会長・副会長・国際セッション代表者・国際委員会委員が出席する会議として All Sections Meeting を、大会企画セッションとして国際セッション代表者 6 名による講演をソサイエティ大会期間中(東京都市大学)の 9 月 14 日(木)に開催し、意見交換・交流を行った。また、コミュニケーションの活性化を目的に国際委員会と国際セッション代表者からなるメーリングリストを開設した。

7. 4 その他

大韓電子工学会（IEIE）総会への招待を受けて、2017 年 11 月に安藤次期会長が現地で講演を行った。

8. 学会からの情報発信に関する事項（定款 第4条 ロ号、へ号）

8. 1 展示会でのシンポジウム・研究会実施等（定款 第4条 ロ号）

電子情報通信分野の魅力向上と学会の活性化に向け、国際的展示会 CEATE JAPAN 2017 と連携して、本会分野の課題を論じる学会主催特別シンポジウム、東京支部主催シンポジウム、研究専門委員会による研究会等を開催した。これらのうち、特別シンポジウムについては、サービス委員会傘下の CEATEC 連携小委員会を主管として企画を行い、「2020 年にむけた電子情報通信の進化～東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて～」と題して実施し、449 名の参加を得た。

8. 2 総合大会の場の活用

2018 年 3 月の東京電機大学における総合大会では、学生と企業を繋ぐ交流の場を提供する試みとして「キャリア相談会」を実施した。

8. 3 横断検索システム I-Scover サービス (定款 第4条 へ号)

知的横断検索を可能とする横断検索システム“TEICE Knowledge Discovery” (略称 I-Scover)については、2018年3月29日に運用を停止し、事業を終了した。

9. 規格調査会に関する事項 (定款 第4条 ニ号)

規格調査会会議を4回、専門委員会及び小委員会を75回開催した。国際標準化に関して取り扱った IEC 文書は200件であった。

委員会名		委員長名	委員数		開催数
規格調査会委員会		浅谷 耕一	19		4
専門委員会名		専門委員長名	専門(委)	小(委)	開催数
1	電気・電子技術分野のメタデータライブラリ	堀内 一	14	0	5
2	通信用伝送線及びマイクロ波受動部品	堀部 雅弘	10	38	12
3	周波数制御・選択・検出デバイス	山口 正恆	23	83	26
4	光ファイバ	大橋 正治	63	63	11
5	電子実装技術	神戸 尚志	8	0	4
6	無線通信送信装置	小川 博世	21	20	8
7	電子通信用語	吉村 久乗	24	0	0
8	電子通信記号	—	14	0	0
9	複雑システムの安全検討委員会	鈴木 喜久	8	0	7
10	国際標準化教育検討委員会	中西 浩	16	0	2
合 計			201	204	—
			405		75

10. 創立100周年記念事業に関する事項 (定款 第4条 ロ、ホ、へ、ト、チ号)

10. 1 創立100周年記念事業協賛委員会 (定款 第4条 へ号)

記念事業の経費の一部について、維持員、個人会員、一般法人等、関係各位からの協賛募金 (目標総額5,000万円) として賛助を仰ぐこととし、2015年度に募金委員会を発足した。その後、維持員から学会への各種ご意見を頂戴しつつ協賛いただくことを趣旨とすることとして、名称を創立100周年記念事業協賛委員会と変更して2016年度から実質的な活動を開始した。2016年6月に第1回、9月に第2回、2017年1月に第3回、4月に第4回を開催し、学会へのご意見の収集、協賛金申込みが順調に進捗し、協賛募金額は35機関(4,610万円)、個人1,082名(959万3千円)で合計5,569万3千円に達することができた。

10. 2 創立100周年記念事業実行委員会 (定款 第4条 ロ、ホ、へ、ト、チ号)

創立100周年記念事業実行委員会の下、以下について取り組んだ。

(1) 100年史刊行委員会

2014年に100年コンテンツWGとして発足した100年史刊行委員会は、通算27回開催した。100年史は「電子情報通信学会100年の歩み」、「電子情報通信技術100年の発展」、「電子情報通信技術の将来の発展につながるトピックス」の3部構成で、B5判ハードカバー(箱入り、謹呈付き)、CD付き、総ページ462ページ、本体価格8,000円(税別)で9月15日に発行した。

(2) マイルストーン選定委員会

本会発足後の100年間において、主にその研究領域に関連して創出され、我々の社会や生活、産業、科学技術の発展に大きな影響を与えた研究開発（学問・技術、製品、サービス、及びこれらに関する新概念の構築や提案等）の偉業を、『電子情報通信学会マイルストーン/IEICE Milestone』として顕彰するため、2015年度にマイルストーン選定委員会を立ち上げて、総計242件の偉業を選定し、2016年度には公募も実施し、129件を選定した。また、名誉員等当会関係者を囲んでの座談会も開催した。これらの情報を冊子の形で取りまとめた。なお、認定証を発行した。

(3) 会誌記念特集

2017年5月号に「電子情報通信学会の100年」（略年表、利根川守三郎初代会長就任演説）を掲載した。また、6,8,9,10,11月号を創立100周年記念特集として企画・発行、12月号は創立100周年記念号として、創立100周年記念式典・記念祝賀会、及び各ソサイエティ・委員会等の記念事業の概要を掲載した。

(4) ソサイエティにおける記念懸賞論文募集

編集連絡会ではソサイエティごとに未来を展望した懸賞論文を募集し、審査の結果、6件の論文が選定された。創立100周年記念式典において授賞式が執り行われ、受賞論文を会誌12月号（創立100周年記念号）に掲載した。

ソサイエティ	賞の種類	受賞タイトル	受賞者名
基礎・境界/NOLTAソサイエティ	優秀賞	「新領域の創造のための電子情報通信技術の価値への視座：法と倫理の観点から」	栗原佑介 (東大)
通信ソサイエティ	最優秀賞	「移动通信システム活用の未来に関する一考察」	岡本英二 (名工大)
通信ソサイエティ	優秀賞	「来るべき超ネットワーク化社会を支える新たなネットワーク基礎理論の胎動」	会田雅樹 (首都大東京)
情報・システムソサイエティ	最優秀賞	「計算機による万象シミュレーションの将来」	高村誠之 (NTT)
情報・システムソサイエティ	優秀賞	「2117年・未来の情報システム社会からの提言」	寺田高久 (竹中工務店)
情報・システムソサイエティ	優秀賞	「「紙」を超える真のICTツールの実現にむけて」	大塚作一 (鹿児島大)

それ以外でもソサイエティごとに記念のイベントを企画・開催することとした。

(5) 創立100周年記念ロゴ及びキャッチフレーズ

創立100周年を記念するイベントや媒体に、ロゴとキャッチフレーズを活用した。

(6) ホームページにおいて創立100周年記念事業の発信

学会ホームページに創立100周年記念事業関連情報の発信を行った。

(7) 記念大会イベント

企画WGでは、2017年9月のソサイエティ大会を100周年記念大会と位置付け、特別パネルディスカッション「電子情報通信 次の百年の夢」を実施した。

(8) 会誌オンライン版の完成

電子化推進として、創立100周年記念事業の一環として、会誌オンライン版を完成させた。これにより、会員であれば創刊号からすべての記事の閲覧が可能となった。

(9) 「バーチャル図書館」の開設

本会ホームページに「バーチャル図書館」を開設、昭和初期に出版された「通信工学通俗叢書」シリーズをアーカイブ化し、無償公開を開始した。

10. 3 記念式典・祝賀会の実施（定款 第4条 ロ、へ号）

2017年9月15日に記念特別講演会などを含む記念式典、記念祝賀会を明治記念館で開催した。

11. その他の事項

11. 1 外部機関との連携に関する事項（定款 第4条 ロ号、へ号）

(1) 関連他学会との連携

電気・情報系関連5学会とは2004年に「電気・情報関連学会連絡協議会」を発足させ、協力してきている。2017年度も、年2回の定例会議を開催し、各学会の会員数動向、財務問題、情報システムの課題を含め諸活動状況の報告に加え、会員増強の取り組み、公益目的支出計画の課題、大会活性化への取り組み等に関して情報交換・情報共有を行った。特に、創立100周年記念式典・祝賀会の準備、当日運営に関しては、早い段階から関連学会の多大な協力を得た。

(2) 関連学術団体との連携

2017年度は、関連学術団体等に対する協力・連携活動として、281件の協賛・後援等を行った。

(3) 総務省との意見交換会

総務省国際戦略局幹部と会長を初めとする本会役員9名の第9回意見交換会を開催し、国の技術政策と学会の役割等について情報交換を行った。

(4) モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)との相互協力

MCPCとの相互協力関係として、相互の会員に活動を周知するため、HP上のバナー交換を行うこととした。

11. 2 会員サービスを支える情報システム

創立100周年記念事業の一環として実施したグランドデザインを反映して、新たな会員サービス充実、業務効率化、コンテンツ活用等を目指した学会の情報システムの計画を具体化した。特に、学会システムの中核である会員管理システムの更改時期に合わせ更改開発のRFPを実施した。

また、役員選挙のWeb投票システムは、処理能力向上の改修を行った。

Ⅱ. ソサイエティ及びグループ事業

2017年度も、各ソサイエティ及びグループごとに特色のある企画等を実施し、会員の研究成果の発表と議論の場を提供する事業を中心に活動した。また、ソサイエティ連絡会を4回開催し、各ソサイエティ等の連携を図った。

◎ 基礎・境界ソサイエティ、NOLTA ソサイエティ

○ 基礎・境界ソサイエティ

基礎・境界ソサイエティは、本会関連の多くの研究分野を対象とし、その中でも基礎領域や境界領域での研究活動を支援し、新領域の創造と開拓を積極的に推進するという重要な役割を担っている。本ソサイエティは、この役割を意識したソサイエティ活動を基本路線として進めるとともに、2015年度に実質的に開始したNOLTA ソサイエティとの共同運営体制を確立させて、共同事業の立案・実施なども積極的に進めた。

(1) NOLTA ソサイエティとの共同運営

2014年10月より発足したNOLTA ソサイエティとの共同運営に合わせて、2015年度に両ソサイエティ申合せ等により設置された基礎・境界ソサイエティ(ESS)-NOLTA ソサイエティ(NLS)共同幹事会およびESS-NLS共同運営委員会によって双方のソサイエティが行う共同事業を審議してきた。2017年度では、双方のソサイエティの独自性を保ちつつ、共同運営規程を理事会制定の規程として整備することにより、両ソサイエティ会員を含め学会全体に対してこの共同運営をわかりやすいものとした。これにより両ソサイエティの事業運営のさらなる活性化を図るとともに、将来に向けて共同運営を発展させる基礎を構築した。

(2) 研究活動とその活性化

(2-1) サブソサイエティ・研究専門委員会の活動

2017年度において、本ソサイエティには、19の研究専門委員会と1つの特別研究専門委員会が所属している。そのうち、7の研究専門委員会が、研究領域の近い複数の研究会から成る3つのサブソサイエティという研究コミュニティを形成している。昨年度発足したハードウェアセキュリティ特別研究専門委員会は、さらに発展して、2018年度に研究専門委員会として新たに発足する予定である。

上述したNOLTA ソサイエティとの共同運営について、理事会制定の共同運営規程を制定したことにより、新たなソサイエティを構成することもより深いレベルの理解のもと検討できるようになっており、昨年度に情報通信基礎サブソサイエティを、組織を形骸化せず発展的に解消した実績を含め、将来基礎・境界ソサイエティが柔軟な組織改革へと検討を進めていく素地を形成したところである。

財務面でも、ソサイエティの構成組織がそれぞれの取り組みで研究推進している中、特定資産等の財務面での違いを明らかにしつつ、各分野の企画実施での柔軟性を高め、それにより多様な取り組みが実施されていることをソサイエティ全体で確認し、研究推進のための財務改革についてさらに検討を開始したところである。

サブソサイエティ・研究専門委員会の情報交換会を開催し、各組織の活動報告を通して基礎・境界ソサイエティ全体での情報共有を行い、それを踏まえて将来の展開について意見交換も行った。その意見交換も踏まえ、他ソサイエティが技報研究報告完全電子化に進む中、本ソサイエティとしての技報の扱いについて検討を進め、次年度に本件に関するトライアルを実施することとした。

(2-2) 総合大会・ソサイエティ大会における活動

2017年9月に開催されたソサイエティ大会では、ソサイエティ特別企画セッション1件、チュートリアルセッション3件、依頼シンポジウム2件を企画した。各研究専門委員会が大会での企画や講演会等の立案を主体的に行うことで、会員のニーズに対応したサービスの充実を図っている。また、平成29年度は、ソサイエティ特別企画セッションにおいて、梅村晋一郎先生(東北大学大学院教授)により「集束超音波治療の工学的基礎」と題した特別講演がなされた。梅村先生は強力集束超音波治療、特に過熱凝固治療を中心として、本ソサイエティ名のまさしく基礎・境界における超音波の研究とその治験

に至っている治療スループット向上させる研究の先端について、工学と医学にまたがった面も含めわかりやすく講演いただいた。

2018年3月に開催した総合大会では、ソサイエティ特別企画シンポジウム1件、チュートリアルセッション2件、依頼シンポジウム8件を企画した。また5ソサイエティが共同して異分野との交流を目指した2件の大会企画のうちの1件を、エレクトロニクスソサイエティが推進する「センサ・AIを利用した下水道氾濫の兆候検出」の企画に参加し、最終的にはNOLTAソサイエティ担当の講演を実施した。なお、大会プログラムでの異分野交流と位置づけられた企画には、研究専門委員会の「自動運転とITS技術の最新動向」という本ソサイエティ企画のものも含まれており、他にもAIとIoTという切り口での企画など、基礎・境界分野を担当するソサイエティとしての活動を推進した。

基礎境界ソサイエティ及びNOLTAソサイエティの企画として、昨年同様に両ソサイエティの合同Welcome Partyを実施することを計画していたところで、大会委員会より全ソサイエティ共同実施の提案を頂いて、その枠組みでのWelcome Party実施に参画した。その中で、基礎・境界ソサイエティの紹介も行え、学生課委員に参加企業との交流の場を提供することができた。次年度以降の実施については時期・形態など引き続き検討していくこととしている。

(3) 編集活動

(3-1) 論文誌の編集活動

2017年度は、和文及び英文論文誌のそれぞれにおいて、先見のかつ魅力的な特集号企画を実施することで、これら論文誌の内容の充実を図った。また、2014年5月から本格運用を始めた、論文誌編集におけるエディタ制（分野ごとにエディタを置き、その下で和文論文誌と英文論文誌を統合して査読や編集を行う制度）を引き続き実施した。

編集活動と関係して、英文論文誌を軸に種々あるオープンアクセス実現の方式についての検討や、日本学術会議声明に関連した事項の検討を行い、次年度以降の展開につなげる予定である。

(3-2) 機関誌の編集活動

本ソサイエティでは、NOLTAソサイエティと共同して、機関誌Fundamentals Review (FR誌)を年4回発刊している。

FR誌は、両ソサイエティで扱う多様な研究分野の最新技術動向を分かりやすく解説した一般向け論説や、技術開発の中核を担った研究開発者本人の論説等を掲載することで、専門外の研究分野に対する会員の理解を深めるだけでなく、研究領域の融合や発展に寄与する役割を担っている。この目的の達成のため、2017年度は、1本のレビュー論文、18本の解説論文、4件の特寄稿を掲載した。更に、本ソサイエティに関係する国内及び国際会議の案内や報告、研究専門委員会の紹介、加えてソサイエティ財務を通じた運営の解説、本ソサイエティに関するニュース等の記事を掲載することによって会員相互の情報交換を図るとともに、読者の興味を引くようなタイムリーな企画を取り入れるなど、機関誌のより一層の充実に努めている。出版を持続的に行うための出版社選定も実施した。

(4) 国外会員向け事業及びサービスの実施

本ソサイエティの国外会員向けサービスとして、「国外におけるIEICEジャーナル論文の書き方セミナー」を2011年8月より継続的に実施して、これまでに延べ参加者人数は1,563名に達している。本年度は、学会100周年を記念して、本セミナーの初回を開催したタイのチュラロンコーン大学において10月に本セミナーを開催し、50名を超える出席者を得た。

その開催と同日に、ESSとしての100周年記念セレモニーを本会のバンコク・セクションの支援を受け開催した。まず100周年を記念して、ESS会長よりここまでに至る基礎・境界ソサイエティの活動の紹介が行われ、本ソサイエティのシスターソサイエティである電子・情報・通信分野のタイの学会であるECTI会長より祝福の挨拶もなされた。本セレモニーのメインは、タイ・フィリピン・ベトナムの各セクションからの代表も参加してのパネル討論会であり参加も得て、盛大に実施することができた。本会の活動を通して東南アジア地域での活動を活発化することができ、さらなる協力をしていくことが確認された。

この他にも、国外会員や日本在住の留学生を主な対象として、論文誌特集号や国際会議開催案内などの情報をメールマガジン「ESS-ENCE」としてとりまとめ、毎月15日に本ソサイエティのメーリングリストを通じて配信している。今後も、これらの活動をはじめとして、国外会員の増加につながるような効果的な施策を引き続き検討する。

(5) ソサイエティ活動への支援

(5-1) 運営委員会に関わる業務の効率化とそのサポート

運営委員会をはじめとするソサイエティ活動に関わる業務を円滑に進めることは、本ソサイエティの活動への運営委員の能動的な参加を促すことにつながると考えられる。本ソサイエティでは、(i) 運営委員会・幹事会における遠隔会議システムの本格運用、(ii) 運営委員会をはじめとする各種会議へのソサイエティ旅費補助の活用(年5回の応募実施)、(iii) 会議資料のデータベース化の推進、などにより、業務効率化をサポートする体制を整えている。

(6) 情報理論とその応用分野の論文へのアクセシビリティの向上、英文論文誌のオープンアクセス化の検討

(6-1) 英文論文へのアクセシビリティの向上

本ソサイエティ英文論文誌には情報理論とその応用に関連する多くの論文が掲載されているが、論文誌のタイトル (IEICE Transactions on Fundamentals) からは当該分野に関連する論文が掲載されていることが分かりにくいという問題が指摘されていた。さらに、それ以外の分野の論文も多数掲載されており、当該分野の論文がそれらの論文に埋もれてしまうため、欧米からの論文の投稿ならびに被引用数が少ないという問題を抱えている。そこで、これらの問題を解決し、国外の情報理論とその応用分野の研究者への情報提供と論文の引用数や投稿数増加のための施策として、情報理論とその応用分野に関する論文をまとめたホームページの公開を一昨年度から実施している。

(6-2) 2015年度から始まった ESS の英文論文誌のオープンアクセス化についての議論を幹事会及び運営会議において引き続き行った。昨年度はオープンアクセス化に伴う ESS の収支状況の変化等を含めて種々試算を行い、2018年度からオープンアクセス化の実施をより具体的に検討した。オープンアクセス化により、他の海外論文誌が実施しているオープンアクセス化に追従し、掲載論文が幅広く読まれ、よりよく活用されることを目指しており、結果として、論文の被引用数の増加に結びつくと考えている。特に、2017年度の検討では、オープンアクセスの多様な実現方式に着目し、その点からの検討を加えることが行え、次年度に引き続き検討を行うところである。

○ NOLTA ソサイエティ

(1) ソサイエティ運営及び web site の整備

今年度も引き続きソサイエティ体制を整備した。NOLTA ソサイエティ (NLS) では、英語での発信を基本としており、本年度は規程の英語化を行った。現在、翻訳業者により翻訳を行っているところであり、学会年度の切り替わりに合わせて規程の英語版を web にアップロードする予定である。また、NLS が主催する NOLTA シンポジウムの過去のプロシーディングスを整理し、NLS の web サイト上で公開した。会議開催後1年後よりオープンアクセスとして公開することとしている。

(2) 研究活動とその活性化

(2-1) 研究専門委員会の活動

今年度の研究会講演数は、非線形問題研究専門委員会(NLP)が113件、複雑コミュニケーションサイエンス研究専門委員会(CCS)が41件であった。NLP と CCS それぞれにおいて研究会発表論文の中から優秀な発表に対する学術奨励賞受賞者を選定し、NOLTA ソサイエティ大会において計6名(NLP6名、CCS2名)を表彰した。

(2-2) NOLTA2016

メキシコ・カンクンにおいて2017年12月4日～7日の日程で非線形理論とその応用に関する国際シンポジウム(International Symposium on Nonlinear Theory and Its Applications:NOLTA2017)を開催した。招待講演3件を含む計201件の発表があり、参加者は14カ国、228名と盛況であった。NOLTA2016の開催中、海外の主要研究者とミーティングを持ち、非線形理論とその応用に関する研究への認知度を広めた。

(2-3) JKCCS2018

札幌・定山溪において2018年1月8日～10日の日程で The 6th Korea-Japan Joint Workshop on Complex Communication Sciences(JKCCS2018)を開催した。本会は、昨年度 NOLTA Society と Sister

Society の締結を行った韓国マルチメディアソサイエティ (Korea Multimedia Society:KMMS) と CCS 研専、および通信ソサイエティネットワーク科学研専の合同開催であり、招待講演 2 件、一般講演 10 件、およびポスター講演 43 件の発表があった。本会を通じ、KMS との交流をさらに深めることができた。

(2-4) 総合大会・ソサイエティ大会における活動

2017 年ソサイエティ大会 (東京都市大) の一般セッション講演数は 36 件、2016 年総合大会 (東京電機大) では一般セッション講演数 34 件であった。また、ソサイエティ大会では ESS と合同でソサイエティ表彰贈呈式を開催し、総合大会において CCS 研専からパネルセッション 1 件(7 件の講演)、NLP 研専からシンポジウムセッション 1 件(6 件の講演)をそれぞれ企画した。

(2-5) NOLTA ソサイエティ大会

ソサイエティ全体の活動を総括して、NOLTA ソサイエティがカバーする学問分野の更なる発展・充実をはかるため、NOLTA ソサイエティ独自のソサイエティ大会を開催している。2017 年度は、ポスターセッション形式の一般講演 45 件の発表があった。一般講演に対しては原稿査読を行うことで質の向上を促している。また、一般講演の中から奨励者 2 名を選定した。さらに、平成 29 年度の試みとして、NLS の研究会で奨励賞を受賞した若手研究者による招待講演を企画した。これにより、講演者、聴講者ともに若手研究者への励みになったとともに、NLS の若手奨励に対する姿勢を明確にできたと考える。さらに、参加種別にあらたに「NLS 会員」を設定し、会員増強にも努めた。

(3) 編集活動

(3-1) 論文誌の編集活動

英文電子ジャーナル「Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE (略称 NOLTA)」(オープンアクセス(OA)ジャーナル)を 4 回発行し、39 編の論文、4 編の巻頭言、(総ページ数 481)を掲載し、例年と同規模の論文出版を行った。それらの発行の中で特集号企画を 4 回実施し、さらに、招待論文を 5 編掲載することによって NOLTA の内容の充実を図った。また、選考基準に従い Best Paper の選考を進め、一編の論文を 2016 NOLTA Best Paper として選出し、メキシコ・カンクンで開催された NOLTA2017 にて授賞式を執り行った。本年度からの試みとして、「NOLTA, IEICE ニュース」を NOLTA, IEICE 編集長からのメッセージとして発行し、各メーリングリストによる展開、および NLS の web ページに公開することにより発信している。さらに、ORCID の導入を進め、関係者に ORCID ID の取得を促した。読者や著者へのサービス向上のために、EndNote などの文献管理ツールへのメタデータ提供に関して JST と交渉を進め、現在調整を図っている。

(3-2)機関誌の編集活動

本年度も、Fundamentals Review (FR) 誌を基礎・境界ソサイエティと共同で編集作業を行い、本ソサイエティ関係の記事を掲載した。ESS と調整の上、規程を整備し FR 誌が ESS と共同で発行する機関紙でことであることを明確にした。

(3-3)編集規程の整理

これまで未整備であった NOLTA ソサイエティの編集規程を制定した。

(4) NOLTA ロゴの使用

NOLTA ソサイエティのロゴについて、昨年度、著作権の移譲に加え ESS 活性化事業を活用した出願・登録商標登録を終えた。NLS 大会、NOLTA シンポジウム、JKCCS 等で積極的にロゴを記載し、NOLTA ソサイエティおよびロゴの認知度の向上を図った。

◎ 通信ソサイエティ

通信ソサイエティでは、学会理事会の指針に沿ってソサイエティ運営を行うとともに、執行委員会、会員事業企画・運営会議、ソサイエティ編集会議、研専運営会議、各特別委員、それぞれにおいてソサイエティの活性化、会員サービス向上のための施策を進めてきた。2017 年度は、通信ソサイエティの基幹分野を担う 21 の研究専門委員会と新規分野を担う 7 の特別研究専門委員会が活発な研究会活動を行うと共に、通信ソサイエティの収支構造の改善を目指し、平成 27 年度から引き続き技術研究報告(技報)の完全電子化を中心とした研究会運営改革を進め、「技報アーカイブ」を新設するなど、電子化を推進した。出版活動では、100 周年記念事業の一つとして和・英文論文誌において 100 周年記念特集を企画し、幅広い読者層に有益な特集を編纂することができた。通信ソサイエティ和文マガジンでは、紙面・編集の活性化を目的に、ソサイエティマガジン賞を新設し、執筆者のモチベーション向上を図った。

また、学生、若手を含む会員同士の交流の場の提供を目的として **Welcome Party** をソサイエティ合同で開催し、会員サービスの向上に努めた。財務的には引き続き減益傾向が続き、会員数の減少にも歯止めのかかっている状況であるが、媒体の電子化、会告費の圧縮等の経費削減の施策を進めた。2018年度からの予算については、**I-Scover** についてはシステム停止が決定し、2017年度に減価償却を前倒して完了することから、黒字となる予定である。

(1) 財務管理

通信ソサイエティの主な事業の収入は、昨年度と比べ、論文誌／総合大会／ソサイエティ誌は収入増、年会費／ソサイエティ大会／研究会／国際会議／ComEX において収入減となる見込みである。支出については、研究会／ComEX／ソサイエティ誌で支出増、論文誌／総合大会／ソサイエティ大会／国際会議では支出減となる見込みである。

今年度の収益に関しては、論文誌が収益の大きな柱であり、年会費、総合大会とソサイエティ大会、研究会が黒字であり、ソサイエティ誌／ComEX／I-Scover の赤字を補っている。ComEX は昨年度から単年度黒字化の見込みであったが、まだ若干の赤字を抱えている。国際会議は、昨年度、収益事業に返り咲いたが、今年度はほとんど会議が開催されず、国内委員会の運営が主となり赤字事業に転落となった。年度ごとに収益もキャッシュフローの規模も大きく変動しており、今年度の国際会議はトータルで赤字となる。

通信ソサイエティ全体の支出は、関係各位の努力、媒体の電子化、会告費の圧縮などの財務施策により、昨年同様に抑えられた。これまで黒字化に大きく寄与してきた論文誌では収益の増加、研究会活動においては、技報完全電子化・参加費型研究会の全面試行開始を進めることで、印刷などの支出が変わらない中で魅力的な参加費(発表・聴講)の設定としたことを含め研究会として積極的な取り組みをしたため研究会の黒字額が一時的に縮小することとなった。一方、継続的な会費収入の減少、昨年は黒字であった国際会議が開催されず大幅な収益減少のため、収支として、昨年から 2500 万円程度悪化した。さらに、電子情報通信学会横断検索システム(**I-Scover**)を終了する判断が理事会にてなされた。通信ソサイエティの財務はこれまでの厳しい状況から、今期の一時的な資産圧縮にもなる赤字を組み込むことで、今期以降、健全な経営に戻すこととなり、今期の減価償却として、各ソサイエティへ配布が組み込まれることとなった。通信ソサイエティでは、約 7700 万円を減価償却として組み込むこととなり、昨年から比べて約 5000 万円の減価償却の追加となった。そのため、赤字額は膨らみ、7500 万円の赤字を計上する見通しである。

通ソ活性化活動準備金については、研究専門委員会から提案された通ソ研専活性化企画(4 件)、創立 100 周年記念事業(2 件)、および技報オンラインシステムの更改(1 件)に対して予算執行がなされた。例年に比べて、縮小の予算立てをし、例年より活動を自粛し、活動を絞り実施した。

予算編成については、昨年度の財務委員会からの予算目標の提示と選奨費のガイドラインに基づき収支計画を立てる等の施策については継続して行うと共に、研専からの提言である技報オンライン化・参加費型研究会の施策、技報完全電子化研究会や技報オンラインのサイトライセンスをいよいよ本格稼動する。これにより、施策段階で研究会収益を赤字としていた、支出を大幅に抑制できる見込みである。これまでの施策の総合評価を行い、財務に与える影響を明確化すると共に、今年度は、活動により収集されるデータを活用して、中期的な収益を基に予測検討、実績確認を実施すること、それらデータを基に収益向上と中長期的な視点での検討を進めていく。同時に、財務管理の適確性を維持するために、予算と決算の乖離を縮小するべく、予算の精査のためのデータ蓄積と評価に関する手法の確立を目指す取り組みを実施する。

他方、電子情報通信学会横断検索システム(**I-Scover**)の終了により、ソサイエティの財務がこれまでの厳しい状況から、一時的な資産圧縮として組み込まれたことにより、2018 年度会計は大幅に改善するので、予算編成は堅実な形で黒字予算とした。これまでの、財務体質の改善に向けた議論から、新たな会員の取り込みや事業構造の再構築など、取り組むべき課題が抽出されており、それらの対策に取組む必要があることが明確となってきている。特に、年度ごとに収益もキャッシュフローの規模も大きく変動する国際会議のあり方については、何らかの対策が必須である。黒字化された予算の中から、継続して改善に取り組むと共に、それにより余剰となった資産により、新たな会員獲得や事業の集中拡大を目指した対策・施策を計画する段にある。前出の財務管理のデータ蓄積と評価手法に則って、適切な財務処置を施すよう、事業計画における予算設定については、慎重に検討していく必要がある。

(2) 研究会運営の改革

学会員の利便性向上と通信ソサイエティの収支構造の改善を目指し、2015年度から技術研究報告（技報）の完全電子化を中心とした第一種研究会の運営改革を進めてきた。2017年度は新たな運営方式で全ての研究会を開催するとともに、技報電子版の購読形態として「技報アーカイブ」を新設し、年度末をもって技報冊子体の発行を終了した。「技報アーカイブ」での収入は研究会予算の柱であるが、制度設計時通りの収入見込みとなり、3年間をかけた研究会の運営改革が成功をもって達成できた。また技術分野横断的な活動を強化する観点から、複数の研究専門委員会（研専）が連携する研究会活動を推進・支援する仕組みを新たに策定した。

(2-1) 全研専での電子化研究会実施

2016年度の8研専によるトライアルに引き続いて、2017年度は、年度初めから全ての第一種研究会を技報電子化研究会として実施した。研究会会場では技報冊子体を配布せず、参加者には「技報オンサイトビュー」から技報電子版をダウンロードしてもらう。また、発表者には発表参加費を、聴講参加者には聴講参加費（または、年間を通じて聴講参加できる年間登録費）を負担頂く。全研専で運営ノウハウを共有しながら諸課題の解決を図り、新運営方式を軌道に乗せることができた。

(2-2) 技報アーカイブの本格運用に向けた準備とトライアルの実施

本年度末での技報冊子体廃止に伴い、2018年度からは、過去の技報の電子閲覧サービス「技報アーカイブ」を本格運用する。2017年度は、「技報アーカイブ」の制度を確定し、冊子体年間予約者に向けた案内を8月に送付してサービス開始を広報した。また、冊子体年間予約者への特典として「技報アーカイブ」の無料トライアルを実施し、サービスの周知および諸課題の抽出・解決を図った。1月からは冊子体予約者に「技報アーカイブ」への移行をお願いし、約8割が移行となった。これは当初の見込み通りであり、冊子体印刷廃止による支出の大幅減との組み合わせで、研究会活動の収支を大きく改善する。

(2-3) 研専横断型研究会

研究会への参加者を増やし活性化するためには、研究会が扱う研究について、関連する技術を俯瞰的に議論する場や、様々な産業分野への応用を議論する場を提供することが重要である。そこで、通信ソサイエティでは、複数研専が共同開催する分野横断型の研究会を推進・支援するため、該当する第二種研究会を「通信ソサイエティ主催」として開催できる制度を2017年5月に制定した。2017年度は、本制度を適用した研究会を2件開催し、多数の参加者があり研究会活動の活性化ができた。

(3) 研究専門委員会

(3-1) 研究専門委員会の変更

2017年度は、通信ソサイエティの基幹分野を担う21の研究専門委員会と新規分野を担う7つの特別研究専門委員会が活発な研究会活動を行った。2017年度で設置期間が満了となる(1) ICT分野における国際標準化と技術イノベーション特別研究専門委員会（SIIT 研専）、(2) 光通信インフラの飛躍的な高度化に関する特別研究専門委員会（EXAT 研専）、(3) 光応用電磁界計測特別研究専門委員会（PEM 研専）については、それぞれの研究専門委員会から延長申請があり、研専運営会議での審議の結果、それぞれ2年間の延長が承認された。期間はいずれも2018年4月1日～2020年3月31日である。

(3-2) 活性化資金関係

研究会活動の活性化と会員サービスの向上を図るための研専運営活性化資金に対して、下記の13件の企画の応募につき研専運営会議での審査を経て支援を実施した。

1. アジア諸国における学生間の交流活性化（AP 研専）
2. 理論と実践から EMC 設計力を身につける EMC 基礎ワークショップの開催（EMCJ 研専）
3. OCS 研究会 30 周年記念シンポジウム（OCS 研専）
4. 無線電力伝送コンテスト（WPT 研専）
5. ワイヤレステクノロジーパーク 2017 との同時開催研究会（SR 研専）
6. 医療・ヘルスケア・健康に関する分野横断的統合アプローチによる研究開発セッション（MICT 研専）

7. インドネシアとの国際技術交流強化に向けたワークショップ開催 (ASN 研専)
8. アウトリーチ活動の参加費型への移行措置 (IA 研専)
9. インドネシアにおける若手研究者・学生を対象としたアンテナ・伝搬チュートリアルワークショップの開催 (AP 研専)
10. 分野横断的 IoT 活用に関するワークショップの開催 (CQ 研専)
11. OFT20 周年記念史の作成と活動史の見える化 (OFT 研専)
12. 無線通信システム研究会第二種基礎技術ワークショップの開催 (RCS 研専)
13. 2017 Asia Wireless Power Transfer Workshop (WPT 研専)

このうち、1~4については、通ソ全体に展開できる学会活動活性化施策として、通ソ独立採算活性化活動準備金へ申請し支援を得た。これらの活動の中で優秀な施策については、実施後に研専運営会議内での紹介と報告を行い、その効果の確認や施策の水平展開を図っている。

(3-3) 研究会開催実績

2017年度は、第一種研究会を149回（講演数合計2,937件）実施した。研専、特別研専併せて72回の第二種研究会を実施し、技術の普及や新たな技術に対する展開を図った。なお、第一種研究会は全て新運営方式（技報電子化）にて開催した、72回開催された第二種研究会のうち、4回を海外で実施し（AP研専、SR研専、ASN研専、PEM特別研専）、研専／特別研専ともに海外への技術普及・啓蒙を図った。また複数研専が共催する第二種研究会において通信ソサイエティ主催とすることができる制度の運用を始め、2017年度は同制度を適用した第二種研究会を2回実施した。

(3-4) 大会活動実績

2017年ソサイエティ大会（東京都市大）では一般セッション25分野／公募シンポジウム8課題合わせて講演数798件と企画セッション17課題87件、2018年総合大会（東京電機大）では一般セッション25分野／公募シンポジウム7課題合わせて講演数987件と企画セッション20課題104件を実施した。萌芽の研究や学生・若手研究者を対象としたポスターセッション、基礎・境界、NOLTA、通信、エレクトロニクス、情報・システムソサイエティ共催の横断型企画、5研専共催の横断型企画、全ソサイエティ合同でのWelcome Party、IEICE-CS GLOBAL NEWSLETTERでの大会英語セッション紹介記事など特色のある取り組みにより、大会を活性化するとともに研究会活動の積極的なアピールを実施した。

(3-5) 研究会連絡会

研究会連絡会は、研究会に関する課題についてソサイエティ・グループ横断で情報共有し意見交換する場であり、通信ソサイエティからも参画した。特に、技報電子化を柱とする研究会運営改革については通信ソサイエティが先導して、制度設計や運用ノウハウを他ソ・グに展開した。新たな研究会運営方法、および、技報電子ファイルを販売する仕組み「技報アーカイブ（通ソ）」、「技報ペーパービュー」に関する情報を全てのソ・グに積極的に提供し、電子情報通信学会全体の技報電子化を加速した。研究会システムに関するソサイエティ・グループ横断の連絡体制を新たに構築して課題やノウハウ等を共有し、他ソ・グの技報電子化を強力に支援した。

(4) 出版活動

100周年記念事業として、和・英論文誌における「100周年記念特集号」、および「論文の書き方講座の海外展開」を企画した。和文論文誌100周年記念特集では、通信ソサイエティ分野に係わる業績賞受賞研究を掲載対象とした。編集委員会で慎重に選んだ12件の研究全てにおいて、賞の対象となった研究成果を分かり易く紹介いただくと共に、同成果や関連技術の今後の展望についても執筆いただいた。研究入門者から熟練研究者まで幅広い読者層に有益な特集となっており、100周年記念にふさわしい内容であると確信している。英文論文誌では、2017年9月に100周年記念特集号「the Past, Present, and Future of Communications Technologies in the IEICE」を発行し、過去・現在・未来の通信技術に関する魅力的で示唆に富んだ全18件の招待論文を世界に向けて発信した。各招待論文は通信ソサイエティの研究専門委員会から推薦された各分野を代表する研究者・技術者にご執筆頂いている。本号に掲載された招待論文が、本会および情報通信技術分野の次の100年を支える礎となり、新たな研究開発及び人材育成の推進に多大な貢献をもたらすことが期待できる。海外、特にアジア地域の優れた研究を掘り

起こし、論文投稿してもらうことをねらい、「論文の書き方講座」を2017年10月から11月にタイ・プーケットで開催された International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2017) において実施した。会場席数は60名程度に対して聴講者60名程度とほぼ満席であり、10名程度の立ち見聴講者もいた。半数程度が日本人以外であり、海外研究者への投稿促進につながると期待できる。

また、通信ソサイエティ論文誌専門分野分類表の改定を行った。これは、前回(2010年4月1日)改定されてから7年以上が過ぎており、この間、投稿される論文の専門分野も変わってきているため、改定を行うこととなった。今回の改定では大幅な変更は行わず、軽微な修正の範囲に収めた。

(5) 本部論文賞候補、および、通信ソサイエティ論文賞

2016年10月から2017年9月発行の和英論文誌に掲載された論文の中から、本部論文賞候補3編を選定した。これら3編の中で最も支持を集めた論文を喜安賞候補とした。また、通信ソサイエティ論文賞として、同期間に和英論文誌、和文マガジンおよびComEXに掲載された論文の中から、優秀論文賞2編、チュートリアル論文賞2編、Best Paper Award 3編、Best Tutorial Award 2編、ComEX Best Letter Award 1編、和文マガジン論文賞1編の計11編を選定した。また、今年度から新設された通信ソサイエティマガジン賞を1編選定した。選定された12編の著者に対しては、2018年5月の執行委員会にて表彰が行われる。

(6) 国際会議

2017年度において、通信ソサイエティ研究専門委員会の共同主催2件の国際会議を開催した。その他、通信ソサイエティ(研究専門委員会を含む)として15件の国際会議を協催、3件の国際会議に対し協賛を行った。この結果、通信ソサイエティが関与した国際会議は20件であり、昨年度比横ばいとなった。一方で、主催・共同主催の国際会議数は一昨年度5件、昨年度3件に対して減少している。国際活動資金の活用実績は36.1万円、余剰金は43.9万円である。

2018年度については2017年度末の時点で10件の関与が予定されている。なお、I-Scover運用停止に伴い主催国際学会の公開手法が新たな課題として挙がっている。国際活動資金に貸し付け制度を追加して、国際会議の開催準備費用補助を準備中である。

(7) 国際活動(シスターソサイエティ協定について)

通信ソサイエティでは6団体(IEEE ComSoc(米国)、IEEE EMCS(米国)、KICS(韓国)、KIEES(韓国)、VDE/ITG(ドイツ)、CIC(中国))とのシスターソサイエティ協定を締結している。お互いの海外会員増強を目的とした海外でのプロモーション活動や会費相互減免制度などにおいて協力を実施している。2017年度はIEEE ComSocならびにCIC、KIEESとのシスターソサイエティ協定の更新を行った。

次年度についてはKICSとの契約更新を実施予定である。また、締結済のシスターソサイエティ協定を有効活用し、通信ソサイエティの論文誌や研究会・国際会議等の活動について海外へのプロモーション活動による会員獲得活動を強化していく。

(8) 英文ニュースレター(IEICE-CS GLOBAL NEWSLETTER)

英文ニュースレターは、通信ソサイエティの海外会員および外国人会員と他の会員との情報共有、通信ソサイエティの国際化を目的として、通ソ会員へ年に4回発行しているものである。今年度は、会長メッセージ、フェローや外国人研究者(含留学生)からの寄稿、和文マガジンから海外発信に相応しい記事の英訳版、外国人研究者へのアピールとなる国内研究室の紹介、通信ソサイエティや研究専門委員会の活動報告、通ソが関与する国際会議の開催報告など約50件(約120ページ)の記事を掲載した。また、通ソが関与する国際会議の予定表やCFP、論文誌特集号のカレンダーを掲載し、裏表紙は、ソサイエティ/総合大会の開催案内、I-Scoverの紹介を行い、国内外の通ソ会員に情報発信した。

また、費用削減に向けた取り組みとして、冊子媒体の電子化(海外会員のみ冊子を送付)を今年度も継続した。さらにIEICE-CS eNewsを用いたHTMLメールによる目次の配信を継続し、オンライン電子ファイルの各ページへのアクセスを容易にした。

(9) ホームページ・会員サービス

CSアーカイブスサービスでは、2017年総合大会ならびに2017年ソサイエティ大会における通信ソサイエティ企画セッションの講演資料の一部を閲覧できるサービスを実施した。これらの資料はそれぞれ5月中旬、11月下旬に公開した。来年度も同様のサービスを継続予定である。通信ソサイエティWEB

サイトでは、バナー広告主の要請に対応できるように、Google Analytics を導入し、PV 数を始め、サイトコンテンツやバナー広告へのアクセス状況を把握できるようになっている。PV 数（2017 年 4 月 1 日から 2018 年 4 月 1 日の期間の通ソトップページ）は、288,501 であった。

E メールニュースでは、研専企画や国際会議、出版物目次などを含め、2017 年度は合計 57 件の配信を行った。

(10) Welcome Party

ソサイエティ会員、主に通信ソサイエティの学生会員や若手会員の方々が、諸先輩方と自由にコミュニケーションできる場の提供を目的として、総合大会初日（3 月 20 日）に第 10 回 Welcome Party を開催した。今回は、ソサイエティ会長の発案で、全ソサイエティ合同での開催となった。通信ソサイエティ会長をはじめ、基礎・境界ソサイエティ会長、エレクトロニクスソサイエティ会長が開会の挨拶を行い、企業・公的機関（22 社）と、研究専門委員会（通信 10 件、基礎・境界/NOLTA 4 件、エレクトロニクス 3 件、情報・システム 3 件）、およびソサイエティ紹介（通信 1 件、基礎・境界/NOLTA 3 件、エレクトロニクス 3 件）を含む合計 49 件のパネル展示が行われ、それぞれの活動内容を紹介した。本年度は、パネル展示参加企業・機関からの 14 件の 1 分間スピーチ、研専からは 15 件の 1 分間スピーチによる紹介があった。閉会の辞を、NOLTA ソサイエティ会長、情報・システムソサイエティ会長から行った。参加者数は学生 89 名（昨年 62 名）、社会人 207 名（昨年 119 名）、合計 296 名（昨年 181 名）であった。今後も総合大会での開催を継続し、学生・企業からのフィードバックを通して、学生会員や若手会員の学会活動参加推進のための施策を検討していく予定である。

(11) 通信ソサイエティ特別講演及び表彰式

ソサイエティ大会期間中の 9 月 13 日に、特別講演および表彰式を開催した。ソサイエティ功労顕彰状（17 名）、活動功労賞（121 名）の贈呈式を行うとともに、会長企画特別講演として、京都大学学術情報メディアセンター教授で日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員の岡部寿男教授による招待講演「科研費の舞台裏」を実施した。

(12) 規程類の改定について

新規国際会議の立ち上げ時等に必要となる資金の支援を目的に、国際会議開催のための資金貸与制度を制定し、その規程を定めた。

◎ エレクトロニクスソサイエティ

エレクトロニクスソサイエティ（以下、エレスと略す）は、電子情報通信システムを構成するエレクトロニクスの材料、部品、デバイス、サブシステムに関する基礎から応用までを研究活動領域としている。この領域における我が国の産官学連携促進や科学技術の進歩への貢献、会員（研究者）の満足度向上を最終目的とし、「企画会議」、「編集出版会議」、「研究技術会議」の 3 会議体制で、本会全体及びソサイエティの活性化を目指している。平成 28 年度から研究技術会議に立ち上げた 3 つの領域委員会（電磁波基盤技術領域委員会、フォトニクス技術領域委員会、回路・デバイス・境界技術領域委員会）において、国際会議の協賛企画に関する承認権限の委譲など手続きの迅速化に加えて、各領域内で近接分野間の合同・連携企画が実施されている。さらに、領域間の共同企画や、研究専門委員会(研専)活動の活性化に関する共通の課題は、領域連携会議にて議論を進めている。これら研究技術会議に係る課題あるいは効果を発揮した取り組みなどについては、適宜、領域連携会議等を通して今後の運営に活かしていく予定である。

また、今年度は、研究会運営の改革に向け、一部の研究会にて技報電子化トライアルを実施し、アンケートや課題抽出を行い、その結果をもとに、今後の技報の電子化や研究会参加費の在り方等について研究技術会議および研専を中心に議論を進め、研究会運営改革を本格実施していく方向性を決定した。

また、3 種類の論文誌での量・質的強化等の会員サービス向上のための取り組みについても適宜検討を進めている。懸案であった論文誌のオープンアクセス化については、前年度検討した財務シミュレーション及び ELEX 誌が既に全面オープンアクセスとしていること踏まえ、それ以外の論文誌のオープンアクセス化を行わず、特集企画や国際化、早期公開施策等を通して論文誌の更なる活性化を推進していくこととした。

その他の活性化策として、大会のソサイエティプレナリーセッション等、特別講演のビデオ配信、英

語版ホームページの見直しを行った。また、学生員や若手会員の方々が諸先輩方と自由にコミュニケーションできる場の提供を目指して、全ソサイエティ横通しで今回初めて総合大会にて Welcome Party を開催し約 300 名の参加者があった。エレソ独自の取り組みとしては、この Welcome Party の直前に総合大会プレナリーセッションを設定し、より多くの会員参加となるよう相乗効果を期待したプログラム構成をとった。

さらに、今年度、信学会 100 周年であることから 100 周年記念事業の一環として、エレソでは和文論文誌 C による「学会創立 100 周年記念特集」やソサイエティ大会のエレソ プレナリーセッションにて電子情報通信学会 100 周年記念シンポジウムとしてその分野の第一人者による最新動向を 5 件の講演からなる「エレクトロニクスの発展の現状と未来像：IoT や AI が築く世界の先に見えるもの」を開催した。

また、継続的な取り組みとして委員会資料の電子化・DB 化やリーダーズミーティング（研専幹事向けオリエンテーション）等、実施基盤となるソサイエティ運営の強化・効率化も進めた。

以下、本年度のソサイエティの主な活動を三つの会議ごとに記す。

(1) 企画会議：例年通りエレソ全体の財務立案と把握、企画の取りまとめと発信、会員サービスの充実、対外広報などを担当した。

(1-1) 予算：今年度に引き続き次年度も「エレクトロニクスソサイエティ独自の事業費」に関する予算を確保し、会員活性化・増加施策の強化を図った。2017 年度予算案段階では約 420 万円の黒字であり、2017 年 12 月時点での執行状況は、2016 年度と比較して改善傾向にある。2018 年度については、編集費・組版費の見直しによる費用削減、I-Scover の運用終了などにより、約 900 万円の黒字を見込んだ修正予算案を策定した。引き続き、安定的な黒字化を目指した財務改善を進める。

(1-2) 顕彰：エレクトロニクスソサイエティ活動功労表彰として 42 名の表彰を行った。エレクトロニクスソサイエティ優秀学生修了表彰として、8 大学 9 専攻が選ばれた。例年通り、平成 29 年度（第 21 回）エレクトロニクスソサイエティ賞の選考を実施し、3 分野において表彰を行う予定である。また、2017 年度エレソフェロー推薦候補者を 6 名、2017 年度シニア会員候補者を 7 名選定した。さらに、研究技術会議と連携して、2017 年度ソサイエティ大会における若手発表者を対象に、エレソ学生奨励賞受賞を 6 件選定し、2018 年総合大会にて表彰した。サイエティの活性化の一環として学生からの論文投稿を促す目的で、表彰式では各人の写真、受賞論文名を記載したスライドを準備し受賞者紹介を行うと同時にソサイエティの HP にも受賞者の紹介を行った。

(1-3) 広報：エレソ Newsletter は年 4 回発行した。各号において、各領域委員会の活動紹介、各賞受賞者、技術解説の寄稿などを編集し、記事内容の充実を図った。海外会員増強策として英語版の Flyer を作成した。

(2) 編集出版会議：例年通り出版戦略、編集出版関係財務の立案と把握、著作権管理方法、3 論文誌発行を担当した。エレソ各論文誌の存在感が一層高まるよう、以下の施策を進めた。

(2-1) 和文誌：注目研究者による招待論文や解説記事の掲載を継続して進め、論文誌の魅力増大を図った。これは多くを占める本会の日本人会員（特に学生や若手研究者）に対し、母国語による効率的な教育・知識普及、最新技術動向の把握の効果が望めるためである。一方、一般投稿の論文数増大を目的に宣伝活動（学位取得を目指す研究者向けに和文誌に投稿するメリットなどを説明）も精力的に行った。また、学会創立 100 周年事業の一環として、「学会創立 100 周年記念特集」を企画した。情報・通信の発展の基礎となった技術の中からエレクトロニクスに関係する 12 件の技術を選定し、その技術の第一人者の研究者に執筆を依頼して、特集を組んだ（J100-C 巻 10 号に掲載）。

(2-2) 英文誌：昨年までに引き続き投稿 Web サイトで投稿促進を行い、投稿件数の増加を図っている。英文誌は特集号として進める方針を維持しながら、ELEX で獲得した世界の研究者からの一般投稿を促進する。また編集委員会の国際化を一層進めるため、編集委員の海外比率を高め、各種国際会議との連携を強める。論文誌の価値向上施策として、IEEE Explore への掲載と採録決定論文の早期公開について検討。IEEE Explore 掲載は、学会全体でのコンテンツ利用促進策に沿って英文誌 B と足並みを揃え

て検討を進める。また、インパクトファクタ向上に向けた早期公開は 2019 年からの導入を決定した。

(2-3) ELEX：全面オープンアクセスという特長を堅持し、発刊以来、速報性の維持・向上につとめてきた成果により投稿数は順調に増加してきた。質の高い論文の比率を向上させ論文誌のインパクトファクタをより高めるため、編集体制の強化、論文スコープの整理・著者への周知徹底などを継続して行った。特に、投稿論文のプレスクリーニング、および編集委員による採否判定基準のばらつき等の抑制を目的に、2015 年度から導入したシニアアドバイザー制度を今年度も継続的に運用した。本制度については、今年度の実績を精査し、制度の浸透とともに効果がより高まっていることを確認したので、一部見直しを行うとともに委員を増員した上で来年度以降も継続させる。加えて、国際基準での評価向上を目指して、第一線の研究者による論文投稿を促すとともに海外から編集委員を積極的に採用した。また、これらの施策の継続・拡充を通してインパクトファクタの向上を着実に達成するため、投稿・採録数等の実態および関係他誌の状況を注意深く検討の上で掲載料の値上げを実施した。値上げ実施後も投稿数・採録数に大きな変化は見られず、財務基盤の大幅な強化が達成される見込みである。

(3) 研究技術会議：研究専門委員会(研専)の活動活性化策立案、新規研専の設立や特別研専の継続の審議、研専関係財務の掌握、ソサイエティ大会統括、国際会議運営支援、シスターソサイエティ対応などを担当している。学会の研究活動の主体を成す研専が一層活発になるよう経費も含めた運営方法の改善を図るとともに HP 維持管理費の補助や研究会活性化費による支援等を継続した。昨年度から、エレソ改革の一環として、研究会を関連する技術領域に大別し再編成した 3 つの領域委員会等を通じて、各研専の企画立案をより活性化し、国際会議の協賛手続きの簡素化等意思決定の迅速化を進めてきた。これらの取り組みは定着化してきているが、今後も更なる活性化や効率化に向けて課題等の抽出を行い、次年度以降の活動に供する予定である。また、ソサイエティ大会・総合大会の活性化に向けて、シンポジウムや一般講演での依頼講演などの研専の企画に対する支援や企業会員参加促進のための各種施策を継続した。更に、国際会議の活性化、著作権及び財務の課題解決のための支援、国内外の他学会との新たな協力関係の構築にも取り組んだ。また、国際的な会員増強を目指し、海外セクションとの共催などのエレソ活動については、その実施内容を周知した。さらに、本会 100 周年事業の一環として、エレソとしての記念シンポジウムを研究技術会議が中心となって検討し、2017 年ソサイエティ大会にて開催した。2018 年総合大会では、各ソサイエティが合同開催した Welcome Party にてエレソ研究会の紹介を実施した。ソサイエティを跨がるイベントとして活性化の一助としたい。

2017 年度は 5 つの研専において、当日の冊子体の技報販売をおこなわず、電子媒体での配布をおこなう技報電子化研究会をトライアル実施した。またトライアル実施状況を踏まえ、2018 年度よりすべての研究会を技報電子化研究会として開催すべく、準備をおこなった。具体的には、トライアル研究会参加者へのアンケート実施、全研専幹事団からの意見収集をおこない、領域連携会議での議論を経て、聴講参加費の年間登録制、技報ペーパービュー制度の導入を決定した。また、2018 年度の冊子体技報年間予約者向けに、新技報アーカイブの試用提供を開始することを決定した。これらの内容は、1 月に全研専向けに説明会を開催し周知を図るとともに、2 月にエレクトロニクスソサイエティ HP 上に特設ページを開設し、参加者向けに情報発信をおこなっている。2019 年度は、年間購読を含めたすべての技報を電子化すべく検討を継続するが、電子化による収支改善の予測精度を上げながら、適切な制度設計・各種料金設定をすることが必要になる。

(3-1) 研究専門委員会等の活動：エレクトロニクスソサイエティの根幹を成す 15 の研究専門委員会と 7 の特別研究専門委員会、6 の国際会議国内委員会が、各研究学術活動の活性化を目指した施策を行った。

(3-2) 国際会議：協催・協賛・後援案件 7 件の国際会議を開催した(2017 年 4 月～2018 年 3 月)。

(3-3) 2017 (平成 29) 年ソサイエティ大会 (東京都市大学 世田谷キャンパス) では一般講演 221 件に加えて、シンポジウム講演 14 件、ソサイエティ特別企画 1 セッション、パネルセッション 1 セッション、依頼シンポジウム 5 セッションを実施した。エレクトロニクスソサイエティプレナリセッション・電子情報通信学会 100 周年記念シンポジウムとして「エレクトロニクスの発展の現状と未来像：IoT や AI が築く世界の先に見えるもの」を企画し、創立 100 周年を迎えるにあたり、現時点での世の中の発展に寄与しているエレクトロニクス技術に触れるとともに、今後延びるであろう／関わっていかねばならないであろう新たな展開について情報を得ることによって、関係者の今後の活動への一助とするこ

とを期待し、シンポジウムを企画した。

2018(平成30)年総合大会(東京電機大学)では一般講演305件に加えて、シンポジウム講演23件、ソサイエティ特別企画2セッション、チュートリアル2セッション、依頼シンポジウム5セッションを実施した。ソサイエティ特別企画では、活動功労表彰対象者と今後、ソサイエティを担っていく学生奨励賞受賞者の栄誉を称えプレナリーセッションにて表彰式を実施した。さらに、プレナリーセッション後のソサイエティ合同のWelcome Partyとも連携させ、会員間相互の親睦が深まることを期待したイベントを実施した。マイクロ波研究専門委員会は海外会員の開拓や国際化の活性化を目的にThailand-Japan Microwave (TJMW) 2017/Vietnam-Japan Microwave (VJMW) 2017 優秀発表賞特別セッションを企画した。

(3-4)リーダーズ・ミーティング(研専幹事意見交換会)を2017年7月12日に行った。研究専門委員会運営に関わる幹事、幹事補佐及び運営委員を対象に、各会議から研究専門委員会に関する主要な伝達事項の説明及び質疑を行い、研専運営に関する手続き、情報等に関する理解を深めた。

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティ(以下、ISSと略す)は、コンピュータによる情報処理技術、コンピュータ・通信・人間を融合したシステム化技術に関する基礎から応用までの分野を研究領域としている。本ソサイエティの役割は、会員に研究発表と交流の場を提供するとともに、今や重要な社会基盤となった情報技術分野の持続的な発展と情報社会での様々な問題解決に貢献することにある。ISSが同研究分野の日本での中心的活動母体であり続けるだけでなく、情報社会の健全な発展のために貢献してゆくために、2017年度は、中長期計画に従って、①会員の研究プロセスに応じた研究資料の電子化による公表方法の検討とその試行、②社会的課題に対する情報発信、研専・論文誌・ソサイエティ誌の活性化、③会員サービスの充実、④ISSの運営体制の強化に重点を置き、以下の活動を展開した。主要な活動を以下に示す。

(1) FIT2017(情報科学技術フォーラム)

ソサイエティ大会(ISS/HCG)と情報処理学会(IPSJ)の秋の全国大会を統合したFIT2017を、2017年9月12日～14日の3日間、東京大学で開催した。今年から査読付き論文廃止に伴い選奨セッションを設け、選奨論文100件、一般論文369件の計469件(昨年度598件)が発表された。参加者数は1,505名(昨年度1,347名)であった。前年から発表件数は減少したものの、参加者数は増加となった。電子情報通信学会100周年記念イベントが行われ、船井業績賞(1件)、船井ベストペーパー(3編)、FIT論文賞(7編)、FITヤングリサーチャー賞(7名)、FIT奨励賞(58名)を選定・表彰した。FIT2018は、福岡工業大学で2018年9月19日～21日に開催予定である。

(2) 2018年総合大会

東京電機大学で2018年3月20日～23日に開催された2018年総合大会では、1,937件(ISSから349件)の発表(前年比86.7%)が行われたのに加え、ソサイエティ特別企画として学生ポスターセッションを2日間にわたり実施した。本セッションは2005年の創設以来、盛況であり、本年は214件(前年比95%)の発表があった。期間中に優秀ポスター賞を選定し、7名を表彰した。この他、「超スマート社会に寄与するセキュリティリサーチ・アライアンス」の特別企画1件、「人工知能・深層学習の実世界応用」のチュートリアルセッション1件、「AIの社会応用におけるセキュリティ・プライバシー」の依頼シンポジウム1件、「COMP-ELC学生シンポジウム」のシンポジウムセッション1件の企画セッションが開催された。平成29年度における本ソサイエティの学術奨励賞受賞者8名への授賞式が3月22日に行われた。今回は、早稲田大学で2019年3月19日～22日に開催予定である。

(3) 国際化に係る活動

パターン認識国際連盟(IAPR: International Association for Pattern Recognition)への加盟を継続し、2017年度は557名の登録であった。

(4) 研究会活動

2017年度も昨年度と同じく、23研究専門委員会と、5時限研究専門委員会により活発な活動を行っ

た。第一種研究会開催総数は 130 回（前年比 98%）、発表総件数は 2,573 件（前年比 97%）であった。来年度は 4 時限研究専門委員会が特別研究専門委員会として継続される予定である。

また、研究専門委員会の活性化に向けて、本部「研究会連絡会」と連動して、現状の問題点の洗い出し及び今後のあり方について検討を続けており、研専活動活性化のための活性化資金の運用を技術会議で行える仕組み等を検討中である。そして、研究専門委員会の活動の見える化のため、過去の研究会開催件数と投稿件数などの Web 掲載を実施した。

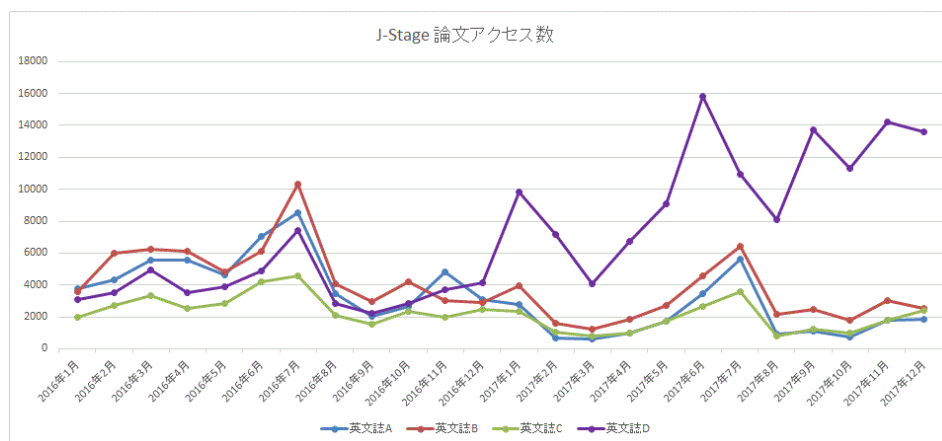
なお、技術報告書（技報）が既発表とみなされる問題（これが原因で研究会での発表件数が減少している問題）への施策として、技報フォーマットの見直しを実施した。また、2018 年度に予定している技報の完全電子化の準備段階として、2017 年度から技報電子化トライアルを実施した。

(5) 選奨に関する活動

本ソサイエティでは、ソサイエティの独自性向上と活性化のための施策として、サーベイ論文、先見論文、連作論文、システム開発論文を選定対象とするソサイエティ論文賞を設定している。ソサイエティ活動について顕著な貢献があった会員を選奨する活動功労賞も設定し、2009 年度からは、従来の活動功労賞を「活動功労賞」と「査読功労賞」に発展的に分割し、貢献のあった会員を選奨している。2016 年度ソサイエティ論文賞 1 編、2017 年度活動功労賞 11 名ならびに査読功労賞 10 名を選定し、2017 年 6 月の ISS 新旧交代合同拡大運営委員会開催後に機械振興会館において授賞式を行った。

(6) 論文誌

和文論文誌に掲載された論文総数は 131 編（前年比△9.6%）、2017 年度に英文論文誌に掲載された論文総数は 402 編（前年比 9.6%）であった。和文に関しては減少傾向が 4 年続いている。英文に関しても、投稿論文数は大きく変化しない一方、採録論文は減少している。論文誌オープンアクセス化検討タスクフォースでの議論に基づき、英文論文誌オープンアクセス化（J-STAGE 公開）を 2017 年 1 月より行っている。投稿数への効果はまだ見えてきていないが、2017 年 1～12 月の英文論文アクセス数は、英文誌 A～C のそれぞれと比較して 3.6～6.1 倍、英文誌 D の前年同月比においても 2.6 倍以上となり効果が得られつつある。今後、英文誌への投稿数の推移は、国別推移数も含め、見守る必要がある。通信学会全体として英文誌をオープン化すべきか否かに関しては、学会全体のタスクフォースにて検討が進んでいる。



(7) 和文誌の活性化

論文誌の知名度を高めるため、著者が管理するサーバーにて自身の論文 PDF を公開できることを、編集委員会で編集委員に告知する活動を続けている。ここ数年継続している、新規分野への参入を目指す研究者を対象とした解説論文であるが、本年度は、医用画像処理に関する論文 1 本を掲載した。特集号については投稿数減少の対策として、編集委員が関係している研究会やメーリングリストでの広報を行っている。以前からおこなっている、臨時査読委員の査読の質の記録も継続しており、開始時から経験豊富な常任査読委員が 89 名も増加した。併せて、質の高い判定報告書を維持するために幹事団による全数チェックや、編集委員の編集能力向上のために委員会への出席率改善策などを実施しており、異議申し立ての減少や出席率の向上が見られた。

(8) 英文誌の活性化

論文誌の価値を高めるために、和文論文誌で論文賞を受賞した優秀な論文を集めて招待論文とする小特集号を初めて発行した。今後も定期的に発行する予定である。研専からの特集号提案数の増加などを目的とした連携強化のため、研専からのリエゾン編集委員を常設とした。23の研専中、19の研専に協力いただけることになった。論文誌オープン化に伴い、海外の読者・投稿が増えることを期待して、編集委員の海外メンバ増強にも取り組み、2016年度4月時点で8人だった海外編集委員を21人にまで増員した。掲載料が未納となる場合があるため、掲載料の先払い制を2018年度採録分から開始することにした。また、オープン化に合わせて冊子体別刷を廃止し、省資源化した。さらに、ある研究者あるいは研究グループの長期に渡る研究や、それに関連する研究をまとめた論文で、過去に様々な国際会議や論文誌で発表された研究活動全体を俯瞰し、一貫した論理の下に体系的に記述した論文のための新しいカテゴリ、**Research Overview** (仮) カテゴリに関して検討を続けている。

(9) ソサイエティ誌

本年度もソサイエティ誌は、5回/年の発行を実施し、研究会活動を紹介するためのインタビュー記事、研究会の会議報告等などの掲載を継続した。さらに、ソサイエティ活動の活性化を目的として、研究会、国際会議、コンテスト等の幅広い活動内容の情報発信を積極的に研究会に呼びかけることで、多彩な記事が掲載され、ソサイエティ会員の情報共有、円滑な連携を支援した。

(10) 技報の電子化・リポジトリ化について

2007年度以降(今後も含み)すべての技報は、通ソ作成の技報オンラインサービスにて電子化・オンライン閲覧サービスが提供されてきた。本サービスは2014年度より正式運用となり、今年度も継続運用されている。また、1993~2006年の技報はNIIのCiNiiにより閲覧サービス提供中である。1992年以前の技報については、2014年度から引き続き電子化(PDF化)を行った。これにより紙媒体の劣化の問題は解決される。また、通信ソサイエティによる技報の完全電子化・研究会参加費徴収トライアルを参考に、ISSとしても技報電子化トライアルを実施した。複数の研究会でのトライアル結果を受け、2018年度より技報の完全電子化を実施する。

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)は1995年度の発足以来、人を中心とした境界領域を扱っている。論文誌に採録した論文や研究発表の多くは工学の範囲を超え、生理学、心理学、認知科学、社会学、社会心理学、言語学、文化人類学など幅広い学術分野に関連している。これは他のソサイエティ等では見られないHCG最大の特徴である。第一種研究会やシンポジウムは、これら広い分野にまたがった研究者交流の場として定着している。また研究だけではなく学会/研究会運営についても活発な意見交換を行っている。

2017年度には、電子情報通信学会全体で制定された研究会規定(2017年2月)にしたがい、その下位規定であるヒューマンコミュニケーショングループ運営規程を改正した。また魅力工学特別研究専門委員会を創設し新たな研究分野も開拓した。その他グループの円滑な運営と予算の効率的な執行を目的として、研究専門委員会等の活動報告書の書式統一と予算執行の厳格化などを実施した。2018年度には技術研究報告電子化(技報電子化)/参加費制度の試行(トライアル)を実現すべく、HCGとしての取り組み方を検討した。上の述べたとおりHCGの研究会には他学会(非会員)の参加者が多く、先行する他のソサイエティの考え方をそのまま適用できないことも多い。翌2019年度からはすべての第1種研究会で正式運用する予定であり、2018年度の試行で得られる経験、知見をグループ全体で共有し、全面的な技報電子化に備える。

以下、2017年度の主な活動概要を示す。

(1) 研究会

2017年度は、4つの研究専門委員会、5つの特別研究専門委員会、および2つの第三種研究会運営委員会が研究活動を行った。上記のとおり特別研究専門委員会のうちひとつは2017年度に設置した。

2018年度はヒューマンコミュニケーション基礎(HCS)研究会とメディアエクスペリエンス・バーチャル環境基礎(MVE)研究会の2つの第一種研究会で技報電子化/参加費制の試行(トライアル)を実施する。2019年度からは4つの第一種研究会のすべてで技報電子化の正式運用を開始し、同時に技報

アーカイブなどのサービスも開始する予定である。

(2) HCGシンポジウム (<http://2017.hcg-symposium.org>)

13回目に当たるHCGシンポジウム2017を2017年12月13日から15日まで、金沢歌劇座（金沢市）で開催した。このシンポジウムはHCGの代表的イベントで、すべての研究専門委員会等が企画・運営の段階から協働する。シンポジウム運営委員は各研専等から選出された委員で構成される。

今回の参加者数は244名でこれまでの最高記録になった。また研究発表件数は124件で、このうち114件の講演者がデモ展示可能な対話型セッション「インタラクティブセッション」でも発表を行い、発表者・参加者相互の活発な交流を行った。今回のシンポジウムでは新企画として次の2つを実施した。

(ア) チュートリアル講演

「工学系研究者のための心理学的研究手法ガイド」、講師：小森政嗣氏（大阪電通大）
HCGシンポジウムの研究発表ではユーザの主観評価実験を伴う例が多い。しかし心理学者からみると被験者の選び方、実験環境などに問題がある場合が多い。このチュートリアルでは「ヒトを対象とした研究のコツとルール」（講演資料）を、専門家の講師に解説していただいた。ともすると工学分野の研究者が見落としがちなポイントを、ユーモアを交えながら分かりやすく説明していただいた。ホスティングサービスのSlideshareで公開している講演スライドのView件数は、この報告書の執筆時点で6,500近い。

(イ) HAI 2017 (Human-Agent Interaction) とのジョイント

<http://hai-conference.net/symp2017/>

同一会場で会期が連続していたことと、会議の対象分野に関連が深いことから、準備段階からジョイントを企画し、双方の関係者4名によるパネルディスカッションも実施した。また互いの参加者にプログラムの一部を無料で開放した。また会議運営上の工夫として、会場内の施設（会議室など）の賃借をまとめ、支出の圧縮や準備時間の確保を図った。

2018年度のHCGシンポジウム2018は、12月12日から3日間、伊勢市シンフォニアテクノロジー響（伊勢市）で開催する。

(3) 論文誌

和文論文誌D分冊の特集号「ヒューマンコミュニケーション～伸縮自在のコミュニケーション～」を2018年3月号として発行した。また和文論文誌A分冊の特集号「ヒューマンコミュニケーション～ヒューマンコミュニケーションの価値創造～」を2019年2月号として発行する予定である。食メディア特別研究専門委員会の企画による英文論文誌D分冊の特集号「Special Issue on Multimedia for Cooking and Eating Activities」も投稿募集を開始している。この特集号は2019年7月に発行予定である。

(4) 国際的活動

食メディア特別研究専門委員会の企画として第9回調理・摂食活動のためのマルチメディアに関する国際ワークショップ（CEA2017）」を、また魅力工学研究専門委員会の企画として「第2回マルチメディアにおける魅力工学に関する国際ワークショップ（ACM2017）」をそれぞれ開催した。参加者数等の実績については「2. 国際会議に関する事項」に記した。

(5) 表彰活動

平成29年度ヒューマンコミュニケーション賞（HC賞）の選定を行い、311件の研究会発表から7件が選考され、HCGシンポジウム2017会場において表彰式を行った。本賞は第一種研究会の発表から25件につき1件、以降50件ごとに1件を基準とし、各研究会で組織したHC賞審査委員会において選考した。またHCGシンポジウム2017の発表の中から最優秀インタラクティブ発表賞2件、優秀インタラクティブ発表賞4件、学生優秀インタラクティブ発表賞4件、特集テーマセッション賞4件を選考、表彰した。各賞の詳細は「4. 選奨に関する事項」に記した。

(6) HCG編集委員会規定の規定

2016年度にグループ内に設置した編集委員会の規定「ヒューマンコミュニケーショングループ編集委員会規程」を2018年度3月に制定し、同日施行した。これはHCG独自（単独）の委員会規程であり、電子情報通信学会論文誌編集委員会などとは関係しない。上位に位置づける規定もない。編集委員会の趣旨や活動内容などの詳細は2016年度の事業報告を参照されたい。

この規定では電子情報通信学会和文論文誌A分冊、同D分冊、電子情報通信学会英文論文誌D分冊で定期的に出版する「HC特集号」の編集を担う委員会であること、編集委員会の役職構成と任期、編集会議が取り扱う事項などを規定しており、継続的な論文誌編集活動の根拠として重要である。

(7) 研究専門委員会等の活動報告統一

すべての研究専門委員会等は、定期的で開催するHCG拡大運営委員会（以下拡大運営委）で活動報告と予算執行状況を報告している。これまで報告の内容（項目）や報告書の書式が統一されておらず、会議の円滑な進行を妨げていた。そこで各回の拡大運営委で報告すべき内容を定め、同時に報告書の様式／書式を統一した。

また拡大運営委の開催時期が、ソサイエティ／グループが事務局・経理課に予算や決算を報告する時期とうまくかみ合っておらず、年度途中の予算要求（例えば後述の情報保障費）では意思の疎通が難しいメール審議に頼らざるを得なかった。そこで報告書統一と合わせ、これら予算に関わる研専等からの要求や報告の時期と内容にも規則を定め、予算執行の円滑化と予算と実績の乖離防止を図った。

(8) 情報保障活動

HCGは障がいを持つ人達のための研究や、障がいを持つ研究者が自由に参加できる研究会の会場整備を積極的に推進している。たとえば研究会やシンポジウムの会場がバリアフリーの基準を満たすことや、ろう者のための手話同時通訳の配置を原則としている。その費用はHCGに配分された予算で賄っている。しかし障がいをもつ研究者が参加しようとするのはHCGの研究会に限定されない。理事会での議論によれば、会員数減少に歯止めをかけるため、今後は幅広い層の人達を学会活動に呼び込むための方策を検討している。そのためには、情報保障をHCGだけの活動に限定するのではなく、電子情報通信学会全体が情報保障をどのように考えるかを議論し、予算が必要なら本部の事業費として計上することを検討すべきだろう。例えば情報処理学会では学会全体で年間100万円の予算を準備している。HCGでは平成28年の総合大会のすべてのセッションを対象にした情報保障の提案を行い、福祉情報工学（WIT）研究会の全面的な協力により実施した。このような試みを学会活動全般に広げることを提案する。

1. ソサイエティ大会に関する事項(定款 第4条 ロ号)

1. 1 ソサイエティ大会

下記の期日・会場において基礎・境界、NOLTA、通信、エレクトロニクスの4ソサイエティが合同して開催した。

期 日 2017年9月12日(火)～15日(金)
 会 場 東京都市大学 世田谷キャンパス(東京)
 参加者 2,826名
 懇親会 東京都市大学 食堂 CANTEEN RARA 参加者 88名

(a) 企画講演セッション数

企画種別	大会委員会	ソサイエティ				合計
		基礎・境界	NOLTA	通信	エレクトロニクス	
大会委員会セッション	4	—	—	—	—	4
ソサイエティ特別企画セッション	—	‡ 1	‡ 1	2	1	5
パネルセッション	—	0	0	5	1	6
チュートリアルセッション	—	3	0	2	0	5

依頼シンポジウム	—	2	0	8	5	15
合計 (共催を含む)	4	‡6	‡1	17	7	35

‡ 基礎・境界と NOLTA の共催企画 1 件を含む

(b) 公募講演件数

	ソサイエティ				合計
	基礎・境界	NOLTA	通信	エレクトロニクス	
一般セッション	161	36	720	221	1,138
シンポジウムセッション	11	0	†78	†14	103
合計	172	36	†798	†235	1,241

† 通信とエレクトロニクスの共催 6 件を含む。

1. 2 FIT2017(第 16 回情報科学技術フォーラム)

下記の期日・会場において情報・システムソサイエティ、ヒューマンコミュニケーショングループ及び情報処理学会が合同して開催した。

期 日 2017 年 9 月 12 日(火)～14 日(木)
 会 場 東京大学・本郷キャンパス (東京)
 参加者 1,505 名
 懇親会 キャンパス内レストラン カポペリカーノ 参加者 59 名

イベント企画	研究会提案企画	11 課題
	委員会提案企画	10 課題
	現地提案企画	2 課題
講演件数		469 講演

2. 国際会議に関する事項(定款 第 4 条 ロ号、へ号)

次のとおり開催した。

会 議 名	開催年月日	参加者数	論文数	場 所	
第 2 回マルチメディアにおける魅力工学に関する国際ワークショップ (ACM2017) ※ IEEE BigData2017 併設	2017. 4.20	30	4	ラグーナ ヒルズ (米国)	HCG
光通信インフラの飛躍的な高度化に関する国際 シンポジウム (EXAT 2017)	2017.06.07 ～06.09	85	46	奈良市	CS
International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2017)	2017.07.02～ 07.05	399	280	釜山, 韓国	ESS
第 9 回調理・摂食活動のためのマルチメディア に関する国際ワークショップ (CEA2017) ※ IJCAI2017 併設	2017. 8.20	20	10	メルボル ン (豪州)	HCG
The 12th International Workshop on Security (IWSEC2017)	2017.8.30 ～9.01	117	32	広島	ESS
2017 International Workshop on Smart Info-media Systems in Asia (SISA2017)	2017.9.06～ 9.08	126	75	福岡	ESS
アジア・太平洋 ネットワーク運用と管理シンポ ジウム (APNOMUS 2017)	2017.09.27 ～09.29	180	87	韓国/ソ ウル	CS

3. 出版に関する事項(定款 第4条 イ号)

3. 1 和文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別(A・B・C・D)に電子版を本会サイトにて公開した。
掲載総ページ数は3,219ページである。

分冊	論文	レター	その他	計	特集回数 回
	件数 ページ数	件数 ページ数	ページ数	件数 ページ数	
JA	28	21		49	2
	280	82	3	365	
JB	90	16		106	8
	966	66	13	1,045	
JC	68	17		85	4
	575	62	6	643	
JD	100	18		118	7
	1,084	68	14	1,166	
計	286	72		358	21
	2,905	278	36	3,219	

※その他：巻頭言、正誤

3. 2 英文論文誌の発行状況

各ソサイエティ別(A・B・C・D)に電子版を本会サイト及びJ-STAGEにて公開した。
掲載総ページ数は9,747ページである。

分冊	論文	レター	その他	計	特集回数 回
	件数 ページ数	件数 ページ数	ページ数	件数 ページ数	
EA	217	157		374	11
	2,113	708	15	2,836	
EB	266	1		267	9
	2,607	14	11	2,632	
EC	102	29		131	8
	828	119	12	959	
ED	274	128		402	15
	2,759	539	22	3,320	
計	859	315		1,174	43
	8,307	1,380	60	9,747	

※その他：巻頭言、正誤

3. 3 電子ジャーナルの発行状況

(1)NOLTA ソサイエティ

NOLTA ソサイエティでは、ペーパーレス英文論文誌「Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE (略称NOLTA)」(年4回発行)に35件、426ページを掲載した。

(2)通信ソサイエティ

通信ソサイエティでは、ペーパーレス英文論文誌「IEICE Communications Express(略称ComEX)」(月1回発行)に113件、643ページを掲載した。

(3)エレクトロニクスソサイエティ

エレクトロニクスソサイエティでは、ペーパーレス研究速報英文論文誌「IEICE Electronics Express(略称 ELEX)」(月2回発行)に334件、2,874ページを掲載した。

3. 4 ニュースレター、ソサイエティ誌の発行状況

各ソサイエティ及びグループでニュースレター、ソサイエティ誌を下記のとおり発行した。

(1) 基礎・境界ソサイエティ/NOLTA ソサイエティ	Fundamentals Review	4回	320ページ
(2) 通信ソサイエティ	マガジン誌(通信ソサイエティマガジン)	4回	306ページ
	GLOBAL NEWS LETTER	4回	172ページ
(3) エレクトロニクスソサイエティ	ニュースレター	2回	64ページ
(4) 情報・システムソサイエティ	ニュースレター	5回	116ページ
(5) ヒューマンコミュニケーショングループ	ニュースレター (Web)	3回	20ページ

4. 選奨に関する事項(定款 第4条 ホ号、へ号)

所定の手続きによって選考が進められ、次のとおり各受賞者を決定した。

4. 1 基礎・境界ソサイエティ/NOLTA ソサイエティ

(1)功労賞

業 績	貢 献 者
ASP-DAC2017 General Chair としての貢献	高木 直史
ITC-CSCC2016 Organizing Chair としての貢献	名嘉村盛和
ISITA2016 実行委員長としての貢献	松嶋 敏泰
2017年暗号と情報セキュリティシンポジウム実行委員長としての貢献	宮崎 哲弥

以上4名

(2)貢献賞

(2.1) ソサイエティ運営

業 績	貢 献 者
基礎・境界ソサイエティ「庶務幹事」としての貢献	松本隆太郎
基礎・境界ソサイエティ「会計幹事」としての貢献	楫 勇一
基礎・境界ソサイエティ「大会担当幹事」としての貢献	小川 朋宏
基礎・境界ソサイエティ「事業担当幹事」としての貢献	斎藤 秀俊
基礎・境界ソサイエティ「英文論文誌編集幹事」としての貢献	福島 和英
基礎・境界ソサイエティ「ソサイエティ誌担当幹事」としての貢献	深山 篤
基礎・境界ソサイエティ「電子広報担当幹事」としての貢献	八木 秀樹

以上7名

(2.2) 編集

業 績	貢 献 者
英文論文誌編集委員としての貢献	市毛 弘一
ソサイエティ誌編集委員としての貢献	安里 彰
ソサイエティ誌編集委員としての貢献	伊藤 誠
ソサイエティ誌編集委員としての貢献	齊藤新一郎
ソサイエティ誌編集委員としての貢献	森下壮一郎

以上5名

(2.3) サブソサイエティ運営

業 績	貢 献 者
情報理論とその応用サブソサイエティの運営及び活動に対する貢献	井坂 元彦

以上1名

(2.4) 研究専門委員会運営, その他事業

業 績	貢 献 者
回路とシステム研究専門委員会の運営及び活動並びに第 30 回回路とシステムワークショップの運営に対する貢献	越田俊介

以上 1 名

(2.5) 研究専門委員会運営

業 績	貢 献 者
情報理論研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	岩本 貢
信頼性研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	岡村 寛之
超音波研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	畑中 信一
応用音響研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	堀内 俊治
VLSI 設計技術研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	福田 大輔
情報セキュリティ研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	駒野 雄一
信号処理研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	平林 晃
ワイドバンドシステム研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	佐藤 正知
システム数理と応用研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	中田 充
技術と社会・倫理研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	多川 孝央
高度交通システム研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	橋本 尚久
スマートインフォメディアシステム研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	原田 康祐
バイオメトリクス研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	今岡 仁
安全・安心な生活のための情報通信システム時限研究専門委員会の運営及び活動に対する貢献	井ノ口宗成

以上 14 名

(2.6) 国際会議

業 績	貢 献 者
SISA2016 の運営に対する貢献	Chusit Pradabpet
ASP-DAC2017 の運営に対する貢献	高木 一義

以上 2 名

(2.7) 国内会議

業 績	貢 献 者
SITA2016 の運営に対する貢献	鎌部 浩

以上 1 名

(2.8) その他

業 績	貢 献 者
2017 年情報セキュリティ特集号編集幹事としての貢献	大東 俊博
バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム 2016 の運営に対する貢献	槇原 靖

以上 2 名

(3) Fundamentals Review ベストオーサー賞

論 説	著 者
ゲノムとプライバシー	佐久間 淳

以上 1 名

4. 2 通信ソサイエティ

(1) ソサイエティ論文賞

論 文 名	著 者 名
【優秀論文賞】 空間変調に基づく時空間符号分割多元接続	福間 恵 (香川大) 石井光治 (香川大)

マイクロ波電力伝送試験モデル：受電部の開発	小澤雄一郎 (IHI エアロスペース) 藤原暉雄 (IHI エアロスペース) 田中直浩 (IHI エアロスペース) 佐々木謙治 (宇宙システム開発利用推進機構) 中村修治 (宇宙システム開発利用推進機構)
【チュートリアル論文賞】 移動通信における信号処理アンテナの進展	小川恭孝 (北大) 西村寿彦 (北大) 大鐘武雄 (北大)
Machine Type Communication (MTC) に適した非直交多元接続方式とその応用	岡本英二 (名工大) 星野正幸 (ルネサスエレクトロニクス)
【Best Paper Award】 NDN-based Message Delivery with Collaborative Communication for Reducing Base Station Power Consumption in Disasters	Yuki Koizumi (Osaka Univ.) Suhwuk Kim (Osaka Univ.) Yuki Urata (Osaka Univ.) Toru Hasegawa (Osaka Univ.)
On Approximated LLR for Single Carrier Millimeter-Wave Transmissions in the Presence of Phase Noise	Makoto Nishikori (Osaka Univ.) Shinsuke Ibi (Osaka Univ.) Seiichi Sampei (Osaka Univ.)
Extended S-Parameter Method for Measuring Reflection and Mutual Coupling of Multi-Antennas	Takashi Yanagi (Mitsubishi Electric) Toru Fukasawa (Mitsubishi Electric) Hiroaki Miyashita (Mitsubishi Electric)
【Best Tutorial Paper Award】 A Survey of Efficient Ray-Tracing Techniques for Mobile Radio Propagation Analysis	Tetsuro Imai (NTT DOCOMO)
Survey of Cloud-based Content Sharing Research: Taxonomy of System Models and Case Examples	Shinji Sugawara (Chiba Inst. Tech.)
【ComEX Best Letter Award】 Proposal of Zero-Padded CAZAC Sequence with Discrete Chirp Signal	Mio Hourai (Ise Gakuen) Hideo Kobayashi (Mie Univ.) Takashi G. Nitta (Mie Univ.)
【マガジン論文賞】 着るだけで生体情報計測を可能とする機能素材“hitoe”の開発及び実用化	河西奈保子 (NTT) 小笠原隆行 (NTT) 中島 寛 (NTT) 塚田信吾 (NTT)

以上 11 編

(2) マガジン賞

記 事 名	著 者 名
難関国際会議への論文投稿を通じた若手の育成 ——持続可能な研究コミュニティの確立——	笹瀬 巖 (慶大)

以上 11 編

4. 3 エレクトロニクスソサイエティ

(1) ソサイエティ賞

分 野	業 績	貢 献 者
第1分野	人体マルチフィジクスシミュレーション技術の開発とその応用への先駆的研究	平田 晃正 (名古屋工業大学)
第2分野	長波長帯分布帰還型レーザの開発と窒化物半導体基礎物性の解明によるエレクトロニクスへの貢献	松岡 隆志 (東北大学)
第3分野	多値NAND型フラッシュメモリとSSDシステムへの応用に関する先駆的研究	竹内 健 (中央大学)

以上 3 件

(2) レター論文賞

論 文 名	著 者 名
MZM ベース超平坦光コム発生器を用いた 600GHz 帯高精度周波数計測	桐ヶ谷 茉夕 (横浜国立大学) 諸橋 功 (情報通信研究機構) 金子 優太 (横浜国立大学) 片山 郁文 (横浜国立大学) 入交 芳久 (情報通信研究機構) 坂本 高秀 (情報通信研究機構) 関根 徳彦 (情報通信研究機構) 笠松 章史 (情報通信研究機構) 竇迫 巖 (情報通信研究機構)

以上 1 件

(3)ELEX Best Paper Award

論 文 名	著 者 名
A 12 to 24 GHz high efficiency fully integrated 0.18 μm CMOS power amplifier	Hamed Mosalam (Egypt-Japan Univ. of Science and Technology), Ahmed Allam (Egypt-Japan Univ. of Science and Technology), Hongting Jia (Kyushu University), Adel Abdelrahman (Egypt-Japan Univ. of Science and Technology), Takana Kaho (Kyushu University), Ramesh Pokharel (Kyushu University)

以上 1 件

(4)招待論文賞

論 文 名	著 者 名
複素振幅を扱うニューラルネットワークとそのエレクトロニクスにおける利点	廣瀬 明 (東京大学) 丁 天本 (東京大学)

以上 1 件

(5) エレクトロニクスソサイエティ学生奨励賞

分 野	講 演 者
電磁波理論およびマイクロ波分野	立澤 圭輔 (日本大学) 川島 祥吾 (京都大学) キム ヒョンス (東京大) 阿部 優樹 (青山学院大)
光半導体及びフォトニクス分野	柏木 悠汰 (兵庫県立大学) 三枝 慈 (東北大学) 菅沼 貴博 (東京大) 長山 竜也 (東工大)
回路およびエレクトロニクス分野	上倉 宇晴 (信州大学) 小野寺 尚人 (東京大学) 土屋 春樹 (東工大) 高橋 悠太 (電通大)

以上 12 名

4. 4 情報・システムソサイエティ

(1)ソサイエティ論文賞

論 文 名	著 者 名
【システム開発論文】 WORLD: a vocoder-based high-quality speech synthesis system for real-time applications	Masanori MORISE Fumiya YOKOMORI Kenji OZAWA

以上 1 編

(2) 功労賞

(2-1) 活動功労賞

業 績	貢 献 者
人工知能と知識処理研究専門委員会幹事，副委員長，委員長および和文論文誌編集委員としての貢献	栗原 聡(電通大)
情報通信システムセキュリティ研究専門委員会副委員長・幹事・幹事補佐としての貢献	植田 武(三菱電機)
パターン認識・メディア理解研究専門委員会、総合大会、FIT、MIRU への貢献	仙田 修司(NEC)
画像工学研究専門委員会幹事、二種研実行委員会幹事・委員としての貢献	坂東 幸浩(NTT)
マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究専門委員会副委員長等としての貢献	日置 尋久(京大)
ISS ソサイエティ誌編集幹事・編集特任幹事・編集委員としての貢献	篠崎 隆宏(東工大)
ISS 和文論文誌編集委員としての貢献	光原 弘幸(徳島大)
ISS 英文論文誌編集委員としての貢献	市瀬 龍太郎(NII)
ISS 英文論文誌編集委員，幹事としての貢献	横田 隆史(宇都宮大)

以上 9 名

(2-2) 査読功労賞

業 績	貢 献 者
論文誌査読委員としての貢献	伊藤 貴之(お茶の水女子大)
論文誌査読委員としての貢献	植芝 俊夫(産総研)
論文誌査読委員としての貢献	奥 健太(龍谷大)
論文誌査読委員としての貢献	加藤 丈和(京大)
論文誌査読委員としての貢献	斉藤 文彦(岐阜大)
論文誌査読委員としての貢献	辛 星漢(産総研)
論文誌査読委員としての貢献	角 保志(産総研)
論文誌査読委員としての貢献	田中 正行(東工大)
論文誌査読委員としての貢献	堀田 一弘(名城大)
論文誌査読委員としての貢献	柳井 啓司(電通大)

以上 10 名

(3) 優秀ポスター賞

氏 名	所 属	氏 名	所 属
岩間 俊樹	釧路公立大	高見澤 賢侍	筑波大
梅津 吉雅	奈良先端大	能美 奨	中央大
佐藤 飛鳥	名大	藤田 風志	東京理科大
親泊 潤	同志社大		

以上 7 名

4. 5 FITの各賞

(情報・システムソサイエティ及びヒューマンコミュニケーショングループと情報処理学会との合同)

(1) 船井業績賞

業 績	受 賞 者
Computer Vision 分野における世界的研究業績と人材育成	池内 克史(マイクロソフト) フト リサーチアジア)

以上 1 件

(2)船井ベストペーパー賞

論 文 名	受 賞 者
アンサンブル学習に着目した画像認識のための 畳み込みニューラルネットワーク	武田敦志 (東北学院大)
レイヤ型 Light Field Display におけるレイヤ高解像度化の効用	小林優斗 (名大) 高橋桂太 (名大) 藤井俊彰 (名大)
片手親指での日本語入力効率化を図った QWERTY 配列ソフトウェアキーボードの開発	中嶋勇輝 (北海道情報大) 福光正幸 (北海道情報大)

以上 3 編

(3)FIT 論文賞

論 文 名	受 賞 者
低ランク最適化のための高速特異値閾値処理の数理	佐々木崇元 (NTT) 北原正樹 (NTT) 清水 淳 (NTT)
相関時系列データ集合の計算のための高速アルゴリズム	天方大地 (阪大) 原 隆浩 (阪大)
トランプのシャッフルにおける可視化と最適な組み合わせに関する検討	井手広康 (愛知県大) 奥田隆史 (愛知県大)
バイナリパターンの重み付け和による多視点画像の圧縮符号化	小松滉治 (名大) 高橋桂太 (名大) 藤井俊彰 (名大)
反転授業における音声明瞭性を考慮した講義映像作成支援システムの開発	松浦辰雄 (名工大) 大冨忠親 (名工大) 新谷虎松 (名工大)
ウェアラブルセンサーデータを用いた状態推定と順序クラス分類手法に基づく作業者の熱ストレスリスク判定システム	吉田由起子 (富士通研) 竹林知善 (富士通研)
統合リスクマネジメント支援システム「KADAN」の適用評価 – 大規模国際スポーツイベントでの活用 –	小阪尚子 (NTT) 小山 晃 (NTT) 倉 恒子 (NTT) 岸 晃司 (NTT) 丸山公禎 (第 8 回札幌アジア冬季競技大会組織委員会) 高松幸一 (第 8 回札幌アジア冬季競技大会組織委員会)

以上 7 編

(4)FIT ヤングリサーチャー賞

氏 名	所属(発表時)	論 文 名
牛込 龍太郎	中大	ベイジアンネットワークによる SNS 上での流言の分類
佐藤 豊浩	東京都市大	他個体を参照した進化的アルゴリズムによる巡回セールスマン問題の解法
山本 未来呂	東京理科大	OpenCL を用いたマルチ GPU による数値計算の高速化の検討
大浦 陽	成蹊大	遠隔メモリページングにおけるマルチスレッド利用によるスワッピングプロトコルの改良
南 昇吾	東京理科大	GPGPU における複数カーネルを用いた数値計算の高速化についての検討
細江 美欧	鳥取大	非負値テンソル因子分解を用いた災害時におけるメディア分析

白石 壮馬	NEC	デプスセンサによる把持判定に基づく商品棚前動作認識システム ム験
-------	-----	-------------------------------------

以上7名

4. 6 ヒューマンコミュニケーションングループ

(1)ヒューマンコミュニケーション賞

研究会名	業 績	受 賞 者
HCS	舞台表現における他者との相互作用のダイナミクス ーコミュニケーションの隠れた次元としての距離に よる検討ー HCS2016-95	清水 大地 (東大) 岡田 猛 (東大)
HCS	乳幼児の保護者の「子どもに対する想い」 ーインタビューを基にした構成要素の抽出ー HCS2016-76	中根 愛 (NTT) 片桐 有理佳 (NTT) 小林 哲生 (NTT) 井原 雅行 (NTT)
HIP	クラウドソーシングによる知覚研究 ーコントラスト感度測定の場合ー HIP2016-72	佐々木 恭志郎 (九大) 山田 祐樹 (九大)
HIP	レモン飲料の味知覚, 嗜好性における, 酸および糖の 交互作用について HIP2016-71	丸山 弘明 (東北大/サッポロホ ールディングス) 荒木 茂樹 (サッポロホ ールディングス) 坂井 信之 (東北大)
MVE	TMR 高精度磁気トラッキングによる広域空間におけ る3次元位置の計測手法の提案と評価 MVE2016-76	森本 龍之助 (電通大) 田野 俊一 (電通大) 橋山 智訓 (電通大) 岩田 満 (都立産技高専)
WIT	自閉スペクトラム症による自動ソーシャルスキルトレ ーナの訓練効果 WIT2016-52	田中 宏季 (奈良先端大) 根来 秀樹 (奈良教大) 岩坂 英巳 (ハートランドしぎ さん) 中村 哲 (奈良先端大)
WIT	ろうベースの盲ろう者の自立した情報獲得を目指した 触指文字ロボットの開発 WIT2016-87	關 達也 (電通大) 森 浩一 (国立障害者リハビリ テーションセンター) 横井 浩史 (電通大)

以上7件

(2)HCG シンポジウム賞

業 績	受 賞 者
【最優秀インタラクティブ発表賞】 B-1-6 ポスターセッションにおける会話場支援者の行動分析	森田 幸輔 (東京電機大) 井坂 俊彦 (東京電機大) 徳永 弘子 (東京電機大) 武川 直樹 (東京電機大)
【最優秀インタラクティブ発表賞】 B-4-1 安全適性検査によるドライバ分類と運転支援エージェン トに対する主観的評価の検討	藤掛 和広 (名大) 田中 貴紘 (名大) 米川 隆 (名大) 稲上 誠 (名大) 青木 宏文 (名大) 金森 等 (名大)
【優秀インタラクティブ発表賞】 I-1-4 場所の楽しみ方を提供するメディア「SOSO」の提案	古田 詩央莉 (慶大) 小川 克彦 (慶大)

<p>【優秀インタラクティブ発表賞】 I-1-15 HMD 越しの食品の色彩変化が味覚に及ぼす影響の分析</p>	<p>杉田 勇人 (筑波大) 善甫 啓一 (筑波大) 水谷 孝一 (筑波大) 若槻 尚斗 (筑波大)</p>
<p>【優秀インタラクティブ発表賞】 C-4-5 画像の特徴量減衰処理による記憶への影響の比較</p>	<p>川村 堯之 (筑波大) 善甫 啓一 (筑波大)</p>
<p>【優秀インタラクティブ発表賞】 B-5-2 Conversational atmosphere model and reproduction by animated agents</p>	<p>湯浅 将英 (湘南工科大)</p>
<p>【学生優秀インタラクティブ発表賞】 A-3-1 内容・コンテキスト情報を用いた LSTM による婚活サイト上のチャットの結果予測</p>	<p>栗田 啓大 (東大) 山崎 俊彦 (東大) 相澤 清晴 (東大) 中本 哲宏 (IBJ) 桑原 英太郎 (IBJ) 江上 新一 (IBJ) 淵田 悠介 (IBJ)</p>
<p>【学生優秀インタラクティブ発表賞】 C-3-1 マルチタスクにおける注意誘導刺激の評価</p>	<p>鈴木 善樹 (京大) 大本 義正 (京大) 大瀧 翔 (トヨタ自動車) 森 大樹 (トヨタ自動車) 西田 豊明 (京大)</p>
<p>【学生優秀インタラクティブ発表賞】 B-4-4 環境情報を自然に伝達するカスタマイズ可能なアンビエント IoT デバイスの提案</p>	<p>橋本 和也 (東京電機大) 野中 直樹 (東京電機大) 岩井 将行 (東京電機大)</p>
<p>【学生優秀インタラクティブ発表賞】 B-4-3 メガネ型情報端末「雰囲気メガネ」の LED 光色を用いた自転車運転状況の可視化</p>	<p>沓澤 渉 (神奈川工科大) 山崎 洋一 (神奈川工科大) 白鳥 啓 (なまえめがね) 多根 周作 (なまえめがね) 河村 和典 (なまえめがね)</p>
<p>【特集テーマセッション賞】 A-1-1 コミュニケーション中の身体運動の同期から対話内容への理解度を推定する運動分析手法の提案</p>	<p>土屋 彩茜 (東工大) 大良 宏樹 (東工大) カク コウ (東工大) 大野 優美 (東工大) 佐藤 ひかり (東工大) 亀田 耕平 (東工大) 三宅 美博 (東工大)</p>
<p>【特集テーマセッション賞】 A-2-4 注視誘導によるアンビエントなコミュニケーション支援システム</p>	<p>清水 瑠璃果 (成蹊大) 高瀬 裕 (成蹊大) 中野 有紀子 (成蹊大)</p>
<p>【特集テーマセッション賞】 B-4-2 多人数キャラクタを用いた社会的場面におけるソーシャルスキル訓練システムの提案</p>	<p>高井 勇輝 (湘南工科大) 中川 拓海 (湘南工科大) 小城 絢一郎 (湘南工科大) 片上 大輔 (東京工芸大) 湯浅 将英 (湘南工科大)</p>
<p>【特集テーマセッション賞】 B-5-4 商品推薦における躊躇するエージェントが形成する雰囲気</p>	<p>中村 彰吾 (信州大) 小林 一樹 (信州大)</p>

以上 14 件

5. 研究会等に関する事項(定款 第4条 口号、ハ号)

5. 1 基礎・境界ソサイエティ/NOLTA ソサイエティ

研究専門委員会が下記研究会を開催した。

第一種研究会：114回 また、第二種研究会、第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
回路とシステム	平木 充	6	161
情報理論	大橋 正良	6	153
信頼性	弓削 哲史	8	65
超音波	黒澤 実	10	120
応用音響	島内 末廣	7	176
非線形問題	安達 雅春	6	113
VLSI 設計技術	越智 裕之	5	146
情報セキュリティ	小川 一人	6	161
信号処理	奥田 正浩	5	187
ワイドバンドシステム	前原 文明	5	133
システム数理と応用	名嘉村 盛和	4	99
思考と言語	鈴木 雅実	5	84
技術と社会・倫理	岡田 仁志	5	163
安全性	木村 昌臣	6	36
ITS	横田 孝義	5	145
スマートインフォメディアシステム	田中 宏和	4	70
イメージ・メディア・クオリティ	杉山 賢二	5	66
高信頼制御通信	原 晋介	4	106
バイオメトリクス	鷺見 和彦	4	80
複雑コミュニケーションサイエンス	若宮 直紀	4	42
安全・安心な生活と ICT	岡田 和則	4	61
合計		114	2,367

5. 2 通信ソサイエティ

研究専門委員会が下記研究会を開催した。

第一種研究会：149 また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
アンテナ・伝播	広川 二郎	12	220
宇宙・航行エレクトロニクス	福島 荘之介	8	123
衛星通信	鈴木 利則	5	85
環境電磁工学	和田 修己	10	138
ネットワークシステム	戸出 英樹	10	239
情報ネットワーク	山岡 克式	9	153
通信方式	横谷 哲也	7	122
電子通信エネルギー技術	黒川 不二雄	5	87
光通信システム	森田 逸郎	7	97
無線通信システム	村田 英一	10	406
コミュニケーションクオリティ	林 孝典	7	130
フォトニックネットワーク	長谷川 浩	6	115
光ファイバ応用技術	重松 昌行	6	88
情報通信マネジメント	登内 敏夫	5	95
モバイルネットワークとアプリケーション	新熊 亮一	6	140
インターネットアーキテクチャ	飯田 勝吉	8	124

スマート無線	梅林 健太	5	136
知的環境とセンサネットワーク	岡田 啓	5	195
短距離無線通信	中川 匡夫	6	90
ヘルスカア・医療情報通信技術	杉町 勝	5	55
無線電力伝送	陳 強	7	99
合計		149	2,937

5. 3 エレクトロニクスソサイエティ

研究専門委員会が下記研究会を開催した。

第一種研究会：108回 また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
機構デバイス	阿部 宜輝	9	82
磁気記録・情報ストレージ	岡本 好弘	6	71
超伝導エレクトロニクス	明連 広昭	5	49
電子ディスプレイ	小南 裕子	7	87
電子デバイス	津田 邦男	9	131
電子部品・材料	廣瀬 文彦	10	147
電磁界理論	廣瀬 明	4	157
シリコン材料・デバイス	国清 辰也	11	138
マイクロ波	村口 正弘	10	211
集積回路	日高 秀人	6	137
有機エレクトロニクス	森 竜雄	9	84
光エレクトロニクス	加藤 和利	7	197
レーザ・量子エレクトロニクス	山本 剛之	7	163
エレクトロニクスシミュレーション	木村 秀明	4	141
マイクロ波・ミリ波フォトニクス	川西 哲也	4	110
合計		108	1,905

5. 4 情報・システムソサイエティ

研究専門委員会が下記研究会を開催した。

第一種研究会：130回 また、第二種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ME とハイパフォーマンスネットワーク	中島 一樹	9	110
ライフインテリジェンスとオフィス情報システム	西 宏之	6	112
画像工学	浜本 隆之	9	222
言語理解とコミュニケーション	金山 博	4	75
コンピュータシステム	中野 浩嗣	7	202
コンピューテーション	伊藤 大雄	5	59
人工知能と知識処理	峯 恒憲	5	54
ソフトウェアサイエンス	緒方 和博	4	86
データ工学	灘本 明代	3	67
パターン認識・メディア理解	佐藤 真一	8	251
ディペンダブルコンピューティング	井上 美智子	7	163
ニューロコンピューティング	萩原 将文	7	123
知能ソフトウェア工学	金田 重郎	5	72
音声	山下 洋一	7	173
教育工学	宮寺 庸造	9	133
医用画像	森 健策	5	107
ソフトウェアインテグレイブルモジュール	宇田川 佳久	4	26

リコフィギャラブルシステム	本村 真人	4	79
情報通信システムセキュリティ	白石 善明	4	111
情報論的学習理論と機械学習	福水 健次	4	142
マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント	岩村 恵市	6	118
クラウドネットワークロボット	小野 哲雄	4	52
サービスコンピュテーティング	白 寅天	4	36
合計		130	2,573

5. 5 ヒューマンコミュニケーショングループ

研究専門委員会が下記研究会を開催した。

第一種研究会：20回 また、第二種研究会及び第三種研究会を開催した。

第一種研究会活動状況

研究会名	専門委員長名	研究会開催数	発表件数
ヒューマンコミュニケーション基礎	中野 有紀子	5	136
ヒューマン情報処理	石井 雅博	5	126
マルチメディア・仮想環境基礎	亀田 能成	5	173
福祉情報工学	和田 親宗	5	114
合計		20	549

6. ソサイエティ及びグループ会員に関する事項(定款 第3章)

各ソサイエティ及びグループにおける会員数は次のとおりである。

上段：年度末会員数 []内はフェロー会員数

上段：年度末会員数 []内はフェロー会員数

下段：()内は当年度会費未納者を除いた年度末会員数

	ESS	CS	ES	ISS	NLS	HCG	合計
2016年度末 登録数	5,437[147] (5,150)	10,606[301] (9,958)	5,938[185] (5,583)	10,520[277] (9,905)	149 (144)	861 (845)	33,511[910] (31,585)
2017年度末 登録数	5,221[145] (4,922)	10,270[303] (9,576)	5,829[172] (5,405)	10,268[265] (9,611)	226 (214)	853 (827)	32,667[885] (30,555)
前年度との差	-216 [-2] (-228)	-336 [2] (-382)	-109 [-13] (-178)	-252[-12] (-294)	77 (70)	-8 (-18)	-844 [-25] (-1,030)

(注) ESS：基礎・境界ソサイエティ

CS：通信ソサイエティ

ES：エレクトロニクスソサイエティ

ISS：情報・システムソサイエティ

NLS：NOLTA ソサイエティ

HCG：ヒューマンコミュニケーショングループ

Ⅲ. 支部事業

1. 北海道支部

2017年度は、支部連合大会、各種講演会（学生向けを含む）、学生会見学会等の毎年実施して効果的な事業、学生会発表研究会（インターネットシンポジウム）の開催など当支部独自の事業を継続して行い、最大限の会員サービスに努めた。

1-1 事業概要

2017年度の諸事業は年度当初の計画に沿って以下のとおり実施した。

1-1-1 一般事業（定款 第4条 ロ号）

- ア. 講演会：合計5名の講師による5件の講演会を開催（主催、共同主催）した。
- イ. 支部連合大会：電気・情報関係学会で組織された連合大会を1回開催した（一般講演数171件、特別講演1件、参加者数288名）。
- ウ. 専門講習会：5名の講師を招へいし、通信技術の最新動向と将来展望をテーマとして講習会を開催した（参加者数100名）。

1-1-2 教育事業（定款 第4条 ホ号）

- ・ 応用物理学会が企画した主に小中高生を対象としたイベント（「リフレッシュ理科教室」サイエンス・オリエンテーリング in 札幌 2017）を共同主催した（参加者数：185名）。
- ・ 応用物理学会が企画した小中学生向けイベント（リフレッシュ理科教室～でんきモノづくり講座）を後援した。
- ・ 北海道科学大学が企画した中学生対象の公開講座（回路作成とプログラミングによるデジタルモノづくり教室）を後援した。
- ・ 道内大学が企画した工学系学生向けイベント（ロボットトライアスロン）を後援した（競技参加者数：31チーム：96名）。
- ・ 一般財団法人インターネット協会 IPv6 デプロイメント委員会が企画した「IPv6 Summit in SAPPORO 2018」を後援した（参加者数：53名）。

1-1-3 学生会事業（定款 第4条 ロ号、ヘ号）

- ア. 講演会：本支部学生会主催の4件の講演会を開催した。
- イ. 学生会研究発表会：インターネット上で論文発表を行うインターネットシンポジウムを1回開催した（発表件数22件）。
- ウ. 北海道大学学生ランチ活動として、会議3回を開催し、支部連合大会にて IEEE Hokkaido University Student Branch とともに学生交流会を企画した。

1-1-4 創立100周年記念事業

- ・ 連合大会において100周年記念特別セッションを実施。北海道大学にて記念講演会を開催した。

1-2 選奨（定款 第4条 ホ号）

1-2-1 2017年度北海道支部学生奨励賞

北海道支部における学生奨励賞の選奨細則に基づき以下の11名を選定（推薦4名、公募7名）し、2018年3月に賞状と副賞を贈呈した（順不同、敬称略）。

氏名	所属
稲船 淳也	室蘭工業大学大学院工学研究科情報電子工学系専攻
佐藤 克将	室蘭工業大学大学院工学研究科情報電子工学系専攻
濱野 翔太	北海道大学大学院情報科学研究科メディアネットワーク専攻
吉田 旭伸	北海道大学大学院情報科学研究科情報エレクトロニクス専攻
河井 翔平	室蘭工業大学大学院工学研究科情報電子工学系専攻
佐藤 孝憲	北海道大学大学院情報科学研究科メディアネットワーク専攻
菅田 健斗	北海道大学大学院情報科学研究科メディアネットワーク専攻
山本 順平	北海道大学大学院情報科学研究科メディアネットワーク専攻
清水 新平	北海道大学大学院情報科学研究科情報エレクトロニクス専攻
佐藤 大	北海道大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻
中島 共平	北海道大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻

1-2-2 2017年度北海道支部学生会インターネットシンポジウム優秀発表賞

インターネットシンポジウム優秀発表賞細則に基づき以下の3名を選定し、2018年3月に賞状と副賞を贈呈した（順不同、敬称略）

氏名	所属	講演題目
田中 智大	室蘭工業大学	緩慢変化包絡線近似有限要素法による強導波光デバイスのトポロジー最適設計に関する検討
岩間 俊樹	釧路公立大学	エゾシカロードキルデータ統合・可視化アプリケーションの開発
西川 奏	釧路公立大学	マタニティのためのセルフメディケーション支援アプリケーションの開発

1-2-3 2017年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会若手優秀論文発表賞

2017年度電気・情報関係学会北海道支部連合大会における若手発表を対象として、若手優秀論文発表賞選考委員会において選考を行い、以下の10名を受賞者として選定、賞状と副賞を贈呈した(順不同、敬称略)。

氏名	所属	講演題目
北田 昂成	北見工業大学	偶高調波ミキサを用いた周波数変換型 AD 変換器のブレッドボード実験
高橋 秀平	室蘭工業大学	物体認識センサーを用いた境界要素法モデラーにおけるメッシュサイズ均一化に関する研究
下町 健太郎	函館工業高等専門学校	スマートキャンパスネットワークの導入に関する基礎検討
会田 佳貴	北見工業大学	石炭ガス化複合発電による中規模分散電源網の電力補償に関する研究
佐藤 寛己	室蘭工業大学	ウェアラブルセンサデータをを用いた CNN による技判定に関する検討
佐々木 海人	室蘭工業大学	ファジィ点群におけるファジィ対称軸抽出法の提案
堀井 風葉	北海道大学	画像特徴量と fNIRS 特徴量の関連性に注目した画像分類の高精度化に関する検討
伊藤 友彦	室蘭工業大学	ファジィスプライン曲線同定法を利用した自由曲線整形における平滑化の改善
能戸 宏之	北海学園大学	正弦波モデルによる歌声の MIDI データ化
田中 智大	室蘭工業大学	緩慢変化包絡線近似有限要素法による強導波光デバイスの解析に関する検討

2. 東北支部

年度当初計画に従って以下の通り各事業を実施した。

2-1 事業

2-1-1 一般事業 (定款 第4条 ロ号)

講演会 18 件、支部大会 1 件、共催・協賛事業 6 件、見学会 2 件、周年事業 1 件を実施した。

2-1-2 教育事業 (定款 第4条 ロ号、へ号)

小中高生向け事業を 5 件実施した。

2-1-3 学生会事業 (定款第4条ロ号、へ号)

東北大学に学生ランチを設置して活動を実施した。

2-2 選奨 (定款 第4条 ホ号)

2-2-1 学生優秀論文賞について、表彰規程に基づいて次の通り表彰した (順不同、敬称略)。

授賞者氏名	所属	講演題目
岡野 健久	東北大学	顔認証システムのための深層学習を用いた生体検知手法に関する検討
渡辺 陵椰	東北大学	可視光カメラを用いた脈拍測定に呼吸が与える影響

2-2-2 学生優秀発表賞について、表彰規程に基づいて次の通り表彰した (順不同、敬称略)。

授賞者氏名	所属	講演題目
相原 利浩	東北工業大学	バイオリン演奏ロボットのビブラート動作に関する基礎的研究 第2報 運指の揺動幅・加速度・押し付け力の影響評価
岩森 光司	東北大学	頸動脈の長軸方向変位を考慮した動脈壁の局所弾性率の超音波計測に関する検討
内海 大樹	東北学院大学	プラスチック上の Cu-MIC 多結晶ゲルマニウム薄膜トランジスタ

2-2-3 学生ランチ活動奨励賞について、表彰規程に基づいて次の通り表彰した (敬称略)。

授賞者氏名	所属
栗林 秀樹	東北大学学生ランチ

2-2-4 優秀学生賞について、表彰規程に基づいて次の通り表彰した (順不同、敬称略)。

授賞者氏名	所属	授賞者氏名	所属
伊藤 拓哉	岩手県立大学	佐藤 未奈	いわき明星大学
薄井 晶子	東北工業大学	佐藤 素気	秋田工業高等専門学校

大久保 享一	東北大学	信太 拓都	秋田大学
大田 亮	会津大学	白木 信之	岩手大学
大津 聡史	日本大学	高橋 崇典	鶴岡工業高等専門学校
長内 史也	仙台高等専門学校	土田 早織	山形大学
小野寺 優希也	秋田県立大学	出口 直人	福島工業高等専門学校
小山 真司	仙台高等専門学校	長江 眞平	東北大学
久保 未来	東北文化学園大学	長沢 湖樹	八戸工業高等専門学校
齋藤 敬宏	一関工業高等専門学校	中村 和樹	弘前大学
佐藤 拓也	東北学院大学	中山 滉平	八戸工業大学

3. 東京支部

2017年度は、目的・対象者を明確にし、研究会等ではカバーしにくい内容を積極的に企画し、支部らしさを前面に出した講演会、シンポジウム、見学会、地域イベント、教育イベント等を実施し、周辺4県（茨城、栃木、群馬、山梨）の活性化や学生会活動の更なる強化を促進するとともに、東京支部ならではの新たな活動についての検討を進めることを目標とした。

3-1 事業概要

2017年度の諸事業は、年度当初の計画に沿ってそれぞれ実施した。

3-1-1 一般事業（定款 第4条 ロ号）

対象者と目的を明確にした取組みとして、①最新の研究開発動向を紹介する企画、②教育事業への貢献、③先達の知恵を若手に伝え、知恵を持つ先達と若手の交流を深める場を継続的に提供した。東京支部の学会創立100周年記念事業として講演会を開催、また総務省関東総合通信局及びCEATECとの連携を推進した。

年度を通じて、講演会（1回、参加者189名）、シンポジウム（3回、参加者166名）、見学会（4回、参加者79名）を開催し、大変盛況であった。

3-1-2 教育事業（定款 第4条 ロ号、ハ号）

科学の面白さ、不思議さを体験してもらうことで子供たちに科学へ興味を持って頂くことを目的とした子供科学教室（1回 参加者54名）を実施した。また、東京支部地域内の学校、企業、NPOなどと連携し、共同主催の教育イベントの公募を行い、6件を採択し実施した。

3-1-3 学生会事業（定款 第4条 ロ号、ハ号）

- ・講演会（1回 参加者39名）、見学会（1回 参加者44名）は参加者の知識の向上に役立ち大変有意義であった。
- ・当支部学生会活動のPR活動の一環として、学生会報（500部発行）を研究発表会会場にて配布するとともにWeb公開した。
- ・学生員の卒業研究論文及び修士論文の紹介、また最近行っている研究の紹介のための研究発表会を3月3日に開催し、講演論文集を発行・配布するとともに、WEB公開した。156件の発表があり、学生員の活発な質疑応答が行われた。
- ・学生ランチの7校が講演会等を実施した。
- ・学生会活動のモチベーションアップを目的として、学生会運営委員会委員の活動証明書の発行を実施した。

3-2 選奨に関する事項（定款 第4条 ホ号）

3-2-1 2017年度東京支部学生奨励賞

東京支部学生会研究発表会奨励賞選奨方針に基づき、下記の15名を選定し、2018年3月3日に贈呈した。
（五十音順、敬称略）

氏名	所属	氏名	所属
秋元 実菜	茨城大	高野 航平	宇都宮大
今井 水輝	茨城大	古川 純汰	茨城大
植野 圭一	山梨大	前波 夏織	日本女子大
江尻 敬祐	木更津高専	松井 連	芝浦工大
落合 裕貴	明大	松村 太郎	都立産技高専
川口 優志	都立産技高専	元木 達也	東京電機大
川田 真之	東京理科大	渡邊 拓哉	芝浦工大
鈴木 幹人	東京理科大		

3-2-2 2017年度東京支部学生功労賞

東京支部学生功労賞選考方針に基づき、下記6名を選定し、3月3日に贈呈した。

(五十音順、敬称略)

役 職	受賞者	所 属
学生会委員	阿部 水樹	日大
学生会委員	石田 勝晃	上智大
学生会委員	海老 慎太郎	千葉工大
学生会委員	大前 寛尚	東海大
学生会委員	傳田 渉	明治大
学生会委員	服部 元磨	拓殖大

4. 信越支部

2017 年度は信越地区の会員への貢献、地域に対する社会的責務としての活動の点で、支部らしさを前面に出した専門講習会、講演会等を企画、実施、支援した。長野県、新潟県内における学会活動の活性化や学生会活動の更なる強化を促進するとともに、信越支部ならではの新たな活動についての検討を進めた。

4-1 事業概要

2017 年度の諸事業は年度当初の計画に沿ってそれぞれ実施した。

4-1-1 一般事業 (定款 第 4 条 ロ号)

- ・支部大会 (1 回、発表件数 185 件) を行った。支部からの参加者を中心に、電子情報通信に関する情報交換及び議論の場として役立った。
- ・講演会 (新潟地区 2 回)、支部主催 100 周年記念フォーラムを行った。電子情報通信に関する先端的な知識の向上に役立った。
- ・専門講習会 (1 回) を行った。支部からの参加者を中心に、「サイバーセキュリティ技術者を目指そう!」と題した講義と演習を行った。サイバー演習は、シマンテック社が開発した演習環境「サイバーレンジ」を使った本格的なもので、参加者には非常に良い経験になった。

4-1-2 学生会事業 (定款 第 4 条 ロ号、へ号)

- ・研究交流会: 本支部の主催するもの 2 回 (信州大、新潟大) を行った。企業、地域との交流の促進、学生自身の電子情報通信技術に対する意識の向上に役立った。

4-2 選奨に関する事項 (定款 第 4 条 ホ号)

信越支部内における顕著な功績を称え表彰した。

4-2-1 2017 年度信越支部学生奨励賞

選奨規程に基づき下記の 13 名を選定し贈呈した。(順不同、敬称略)

氏 名	所 属	講演題目
赤坂 啓太	新潟大	ミリ波帯移動通信における粗面散乱特性の実験的検証
谷口 諒太郎	新潟大	20GHz 帯屋外実験結果を考慮したアナログ・デジタルハイブリッド型 Massive MIMO の性能評価
赤坂 旭	新潟大	Leap Motion を用いたインタラクティブな触図提示システムの開発
小野 翔太郎	長岡技術科学大	加熱 Ir 表面で励起した NO ガスによる ZnO 結晶膜への窒素ドーピング
阪本 直気	信州大	矩形制約対処法の線形制約への一般化
西田 昂平	信州大	集団サイズ適応を用いた CMA-ES におけるステップサイズ補正
小島 匡顕	信州大	慣性計測装置における 3 次元加速度センサ出力の誤差に関する考察
大築 拓真	諏訪東京理科大	リアルタイム雑音抑圧の開発とその可視化アプリケーション
高澤 伸彰	諏訪東京理科大	無線通信を用いたスマートエネルギーシステムの開発
前田 隆宏	長岡高専	積層プリカーサを用いた CZTS 太陽電池の作製
中嶋 航大	長岡高専	高画質動画撮影におけるぶれ補正処理の評価
宮島 理紗	長野高専	Platinum Band Planar Antenna with Quintuple Collinear Structure
天利 安志	長野高専	多方向スイッチングメジアンフィルタに関する研究

4-2-2 2017 年度信越支部ベストプラクティス賞

選奨規程に基づき下記の研究室を選定し贈呈した。

順位	所 属
1 位	新潟大学工学部情報工学科 空間信号処理・センサ研究室 (西森研究室)
2 位	新潟大学工学部情報工学科 波動情報研究室 (山田研究室)
3 位	新潟大学工学部情報工学科 スマートライフ研究室 (山崎研究室)

5. 東海支部

2017年度は、創立100周年記念事業として記念講演会を開催し、電子情報通信学会を広く知って頂く機会となった。その他、例年通り下記の事業を実施した。特に、「ディープラーニングとその医用画像応用」をテーマに開催した専門講習会は、大変盛況な会となった。

5-1 事業概要

2017年度の諸事業は年度当初の計画に沿ってそれぞれ実施した。

5-1-1 一般事業（定款 第4条 ロ号）

講演会（1回参加者合計40名）、見学会（1回参加者22名）、小中高校生向け理科教育講座（1回1会場参加者合計108名）、専門講習会（1回参加者136名）を開催し盛況であった。

5-1-2 学生会事業（定款 第4条 ロ号）

講演会（3回参加者合計227名）、学生研究発表会（2回参加者合計367名）、卒業研究発表会（1回発表者75名）は学生の知識向上、学会活動の宣伝、他校学生間交流に役立ち有意義であった。

5-1-3 その他（定款 第4条 ロ号）

電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会（1回参加者920名）を8学会（情報処理学会東海支部が主担当）で共同開催した。

5-2 選奨に関する事項（定款 第4条 ホ号）

5-2-1 2016年度 東海支部学生研究奨励賞

学生研究奨励賞選奨規程に基づき下記の21名を選定し、2017年6月15日に表彰した。

（順不同、敬称略）

氏名 (敬称略)	所 属 (2017年3月時点)	推薦者 (敬称略)
	研究テーマ	ソサイエティ
山岡 修平	名古屋大学 工学部 電気電子情報工学科	佐藤 健一
	デジタルコヒーレント受信を用いたレーザ特性解析に関する研究	B通信
大野 修平	岐阜大学 大学院工学研究科 電気電子工学専攻	高橋 康宏
	FinFETによる断熱的理論回路に関する研究	A基礎・境界
浅野 志帆	名古屋工業大学 大学院工学研究科 情報工学専攻	伊藤 嘉浩
	Webサービスのトラフィック特性を用いたQoEベースのQoS制御を行う無線LAN基地局の開発	B通信
高橋 泰志	中部大学 大学院工学研究科 電気電子工学専攻	石井 清
	LSI基本回路の高性能化設計技術に関する研究	B通信
阿部 晋士	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 電気・電子情報工学系	大平 孝
	ワイヤレス電力伝送を実現する高周波回路	Cエレクトロニクス
伊藤 芳純	静岡大学 大学院総合科学技術研究科 工学専攻	渡邊 実
	光再構成型ゲートアレイのホログラムメモリ部の放射線耐性評価	Cエレクトロニクス
間下 恵介	名古屋工業大学 大学院工学研究科 創成シミュレーション工学専攻	津邑 公暁
	ハードウェアトランザクショナルメモリの高速化	
山田 早姫	愛知県立大学 大学院情報科学研究科 メディア情報専攻	神谷 直希
	素材および造形方式の依存を低減した3Dプリンタによる疑似人体組織表現法に関する研究	D情報・システム
林 秀和	愛知県立大学 大学院情報科学研究科 情報システム専攻	奥田 隆史
	ネットワーク、システム開発	
中島 康雄	名古屋大学 大学院工学研究科 電子情報システム専攻	山里 敬也
	確率共鳴現象の無線通信分野への応用	B通信
武田 賢志郎	岐阜大学 大学院医学系研究科 再生医学専攻	原 武史
	体幹部FDG-PET画像における解剖学的標準化の実現	
小林 優斗	名古屋大学 大学院工学研究科 電子情報システム専攻	藤井 俊彰
	レイヤ型ディスプレイを用いた実写3次元映像表示	D情報・システム
堀池 直登	名古屋工業大学 大学院工学研究科 電気・機械工学専攻	岡本 英二
	電波暗号化変調方式の高速・高品質化の研究	B通信
山上 修平	名古屋大学 大学院工学研究科 電子情報システム工学専攻	長谷川 浩
	光通信ネットワークの大規模化・高信頼化に向けた研究	B通信

佐々木 奨	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 電気・電子情報工学専攻 省電力無線センサネットワークのための前進ベース最近傍ルーチング	上原 秀幸
菊地 真人	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 情報・知能工学専攻 条件付き確率の保守的な推定	梅村 恭司
前本 大輝	三重大学 大学院工学研究科 電気電子工学専攻 環境発電型無線センサネットワークにおける発電レートの偏りを考慮したクラスタ制御方式	森 香津夫 B通信
小林 敦希	名古屋大学 大学院工学研究科 電子情報システム専攻 ヘルスケア応用に向けた電力自立バイオセンサ集積回路	新津 葵一 Cエレクトロニクス
跡見 健吾	愛知県立大学 大学院情報科学研究科 システム科学専攻 光電溶積脈波を用いたカフレス血圧推定	小栗 宏次
本多 千鶴	愛知県立大学 大学院情報科学研究科 システム科学専攻 画像処理による放射液体の流量推定	河中 治樹
惠本 序珠亜	中部大学 大学院工学研究科 情報工学専攻 ヒトの注意の動的性質の理解とロボットの注意機能の実装	平田 豊

5-2-2 2017年度 卒業研究発表会表彰

卒業研究発表会規程に基づき下記の8名を選定し、2018年3月2日に表彰した。

(順不同、敬称略)

		発表者	指導教員	所属	発表題目
口頭発表	最優秀賞	右島 琢也	村瀬 洋	名古屋大学	運転者の運転行動情報を利用した信号機検出用学習データの収集
	優秀賞	梶田 佳大	岡本 英二	名古屋工業大学	上りリンク非直交多元接続手法へのカオス変調の適用
		石川 阿香里	福嶋 慶繁	名古屋工業大学	ガイドフィルタの効率的な計算スケジューリング
		小池 忠	吉川 大弘	名古屋大学	オドボール課題におけるフィードバックの効果に関する検討
		佐々木 泰斗	片山 正昭	名古屋大学	デジタルサイネージによる可視光通信のための色差式を用いた人に知覚されにくいデータ信号変調方式
ポスター発表	最優秀賞	大城 明日香 河地 広輝 坂田 一樹 石川 拓磨	森本 正志	愛知工業大学	講義理解支援のためのクリッカーアプリに関する研究
	優秀賞	村山 貴彦	山田 宗男	名城大学	ニューラルネットワークによるながら行動検出手法の検討
		菅野 貴嗣	中野 倫明	名城大学	日常生活に必要な高齢者の記憶力評価方法の検討

6. 北陸支部

北陸地区の会員に対する情報提供、会員相互の情報交流を目指し、講演会・研究発表会等を開催した。また、支部選奨規程に基づき、学生に対する表彰を行った。

6-1 事業概要

2017年度の諸事業は年度当初の計画に沿ってそれぞれ実施した。

6-1-1 一般事業（定款 第4条 ロ号）

・講演会（2回）

その他、シンポジウム、講演会等の共催、協賛、後援を5件行った。

・電気関係学会北陸支部連合大会（1回）

連合大会は富山大学において9月11日に開催された。また、大会内で本支部が担当する招待講演（1回）を実施した。

・創立100周年記念事業特別講演会（1回）

上記連合大会の特別講演として実施した。

6-1-2 学生会事業（定款 第4条 ロ号、へ号）

・学生向け講演会（2回）

・学生による研究発表会（1回）

学生による研究発表会は金沢工業高等専門学校において3月3日に開催された。

6-2 選奨に関する事項（定款 第4条 ホ号）

6-2-1 2017年度学生優秀論文発表賞

電気関係学会北陸支部連合大会における学生の発表を対象として、支部学生優秀論文発表賞規程に基づき審査を行い、下記の25名を受賞者として選定した。2018年2月に賞状と副賞を贈呈した。
(順不同、敬称略)

氏名	所属機関	講演題目
新井 雄登	富山県立大学大学院	ダブルゲートナノ pMOSFET の量子力学的シミュレーション解析
牛田 慧	富山県立大学大学院	薄化チップを積層した3次元ICの温度分布の解析
岡 大貴	富山県立大学大学院	S-310-40号機観測ロケットにより観測された中波帯電波の伝搬特性解析
嘉指 裕介	富山県立大学大学院	仮想力覚提示デバイスと皮膚との接触面変化による力覚向上効果
木下 愛佳子	富山県立大学大学院	焦り推定のための視線特性解析
酒井 一樹	富山県立大学大学院	全天球カメラによる3Dテレプレゼンスのための畳み込みニューラルネットワークによる視点内挿
高林 悠	富山県立大学大学院	水平360°領域ターゲットを対象とした複数関節角視線推定
竹村 宗泰	富山県立大学大学院	LSI内の電圧測定を繰り返すためのオンチップ回路の設計
寺井 敬祐	富山県立大学大学院	視線データベースを用いた快・不快情動に対する視線停留の状態遷移特性
山本 旭	富山県立大学大学院	2次元配列型圧力センサ用CV変換回路の開発
山本 淳史	富山県立大学大学院	中規模伝搬性電離圏擾乱発生時における電離圏中のDC電場観測
牧野 晃大	富山高等専門学校	ドップラーレーダとディストロメータを用いた降水種類判別システムの構築
稲垣 達也	富山大学	クラスター伝搬環境を実現する3次元MIMI-OTA評価装置の開発
千田 真也	富山大学	IoTによる機械工場の見える化の検討
赤地 恭祐	富山大学大学院	発光・蓄光金属センサーとそのセンサネットワーク構築のためのデータ計測
古倉 綾也	富山大学大学院	3次元MIMO-OTA評価装置における基地局相関の制御方法
高野 詩菜	富山大学大学院	南砺市における「なんパスロケーションシステム」の開発と評価
内田 圭耶	福井大学	PIアルゴリズムを用いた基地局用アクティブアレーアンテナによるヌルエリア形成
杉井 智哉	福井大学	ID・ロケータ分離網における利用時間と位置情報変更を考慮した最大伝送レート制御法
泉 翔太	福井大学大学院	X10 GLBライブラリの最適化問題のための拡張
小松 哲幸	福井大学大学院	スワイプ操作に潜在する無意識的特徴のストローク長依存性
佐々木 真帆	福井大学大学院	新しいハートマン効果の持続距離拡大に関する研究
鷲見 恭仁	福井大学大学院	VNFの依存関係とトラフィック変化率を考慮したサービスチェーン構成法
Huaxin Zheng	福井大学大学院	Availability of Recycling Mechanism of Genetic Algorithm in Multiple Knapsack Problem
細見 昂示	福井大学大学院	Twitterのリプライに表出する感情分析

6-2-2 2017年度優秀学生賞

支部優秀学生賞選奨規程に基づき審査を行い、下記の11名を受賞者として選定した。2018年2月に賞状と副賞を贈呈した。(順不同、敬称略)

学校	所属	氏名
石川工業高等専門学校	電子情報工学科	水野 颯介
金沢工業高等専門学校	電気電子工学科	藤井 尊之
金沢工業大学大学院	工学研究科・情報工学専攻	梅田 尚哉
金沢大学	理工学域 電子情報学類	高宮 多津人
富山高等専門学校	電気制御システム工学科	青木 海都
富山県立大学	工学部 知能デザイン工学科	坂内 亮太
富山大学大学院	理工学教育部 知能情報工学専攻	新谷 一瑛
福井工業高等専門学校	電子情報工学科	井口 昇之
福井工業大学	工学部・電気電子情報工学科	花房 大佑
福井大学大学院	工学研究科・電気電子工学専攻	佐藤 徹
北陸先端技術大学院大学	情報科学研究科・博士前期課程2年	HUYNH,Phuong Duy

7. 関西支部

関西（大阪府、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県、兵庫県）を拠点としている会員に対するサービスおよび社会的責務として、講演会、見学会、講習会、教育事業等を企画し実施した。

講演会等の開催にあたっては、学会の会員数の維持・増加を目指し、多くの方に参加いただけるテーマを選定した。また、学生会活動を通じ、地域学生にとっての学会の価値向上を図った。

7-1 事業概要

7-1-1 一般事業（定款 第4条 ロ号）

- ア. 講演会：3回（計画2回）、参加者179名（3回の合計）、「スマートな都市の実現に向けた情報通信技術」（47名）、100周年記念行事として「関西が生んだイノベーション」（100名）、企業に勤める若手研究者向けイブニングセミナーとして「セキュリティの最前線－ブロックチェーンの原理とサイバー演習－」（32名）というテーマで講演会を実施した。
- イ. 見学会：1回（計画1回）、参加者23名、「情報通信研究機構 未来ICT研究所」を見学した。
- ウ. 講習会：4回（計画4回）、参加者82名（4回の合計）、画像処理（17名）、機械学習（20名）、暗号技術（15名）に関する少人数制の講習会を実施した。また、高周波技術の応用展開と技術動向に関する講習会（30名）を実施した。

7-1-2 教育事業（定款 第4条 ロ、へ号）

- ア. 講演会：1回（計画1回）、参加者29名、科学の面白さ、不思議さを体験してもらうことで中高生に科学へ興味をもって頂くことを目的として、「フィジカルコンピューティングで体感できるプログラミング」というテーマで中高生向けの講演会を神戸高専にて実施した。
- イ. 関西支部地域内の学校、企業、NPOなどと連携し、共催・後援の教育イベントの公募を行い、舞鶴高専提案「クリスマス気分を盛り上げる、フルカラーLEDを用いたオブジェの制作」、奈良高専提案「Let's enjoy プログラミング！！－親子で楽しくゲームを作ろう－（初級・中級）」、関西支部100周年記念講演会 プログラミング講座「「オープンソースハードウェアを用いたプログラミング入門」－センサーや電子部品を操ろう－」を採択し実施した。

7-1-3 学生会事業（定款 第4条 ロ号、ホ号、へ号）

- ア. 講演会：2回（計画2回）、参加者33名（2回の合計）、「研究開発業務の取り組み」、「若手企業技術者」に関する講演が行われた。
- イ. 見学会：2回（計画1回）、参加者33名（2回の合計）、「NHK大阪放送局 生駒山送信所」、「NTT西日本大阪支店」の見学会を実施した。
- ウ. 研究発表会：1回（計画1回）、平成30年3月1日に開催し、70件の発表、137名の参加があり、大変盛況であった。

7-2. 選奨に関する事項（定款第6条ホ号）

7-2-1. 2017年度 関西支部学生会 奨励賞

関西支部学生会 支部長賞規程に基づき下記の7名を選定し、2018年3月1日に贈呈した。
（五十音順、敬称略）

海保 宇也	大阪工業大学	A1-5	「ひとがた」を用いた観光スポットの訪問意欲向上支援システム
菊谷 雄真	奈良先端科学技術大学院大学	A5-5	エッジコンピューティング向けアクセラレータの実装と評価
中筋 将史	大阪府立大学	B2-1	Deep Learningを用いたMIMO多値変調信号復元
中津 龍星	立命館大学	C3-5	時間平滑化音響特徴量を用いた外れ値検出法に基づく機械異常音の検出
新鞍 知史	近畿大学	C1-5	植物工場における屋内測位を用いた作業支援システム
藤井 敏弘	立命館大学	A4-2	骨伝導ヘッドホンとパラメトリックスピーカを用いた開放型ウェアラブル音響再生システム
吉村 政士	大阪府立大学	B4-1	6-LPモード・リングコア EDFの検討

7-2-2. 2017年度 関西支部 優秀論文発表賞

関西支部 優秀論文発表賞規程に基づき下記の5名を選定し、2018年4月20日に贈呈する。
（五十音順、敬称略）

氏名	所属	講演題目
五十嵐翔多	大阪府大	2モードファイバにおけるLP11モードの偏波モード分散
岡藤達也	大阪工大	PLL回路における自己干渉ノイズによる伝達特性変化に関する評価
周志恒	大阪府大	FPGA実装を考慮したNCSP-OFDM送信機のための行列分解法
往西魁人	神戸大	辺に重みのあるグラフからのクリーク群抽出問題に関する研究
吉武大地	明石高専	スマートミラーを用いた英単語学習システムの実装と評価

7-2-3. 2017年度 関西支部学生会 功労賞

関西支部学生会 支部長賞規程に基づき下記の19名を選定し、2018年3月1日に贈呈した。
(敬称略)

関西支部学生会に属する学生会員のうち、学生会幹事として、支部の活動活性化に多大な貢献をなした功績により表彰するものである。

吉田翔、杉山玲央奈(奈良先端科学技術大学院大学)、盛田宏幸、清水涼太、吉川憲次、村上優佳紗(近畿大学)、石井佑宇人、山田千紘(京都工芸繊維大学)、中照二(大阪市立大学)、山下幸祐(兵庫県立大学)、小南尚志、高橋翔悟(同志社大学)、市川雄太、吉見光(関西大学)、吉田恭平、吉村光司(立命館大学)、渡邊大生、大城将健、鳥越庸平(神戸市立工業高等専門学校)

8. 中国支部

2017年度の一般事業では、中国地区における電子情報通信関連分野及び学会の活性化を目指し、会員及び関連する地域の学生、学校、企業を対象とした各種講演会、講習会等を実施した。学生会事業では、企業と連携して学生による、学生ケータイあわ〜どを中心に活動した。また、選奨に関する事項に基づき学生に対する各種表彰事業を実施した。

100周年事業として講演会及びシンポジウムを開催、学生ケータイあわ〜どにあわせてパネル展示を実施した。

8-1 事業概要

8-1-1 一般事業(定款 第4条 ロ号)

(1)講演会 14回(主催6回 共同主催8回)、講習会 2回(共同主催2回)

(2)見学会 1回(共同主催1回)

(3)専門講習会 1回(共同主催1回)

(4)シンポジウム等への協賛(13回)

(5)電気記念日行事に共催

開催日:2018年3月23日

(6)2017年度(第68回)電気・情報関連学会中国支部連合大会

開催日:2017年10月21日(土)

開催校:岡山理科大学

幹事学会:照明設備学会中国支部

参加者:478名、一般講演:239件

特別講演 講演者:岡山県工業技術センター研究員 勝田 智宣様

内容:『岡山発次世代自動車技術研究開発プロジェクトとモータの概要』

(7)電子情報通信学会創立100周年記念事業:中国支部として記念事業を企画し実施。

・基調講演及びシンポジウム開催

開催日:2017年9月9日(土)13時~15時40分、

開催場所:広島市立大学サテライトキャンパス、参加者数:40名

・ケータイあわ〜どに合わせてパネル展示

開催日:2017年10月21日(土)

開催場所:広島市立大学

8-1-2 学生会事業(定款 第4条 ロ号、ホ号、ヘ号)

・学生向け講演会、見学会6回(主催6回)、学生会自主活動の活性化と支部との連携強化(学生会活動)

I. 学生ケータイあわ〜ど2017(応募数:総数82件、アイデア部門76件、作品部門6件)

II. 電子情報通信学会中国支部ホームページの維持、管理(年間78件対応)

8-2 選奨に関する事項(定款 第4条 ホ号)

8-2-1 連合大会奨励賞表彰(中国支部における連合大会奨励賞の選奨規程2015年12月11日改正)
電気・情報関連学会中国支部連合大会論文発表者より、下表に示す21名を選出した。

(五十音順)

	氏名	学校名	題目
1	青木 美帆	県立広島大学	CCNにおける協調キャッシュとユーザ位置に基づいたコンテンツ管理手法の一検討
2	伊ヶ崎 椋太	徳山工業高等専門学校	FDTD法を用いた回路シミュレータの開発

3	石谷 有沙	鳥取大学	モーションブレイに頑健な人物対応付けのための特徴抽出の検討
4	猪原 佑	近畿大学	デジタル的デューティ比制御法を用いたスーパーキャパシタ充放電技術
5	浮田 健太郎	岡山大学	AES 暗号の FPGA 向き CPA 対策回路の提案
6	内田 啓太	松江工業高等専門学校	IPv6 拡張ヘッダのためのパケット処理フレームワークの実装
7	江川 翔一	岡山県立大学	熱伝導方程式に基づく集団コミュニケーションにおける場の盛り上がり推定モデルの提案
8	岡田 武史	岡山大学	可視光無線通信用 LED の受信機における非線形歪補償法の検討
9	岡野 傑士	岡山理科大学	2 次割当問題に対する適応的可変近傍探索法
10	岡野 直緒	川崎医療福祉大学	内視鏡を用いた医用画像における膵管径の可視化
11	絹田 翔平	山口大学	水流静止画の動画化支援ツールの開発
12	黒川 陽太	山口大学	拡張 2 次元メッシュ NoC に対する面積オーバーヘッドの評価
13	小里 春来	広島市立大学	各種センサによる連続観測を目的とした土砂災害センシングシステムの開発
14	高橋 諒壮	松江工業高等専門学校	モーションセンサを用いたグリップ形状の 3 次元造形手法の検討
15	伊達 大輝	岡山大学	Mint オペレーティングシステムにおける CPU hotplug のオーバーヘッドの分析
16	田中 幹也	広島工業大学	8 個の発振器で構築された 4 本の梯子を十字型に結合した系にみられる交互逆同期を基本とした位相反転波動の解析
17	Kyaw Soe Lwin	岡山大学	Throughput Measurement Minimization for Parameter Optimization of Throughput Estimation Model
18	坪川 友輝	岡山大学	アプリケーション利用のタイミングに着目したアプリケーション情報の整理手法の提案
19	中川 賢人	岡山大学	遺伝的アルゴリズムを用いた平面回路パターン自動設計における符号化手法の検討
20	橋本 将弥	広島工業大学	HOG 特徴量の部分空間への射影による欠陥特性評価
21	吉岡 伴論	山口大学	漢文訓詁法に基づくオートマトンの提案

8-2-2 2017 年度電気・情報関連学科優秀卒業生表彰（高校・高専・短大）

連合大会事業の一環として下表に示す中国地区の 56 校 93 名を表彰（幹事学会：電気設備学会中国支部）

対 象	表彰学校数		表彰者数
高 校	広島県	12 校	18 名
	岡山県	13 校	19 名
	島根県	6 校	13 名
	鳥取県	5 校	10 名
	山口県	12 校	15 名
高 専	中国地区	7 校	17 名
短 大	中国地区	1 校	1 名
合 計		56 校	93 名

8-2-3 学生功労賞の表彰（学生功労賞の選奨規程 2010 年 5 月 28 日制定）

（敬称略）

No	氏名	学校名	所 属 (受賞時)
1	浅井 琢也	島根大学	大学院 総合理工学研究科 情報システム学領域
2	大田 観	岡山県立大学	大学院 システム工学専攻
3	小川 智哉	岡山大学	大学院 自然科学研究科 電子情報システム工学専攻
4	北村 拓也	広島大学	大学院 情報工学専攻
5	小西 裕己	広島市立大学	大学院 情報科学研究科 知能システム研究室
6	高野 恵輔	岡山理科大学	大学院 工学研究科 情報工学専攻
7	浜 信彦	福山大学	工学研究科 情報処理工学専攻
8	福政 遼二	広島工業大学	大学院 工学系研究科 電気電子工学専攻
9	牧村 悠司	鳥取大学	大学院 工学研究科 情報エレクトロニクス専攻
10	毛利 隆杜	山口大学	大学院 創成科学研究科

9. 四国支部

2017年度は、四国における電子・情報・通信工学分野での学術・技術振興に寄与できるよう、講演会、講習会、連合大会などの事業を実施し、四国内の研究者、技術者、学生へのサービス充実を目指した。また、IEEEと共同で学生ランチ交流会を開催し、学生間の交流の場を提供し、学会との合同の支部連合大会においては懇親の場を設け、四国内の研究者、技術者、学生の懇親、情報交換の場を提供した。

9-1 事業概要

2017年度の諸事業は年度当初の計画に沿ってそれぞれ実施した。

9-1-1 一般事業（定款 第4条 ロ号）

- ・講演会（7回）、専門講習会（2回）では、様々な分野で優れた業績を持つ講師による講演、講習を実施し、参加者にとっては新たな知識、技術を得る機会となった。
- ・2017年度電気関係学会四国支部連合大会（2017年9月23日）を開催し、他学会も含め、四国の電気・情報関係の研究者、学生が発表を行い、情報交換・懇親を深める機会となった（発表件数：241件、参加者：387名）
- ・セミナー等の後援・協賛（4件）を行った。

9-1-2 学生会事業（定款 第4条 ロ号、ホ号、へ号）

- ・学生向け講演会（5回）では、様々な分野の講師を招き、参加者は幅広く技術情報や知識を得た。
- ・2017年度電気関係学会四国支部連合大会の会場において、学生員交流会を開催した。四国内の各機関に所属する学生員が集まり、活発に意見を交わす機会となった。
- ・学生ランチとして、3校が講演会や見学会等の活動を実施した。

9-2 選奨に関する事項（定款 第4条 ホ号）

9-2-1 2017年度 電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞

電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞選奨規程に基づき下記の45名を選定し、各機関の卒業式・修了式において贈呈した。（機関別、敬称略）

No	大学	学科	氏名
1	愛媛大学工学部	電気電子工学科	平松 達弥
2	愛媛大学工学部	電気電子工学科	山本 考希
3	愛媛大学工学部	情報工学科	柏田 直樹
4	愛媛大学工学部	情報工学科	小林 尚輝
5	愛媛大学大学院理工学研究科	電子情報工学専攻電気電子工学コース	山田 達也
6	愛媛大学大学院理工学研究科	電子情報工学専攻情報工学コース	鈴木 翔
7	愛媛大学大学院理工学研究科	電子情報工学専攻 ICT スペシャリスト育成コース	山口 晃右
8	高知大学理学部	応用理学科 情報科学コース	三宮 廣海
9	高知大学大学院	総合人間自然科学研究科理学専攻(修士課程)	小池 柁伎
10	徳島大学工学部	電気電子工学科	腹岡 塁
11	徳島大学工学部	電気電子工学科	三田 明範
12	徳島大学工学部	知能情報工学科	堀内 拓磨
13	徳島大学工学部	光応用工学科	妹尾 健太郎
14	徳島大学大学院先端技術科学教育部	博士前期課程システム創生工学専攻電気電子創生工学コース	武内 将希
15	徳島大学大学院先端技術科学教育部	博士前期課程システム創生工学専攻電気電子創生工学コース	近澤 隆啓
16	徳島大学大学院先端技術科学教育部	博士前期課程システム創生工学専攻知能情報システム工学コース	川野 賢一
17	徳島大学大学院先端技術科学教育部	博士前期課程システム創生工学専攻光システム工学コース	岡田 真央
18	香川大学工学部	電子・情報工学科	赤井 優志
19	香川大学工学部	電子・情報工学科	石井 怜央
20	香川大学工学部	知能機械システム工学科	北崎 友哉
21	香川大学大学院工学研究科	信頼性情報システム工学専攻	大西 孝明
22	香川大学大学院工学研究科	知能機械システム工学専攻	小野 瑛人
23	徳島文理大学理工学部	電子情報工学科	陶山 瑞樹

24	高知工科大学	システム工学群	猪岡 柚香
25	高知工科大学	情報学群	近藤 直季
26	高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻修士課程	電子・光システム工学コース	中嶋 慶
27	高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻修士課程	情報システム工学コース	松本 拓也
28	四国大学経営情報学部	メディア情報学科	阿路斯
29	阿南工業高等専門学校	電気電子工学科	ビバットパーコン・パティヴェート
30	阿南工業高等専門学校	制御情報工学科	森下 誠
31	阿南工業高等専門学校専攻科	電気・制御システム工学専攻	本木 健斗
32	高知工業高等専門学校	電気情報工学科	中山 拳杜
33	高知工業高等専門学校専攻科	機械・電気工学専攻	水野 裕晴
34	新居浜工業高等専門学校	電気情報工学科	飯田 将貴
35	新居浜工業高等専門学校	電子制御工学科	鈴木 大輔
36	新居浜工業高等専門学校専攻科	電子工学専攻	福山 舟
37	香川高等専門学校	電気情報工学科	西崎 裕哉
38	香川高等専門学校	機械電子工学科	松端 咲良
39	香川高等専門学校専攻科	創造工学専攻	岡本 真由子
40	香川高等専門学校	通信ネットワーク工学科	旭 瑞歩
41	香川高等専門学校	電子システム工学科	岡本 昌也
42	香川高等専門学校	情報工学科	関口 晃樹
43	香川高等専門学校専攻科	電子情報通信工学専攻	味元 汰樹
44	弓削商船高等専門学校	電子機械工学科	高垣 克成
45	弓削商船高等専門学校	情報工学科	村上 陸

10. 九州支部

2017年度は、既存の事業の他、新たな事業を企画し、支部活動を促進していった。

10-1 事業概要

2017年度の諸事業は年度当初の計画に沿ってそれぞれ実施した。

10-1-1 一般事業（新定款第4条ロ号）

- ア. 講演会：一般講演会10回を開催した他、協賛・後援の講演会、シンポジウムを10件行った。
- イ. 専門講習会：大分市にて「音響信号処理の最前線」という演題に3名の講師を招聘し講演頂いた。参加者は52名と盛況であった。
- ウ. ワークショップ：アンテナ伝搬研究会と共催にて、アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ「アンテナ伝搬基礎講座(第14回)」(KK-14)を福岡工業大学にて2日間開催し、企業、大学関係者など参加者46名と盛況であった。
- エ. 電気・情報関係学会九州支部連合大会：琉球大学にて2日間に渡り開催された。参加者は一般講演数478件、企業講演1件、招待講演2件、聴講者220名を数え大変盛況であった。
- オ. 創立100周年記念事業：100周年特別講演会を6月に講師3名を招聘し開催、また9月の支部連合大会内にて講師1名を招聘し当支部主催にて特別講演会を開催、11月に熊本市にて「～地域におけるITCの未来について考える～」をテーマに、パネルディスカッションを2回、および防災関連の展示、キッズプログラミングの体験コーナーを開催。200名程度の参加者を数え盛況であった。

10-1-2 教育事業（新定款第4条ロ、へ号）

- ア. 子供の科学教室：九州産業大にて「お手軽電子工作」をテーマに、講演とラジオと手作りモーターの作成、ワンセグ放送施設の見学を行った。小中学生23名と保護者17名の親子に参加いただき好評を得た。
- イ. 科学体験プロジェクト：熊本高専と共催にて、科学技術に触れる機会の少ない郡部地域の小中学生の科学技術に対する興味関心を喚起することを目的として「おもしろ科学体験プロジェクト in 天草」をテーマに、プログラミング入門や電子工作、電子実験な

ど9のテーマを実施。144名の小中学生と79名の保護者に参加いただき大変好評を得た。

- ウ. ものづくり教室：有明高専と共催にて「第12回エレクトロニクスもの（価値）づくり体験教室 たのしいラジオづくり♪FMたんとを聴いてみよう！」をテーマに開催。FMラジオ作成と「FMたんと」の生出演を行った。小中学生20名と保護者12名に参加いただき大変好評を得た。また当日は、開催について地元新聞紙に掲載された。

10-1-3 学生会事業（新定款第4条ロ、ホ、ヘ号）

- ア. 学生会講演会：学生員で組織された学生実行委員会を中心に、琉球大にて講演会を開催し、119件の講演と9件の国際ポスターセッションが行われ、高専生から院生まで幅広い学生が多数参加し、大変盛況であった。
- イ. 学生ランチ交流会：学生会講演会の会場にて、各学生ランチ代表者が参加者に向けて活動報告のポスターセッションを行い、学会活動についての周知を図った。また、学生ランチ委員会を開催し、各ランチ同士の情報交換および交流を図り大いに有意義であった。
- ウ. 学生ランチ：10ランチが活動し、各自講演会や交流会などの活動を行った。

10-2 選奨に関する事項（定款第6条ホ号）

10-2-1 2017年度 連合大会講演奨励賞

「電気・情報関係学会九州支部連合大会における講演奨励賞」表彰規程に基づき下記8名を選定し、2018年1月付けにて表彰した。（順不同、敬称略）

表彰者名	所 属	演 題
山中 友輔	九州大学大学院システム情報科学府 電気電子工学専攻	光-テラヘルツ波メディア変換手法の提案
八尋 俊希	九州大学大学院システム情報科学府 情報知能工学専攻	Shapelet に基づいた文字認識
古賀 映人	熊本大学大学院自然科学研究科 情報電気電子工学専攻	鋸身の3次元軌跡解析による鋸引きの技能評価
嶽本 隼也	熊本大学大学院自然科学研究科 情報電気電子工学専攻	サポートベクターマシンによる運動イメージの分類：事象関連脱同期/同期と筋感覚的/視覚的運動イメージ
山本 広太	宮崎大学大学院工学研究科工学専攻	時間領域並列有限要素法に基づく大規模音響解析の研究・開発
今村 優希	鹿児島工業高等専門学校 機械・電子システム工学専攻	インクジェット法を用いて作製した有機透明導電膜の表面粗さの改善
熊川 瑛至	鹿児島大学大学院理工学研究科 情報生体システム工学専攻	等尺性つまみ運動における運動調節に関する研究
中屋敷 侑生	大分大学大学院工学研究科工学専攻 電気電子工学コース	並列接続されたスイッチ素子の駆動タイミングを同期させるためのゲートバイアス加算回路

10-2-2 2017年度 貢献賞

電気・情報関係学会九州支部連合大会における貢献賞の表彰規程に基づき下記1名を選定し、2018年1月付けにて表彰した。（順不同、敬称略）

表彰者名	所 属	演 題
瀬川 隆央	アンリツ株式会社 計測器営業本部 営業推進部	最新ベクトルネットワークアナライザの技術動向

10-2-3 2017年度 学生会講演奨励賞

学生会表彰規程に基づき下記13名を選定し、2018年1月付けにて表彰した。

(順不同、敬称略)

表彰者名	所 属	演 題
永津 雄一	大分大学大学院工学研究科 工学専攻 修士1年	太陽光発電システムにおける部分影の影響とその対策
村里 拓弥	大分大学工学部電気電子工学科 学部4年	太陽光発電システムの高精度のMPPT制御
村上 裕亮	大分大学大学院工学研究科 工学専攻 修士2年	Small Signal Characteristics of PFM Controller with Hysteretic Comparator
久保 恭介	九州工業大学情報工学部 電子情報工学科学部4年	色特徴量を用いた人物検出のための画像処理システムの実装

鈴木 智也	九州工業大学情報工学部 電子情報工学科学部 4年	産業用無線 LAN を用いた位置推定のための高精度時刻同期手法の FPGA 実装
陳 超	早稲田大学大学院情報生産システム研究科集積システム分野 修士 2年	A proposal of semi-supervised learning for improving recognition accuracy
森 慶明	佐賀大学大学院工学系研究科 電気電子工学専攻 修士 1年	マイクロストリップ線路における遠端クロストーク低減技術の検討～コンデンサ付加～
西内 俊哲	近畿大学大学院産業理工学研究科 産業理工専攻 修士 1年	無線接続履歴を用いた学生の行動パターン可視化について
三股 清司	長崎大学大学院工学研究科 総合工学専攻 修士 1年	ダイポールアンテナを利用したコンクリートの電気定数分布の測定と試験体の改良
石堂 光芳	佐世保工業高等専門学校専攻科複合工学専攻情報工学系 専攻科 2年	CNN を用いた風景画像からの文字列抽出に関する基礎研究
白澤 夏樹	鹿児島工業高等専門学校電子制御工学科高専 5年	Kinect を用いた体調判断システムの研究開発
衛藤 凌一	琉球大学工学部情報工学科 学部 4年	遺伝的アルゴリズムと藤崎モデルを用いる単語音声生成モデルにおける音源情報の模倣
内嶺 佑太	沖縄工業高等専門学校専攻科創造システム工学専攻電子通信システム工学コース 専攻科 2年	GeO ₂ /SiO ₂ 界面を有するMOSFETプロセスの検討

10-2-4 2017 年度 成績優秀賞

学生会表彰規程に基づき下記の 56 名を選定し、2018 年 3 月付けにて表彰した。

(順不同、敬称略)

表彰者	学 校	表彰者	学 校	表彰者	学 校
金田 純也	久留米工業大学	薬師寺 修平	大分大学	山下 寛文	佐世保工業高等専門学校
坂本 啓維	宮崎大学	吉丸 弘佑		坂本 一樹	有明工業高等専門学校
藤 竜成		木元 亮太			
岳村 拓哉	近畿大学	元山 航	第一工業大学	平川 智也	久留米工業高等専門学校
丸山 健太		戸村 日向	長崎総合科学大学		
酒井 佑樹	九州工業大学	久松 朋史	長崎大学	若松 健介	都城工業高等専門学校
赤瀬 拓		畑中 美里			
長井 克海	九州工業大学	井出 優貴	福岡工業大学	松田 健太	沖縄工業高等専門学校
山田 龍彦		安部 裕人			
梶原 弥樹		岩本 拓巳			
佐々木 匠	九州産業大学	石原 義大	福岡大学	森下 優香	熊本高等専門学校
園山 健之		草場 志帆里			
山口 貴大	九州大学	白石 亮太	福岡大学	木田 遼	大分工業高等専門学校
生駒 真也	東海大学	田代 智也		溝上 友貴	
福留 浩太	熊本大学	宮里 遼	琉球大学	宇都 和真	鹿児島工業高等専門学校
生山 達也	佐賀大学	長野 陸	北九州市立大学	長谷川 慶	
小野 恭平		片渕 菜美	梶島 康平	西日本工業大学	内田 和志
森 健浩	崇城大学	小牧 平知	鹿児島大学	佐々木 捷	北九州工業高等専門学校
安東 史織		波多腰 慎矢		新山田 公平	
中崎 大介					

10-2-5 2017 年度 学術奨励賞

学生会表彰規程に基づき下記の 25 名を選定し、2018 年 3 月付けにて表彰した。

(順不同、敬称略)

表彰者	所 属	表彰者	所 属
王 子杰	早稲田大学理工学術院大学院 情報生産システム研究科 情報生産システム工学専攻	高橋 和生	福岡工業大学大学院工学研究科 情報通信工学専攻
東 勇	宮崎大学大学院工学研究科 工学専攻	山本 達貴	福岡大学大学院工学研究科 電子情報工学専攻

山崎 直人	近畿大学大学院産業理工学研究科産業理工学専攻	比嘉 聖	琉球大学大学院理工学研究科情報工学専攻
松藤 諒太	九州工業大学大学院工学府電気電子工学専攻 システムエレクトロニクスコース	張 芹	西日本工業大学大学院工学研究科生産・環境システム専攻
手柴 弘樹	九州工業大学大学院情報工学府先端情報工学専攻	小川 拳史	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科情報工学専攻
松崎 陽平	九州産業大学大学院工学研究科産業技術デザイン専攻	竹永 拓海	有明工業高等専門学校専攻科生産情報システム工学専攻
山中 友輔	九州大学大学院システム情報科学府電気電子工学専攻	久高 優也	沖縄工業高等専門学校専攻科創造システム工学専攻 電子通信システム工学コース
西山 瞳子	熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻	樋口 佳奈	熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻
山口 優太	佐賀大学大学院工学系研究科電気電子工学専攻	上村 泰広	鹿児島工業高等専門学校専攻科電気情報システム工学専攻
芝 優希	鹿児島大学大学院理工学研究科情報生体システム工学専攻	前花 拓海	大分工業高等専門学校専攻科電気電子情報工学専攻
三浦 伊織	大分大学大学院工学研究科工学専攻知能情報システム工学コース	馬場 康平	佐世保工業高等専門学校専攻科情報工学系
荻野 雅紀	長崎総合科学大学大学院工学研究科電子情報学専攻	猿橋 拓弥	北九州工業高等専門学校専攻科生産デザイン工学専攻
平山 克利	長崎大学大学院工学研究科総合工学専攻 電気電子工学コース		

以上

IV. 2017年度役員及び代議員の構成

2017年度役員

29名

役 職 名	先 任	後 任
会 長	篠原 弘道	
次期会長	安藤 真	
副会長（学術強化担当）	森川 博之	中野 義昭
副会長（学会運営・組織強化担当）	安浦 寛人	佐古 和恵
総務理事	辻 ゆかり	堀 修
会計理事	喜多 泰代	浅井光太郎
編集理事	高田 潤一	糸田 純
企画理事	杉山 一雄	山中 直明
調査理事	石川 悦子	河東 晴子
編集長（理事）	津田 俊隆	
企画戦略室長（理事）	江村 克己	
規格調査会委員長（理事）	浅谷 耕一	
ESS 会長（理事）	今井 浩	
CS 会長（理事）	守倉 正博	
ES 会長（理事）	植之原裕行	
ISS 会長（理事）	中村 裕一	
ESS 次期会長（理事）	岡 育生	
CS 次期会長（理事）	漆谷 重雄	
ES 次期会長（理事）	粕川 秋彦	
ISS 次期会長（理事）	相澤 清晴	
監 事	山本 博資	土井美和子

2017年度代議員

105名

秋葉 友良	梅比良正弘	黒岩 丈介	新保 一成	中野 義昭	水波 徹
浅井光太郎	江村 克己	黒田 吉広	杉山 一雄	仲村 泰明	美濃 導彦
浅谷 耕一	大石 進一	桑原 秀夫	鈴木 博	中村 裕一	宮永 喜一
安達 文幸	大槻 知明	高坂 拓司	曾根 秀昭	中山 裕之	宮本 裕
荒木 純道	大橋 弘美	小柴 正則	高田 篤	中山 正敏	村田 正幸
有吉 正行	大平 孝	小西 善彦	高田 潤一	灘 英輝	本島 邦明
安藤 真	岡崎 康敬	小林 岳彦	竹内 勇剛	西 正博	森川 博之
飯島 淳彦	小川 恭孝	斎藤 英雄	多田 哲生	西原 基夫	守倉 正博
石川 悦子	香山 瑞恵	坂井 修一	谷合 由章	蜷川 繁	安浦 寛人
石田 亨	川添 雄彦	酒井 善則	谷口倫一郎	橋本 修	保田 佳之
石原 智宏	川村龍太郎	佐々木宣介	中條 直也	長谷山美紀	山尾 泰
伊東 匡	菊池 仁	笹瀬 巖	辻 ゆかり	東野 武史	山崎 眞見
伊藤 良生	喜多 泰代	佐藤 健一	津田 俊隆	枚田 明彦	山本 博資
井原 雅行	北村 拓也	佐波 孝彦	筒井 弘	平野 学	横内 則之
茨木 久	木竜 徹	三瓶 政一	常光 康弘	廣岡 俊彦	和田山 正
今井 浩	久我 守弘	汐崎 充	土井美和子	藤原 融	
植之原裕行	工藤 栄亮	篠原 弘道	中沢 正隆	松村 務	
植松 友彦	蔵田 武志	柴山 純	永妻 忠夫	松本隆太郎	

V. 2018 年度役員候補者及び代議員の選挙

2018 年度役員候補者（規則第 5 章）及び代議員（定款第 5 条 3 項及び 6 項）の選挙は、2018 年 2 月 6 日～3 月 6 日に Web による投票で実施した。

-----< 参 考 >-----

2018 年度代議員

109 名

相澤 清晴	上嶋 明	國廣 昇	菅谷 至寛	永妻 忠夫	本島 邦明
相田 仁	植之原裕行	栗田多喜夫	杉山 一雄	中野 義昭	森川 博之
青柳 雄二	植松 友彦	小柴 正則	鈴木 博	中村 裕一	守倉 正博
浅井光太郎	梅比良正弘	後藤 由貴	関屋 大雄	新井田 統	安浦 寛人
浅谷 耕一	漆谷 重雄	小林 岳彦	全 炳東	西原 基夫	保田 佳之
阿部 貴志	越前 功	小林 弘幸	大道 文雄	橋本 修	山尾 泰
荒川 太郎	江村 克己	坂井 修一	高田 潤一	長谷川幹雄	山口 芳雄
安藤 真	大石 進一	佐古 和恵	高橋 康宏	原 晋介	山中 直明
石川 悦子	大橋 弘美	佐々木伸一	高藤 大介	平山 裕	山本 博資
石田 亨	岡 育生	笹瀬 巖	田口 健治	藤田 広志	吉川 英機
石原 智宏	岡本 好弘	佐藤 健一	田窪 朋仁	堀 修	四柳 浩之
伊丹 誠	小川 勝	佐藤 潤二	田中 清史	松田 敏弘	リム 勇仁
伊東 匡	小川 恭孝	佐波 孝彦	張 力峰	松村 務	渡辺 理
伊東 栄典	押切 正浩	三瓶 政一	辻 ゆかり	峯松 信明	和田山 正
伊藤 隆範	粕川 秋彦	塩本 公平	津田 俊隆	美濃 導彦	
伊藤 敏彦	河東 晴子	敷田 幹文	都築 伸二	宮永 喜一	
糸田 純	川村龍太郎	篠原 弘道	寺田 純	村田 正幸	
茨木 久	喜多 泰代	柴崎 年彦	土井美和子	村田 嘉利	
今井 浩	金 ミンソク	末吉 敏則	中沢 正隆	村松 正吾	